

<b>海外実習(SAINTS)</b>	秋集中 4単位
担当者：村山 順吉	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>アメリカ合衆国ジョージア州アトランタにある、聖学院アトランタ国際学校 (SAINTS) の幼稚部で、約2週間の研修を行う。</p> <p>多文化の混在するアメリカ社会の中にある「SAINTS」には、普段家庭では中国語、フランス語、その他2種以上の言語を使用している、文字通り多言語、多文化の中で日常を過ごす子どもたちが多く通っている。このような生活環境にある子どもたちに対して、日本の教育・保育を活かしながらいわれている異文化間教育・保育の現場「SAINTS」では、特に英語と日本語という二つの言語、異なった文化を、それぞれ尊重しながら受容していく過程で、子どもたちもお互い同士のかかわり合いの中から、お互いを認め合って育ち合っていく。このような教育・保育実践のなかでの実習を通して、日本国内での実習とはまた違った多くのことに気づき、学ぶことが目的である。</p> <p>尚、この科目を履修するためには、4年次春学期の履修登録の時点で小学校教諭一種免許が取得見込みであること、または「幼稚園教育実習」が修得見込みであることと、いずれの場合も4年次の春学期まで卒業単位が修得見込みであることを条件とする。また、春学期終了時に上記の条件がクリアできなかった場合には、履修取り消しとする。</p>	
<b>評価方法</b>	
研修の態度と帰国後のレポートをもって行う。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>海外文化交流研修(アジア) B</b>	秋集中 2単位
担当者：村松 晋/柳田 洋夫/溝口 カブスン	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>9月初めに実施する約10日間の韓国研修旅行を中心に、事前の「日韓交流史および韓国語」集中授業(夏期休暇中に実施)、及び、研修旅行後の研修レポートを通じて総合的に日本と韓国との文化交流の歴史と現在を学ぶものである。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>1～4年生対象の〈比較文化系統〉の専門科目。この研修が学生諸君にとって学生時代における、尊く、かけがえのないものとなることを願ってやまない。さらには、そうした体験を得る学生たちを送り出すことが、日本文化学科としての財産ともなるものである。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>研修旅行においては提携校である啓明大学校との交流(交流会等)をメインに、韓国ヒト、モノ、コトに実際に触れ、関わることで直接的な「異文化体験」をすることになる。その体験は、学生個々の体験として、あるいは共に参加する学生たちのお互いの共有体験として、将来にわたって貴重なものとなるであろう。</p>	
<b>評価方法</b>	
事前集中授業、研修旅行のすべてに出席し、かつ最終レポートを提出すること。事前事後の会合への出席状況も加味する。集中授業:20% 研修及び研修レポート:60% その他研修後の発表など:20%	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>会計学</b>	秋 週2回 4単位
担当者：成川 正晃	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>会計情報は、受託責任を明らかにしたり、意思決定に役立つ情報を提供したり、様々な利害関係者の利害を調整するのに用いられます。このような会計情報の作成原理や、利用方法を学ぶのが会計学です。講義では、なるべく具体的な例を用い、絶えず現実の経済事象を意識できるように工夫して進めていきます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>この科目は、専門科目の一つとして経済事象を理解するための基礎的考え方を把握するための授業です。また、会計学は組織経営の実学としての側面を有しています。したがって、他の教科で学んだ理論等の応用形態を実際に垣間見る科目であるともいえます。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>会計学では、会計情報の作成原理を理解するとともに、その利用方法を学習していきます。したがって、会計学の一端を学習することで、企業人としての基礎を身に付けたこととなります。具体的には、企業の各種財務資料の作成から、分析方法まで学習していきます。このことにより、「企業を見る目を養う」というのが会計学を学ぶ目標となります。</p>	
<b>評価方法</b>	
評価点(100%)=課題・出席点(50%)+定期試験(=レポート試験)点数(50%)	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>介護概論</b>	春 週1回 2単位
担当者：高山 法子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護の概念や対象及びその理念等について理解する。</li> <li>・ 介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。</li> <li>・ 終末期ケアの在り方(人間観や倫理を含む。)について理解する。</li> </ul>	
<b>評価方法</b>	
出欠・授業態度・レポート・期末試験による総合評価とする。	
<b>教科書</b>	
社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座第13巻 高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規出版	

<b>介護技術</b>	秋 週1回 2単位
担当者：高山 法子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>寝たきり高齢者や疾病・障がいをもつ人々の生命を維持させ、その方々が快適な生活を営むことができるよう支援するための直接的・間接的な介護の技術の理論と方法の基礎を学ぶ。</p> <p>1) 生活を整えるために必要な介護の技術と技法を理解する。</p> <p>2) 利用者の立場にたって、安全・安楽を配慮した基礎的な介護の技法を習得する。</p> <p>3) 利用者が自立（自律）するための援助方法、及び個別への対応の重要性について考えを深める。</p>	
<b>評価方法</b>	
出欠・授業態度・レポート・期末試験による総合評価とする。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>介護実習</b>	春 週1回 1単位
担当者：高山 法子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>習得した専門的な知識や技術に基づいて、施設や地域で生活している利用者の人間的なかわりを深める。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>1) 「生活の場」で人権感覚を磨く。</p> <p>2) 個人の尊厳と社会連帯の精神を理解する。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>人間的なかわりを通して、利用者のニーズを理解し、人権擁護の立場から、人が自分らしく、また、自律的に生きていくための支援のあり方について学ぶ。</p>	
<b>評価方法</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート・実習記録(60点)</li> <li>・出席(20点)</li> <li>・授業態度(宿題含む)(20点)</li> </ul>	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>介護等体験及び事前事後指導</b>	通年集中 2単位
担当者：山口 圭/高山 法子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>小学校及び中学校の義務教育の教員免許状を申請しようとするときには、「介護等体験特例法」に基づく介護等の体験に関する証明書の添付が義務づけられた。この法律は「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者や高齢者等に対する介護、介助や、これらの人達との交流等の体験を行わせること」を目的としている。「介護等体験」において留意しなければならないことは、福祉施設に出かけて介助を行えば、自ずと「思いやり」や「やさしさ」が身につくものではないということである。様々な人びとのかかわりのなかで、常に「相手の立場に立って物事を考える」姿勢が求められている。</p> <p>事前事後指導では、福祉サービス利用者の立場に立った介護の在り方について考えるとともに、人間の尊厳を守るための具体的な介護実践を学ぶ。</p> <p>※2201教室は、土足厳禁であるので、上履きを用意しておくこと。また、介護技術の演習を数回行なう予定である。その際、動きやすい服装で参加すること。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席状況・コメント・受講態度(50%)、実習態度・実習記録(50%)により総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>カウンセリング論</b>	秋 週2回 4単位
担当者：未定	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>今日カウンセリングは、医療、教育、司法、産業領域など、様々な分野で応用されている。本講義では、で行われている心理カウンセリングに関する基礎的な知識を学習する。実際のロールプレイングによる体験学習を取り入れながら、カウンセリングの基本的態度や専門性に関わる問題を学ぶ。初めてカウンセリングを学ぶ人を対象とした授業であり、カウンセリング、および心理学に関する基本的な知識と技術を習得すること、また自己理解を深めることを目指している。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>本講座は、人間福祉学科、心理系、基礎～応用科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>本講座は初めてカウンセリングを学ぶ人を対象とした入門編である。実際にロールプレイなどによって、カウンセリングがどのようなものなのか、授業を通して肌で感じてもらいながら、体験的にカウンセリング技法を習得することを目指す。</p>	
<b>評価方法</b>	
平常点(授業への参加、作業への取り組み、授業時に出された課題の提出)50%、および期末レポート(もしくはテスト)50%によって評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

書き方表現応用講座		秋	週1回	1単位
担当者：高桑 佳與子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈内容〉 漫然と文を書いていると、文章は上手くなりません。随想文、手紙文、レポート、エントリーシート・・・、楽しい文、真面目な文・・・いろいろな文章に対応できる力をつけます。自分が書きたいことは何かという基本を押さえ、言葉・文体の重要性や論の運び方等工夫を凝らして、力のある文章が書けるようになっていきます。なるべく多くの回数書き、添削して返却します。</p> <p>年度によって、後半の授業内容は変化させています。レポートの書き方実践として、新聞の切り抜き資料を分類整理したり、アンケート用紙を作成しデータを集計した年度。パンフレットの作成をした年度もあります。昨年は、情報誌の記事を想定、各人が学内を取材し文章スタイルを考えて書くという作業をしました。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉基礎教育入門（書き方）の学習を生かしながら、更に「書く力」を応用発展させる講座です。</p> <p>〈学びの意義と目標〉今、みなさんが持っている「書く力」をレベル・アップしていくこと、読み手の印象に残る文章を書く力をつけることが目標です。社会に出てからも役立つ文章力、きちんとした“良い形で”相手に伝わる文章を作成する力をつけましょう。</p>				
<b>評価方法</b>				
授業参加・授業時提出物60% 最終課題提出物40%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

書き方表現応用講座		秋	週1回	1単位
担当者：松村 良				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1、内容</p> <p>授業時間内に与えられた作文課題を書き、それについての講義やアドバイスを受けることで、文章の書き方について実践的に学習する。課題の中には、何を書くかを自分で選択し、話題を絞り、主題を決めなければならないものもある。また、論拠となる文献資料を集めたり、調査を行ったりする場合もある。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ</p> <p>2年生以上の選択科目であり、文章表現の基礎を学んだ学生が、さらにレポートや論文を書くための技術を身につけるためのものである。</p> <p>3、学びの意義と目標</p> <p>この授業では、より実践的な「文章表現の技術」を身につけることを目標とする。具体的には、出来るだけ簡潔な表現で自分の考えをまとめ、自分の考えの根拠をはっきりと示し、読み手の立場に立ったわかりやすい説明や、論理的な構成を心掛けることである。</p>				
<b>評価方法</b>				
成績は、作文その他の提出物による評価80%、出席20%で算出する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

学習指導と学校図書館		秋	週1回	2単位
担当者：米谷 茂則				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(1)内容</p> <p>学習指導と学校図書館のかかわりを考えていくとともに、児童生徒の情報活用能力育成のための指導の基本を理解する。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ</p> <p>司書教諭資格取得に資する5科目のうちの1科目である。</p> <p>(3)学びの意義と目標</p> <p>児童生徒自らが学習テーマを設定し、学校図書館機能を駆使してテーマに適したメディアを収集・選択して調べ、まとめ、自分の考えをも含めて発表までできる能力が身に付くように、その指導能力を身につけることが目標である。</p>				
<b>評価方法</b>				
平常点（発表など：20%）、ノート記録の提出とその内容（30%）、最終試験（レポート＝学習指導案の作成：50%）。15回全出席が原則である。8割以上の出席がレポート提出の条件である。遅刻をしないこと。3回の遅刻で1回の欠席と見做す。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

家族援助論		春	週1回	2単位
担当者：佐藤 千瀬				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容 および 3. 学びの意義と目標</p> <p>本講義は、1. 保育所のもつ「子育て支援」を重要な社会的役割として理解し、児童・親を含めた家族が保育の対象であること。2. 「子育て支援」は保育所だけでなく、その他の児童福祉施設の親についても同様に必要とされること。3. 現在の家族を取り巻く社会環境における家庭生活、とくにその人間関係（夫婦・親子・きょうだい）のあり方を理解すること及びそれをふまえて適切な「相談・助言」を行うことは「子育て支援」のために欠かせないものであること。4. これらの1～3の内容を踏まえ、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援対策を提供するため、児童福祉の基礎となる家族の福祉を図るための種々の援助活動及び関係機関との連携について理解することを目的としている。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>本講義は、保育士資格取得のための必修科目である。</p>				
<b>評価方法</b>				
平常点 30% 授業時の課題・小テスト 70%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

<b>家族社会学</b>	秋 週2回 4単位
担当者：中谷 茂一	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>「真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」という聖書の有名な一節は、家族について再考する意義についても示唆に富む。「家族」とはあまりにも身近で自己の経験と密接な関係であるため、個人の意識に影響を与えたり、時に束縛している構造を見えにくくする。</p> <p>本講義では、文献やデータを参照しながら、家族に関するかたちや意識の多様性を知ると同時に、自分もつ価値観から一步離れ相対化できるように、履修者とともに私も自己の視点を再検討しながら考えていきたい。</p> <p>家族社会学の知見にふれディスカッションすることで、それぞれが自分にとっての真理を得て、今後のライフスタイルの選択の際にながしかの参考となれば幸いである。</p> <p>授業形態は、講義とビデオを素材とし、ディスカッションする時間を多くとる。</p> <p>2年次以降の専門的な学習を深める上で家族・子どもに関する基礎的な知識と社会学的思考を修得する専門科目である。</p>	
<b>評価方法</b>	
(1)学期末試験、(2)ディスカッション参加状況、(3)小レポート、3点の総合評価。	
<b>教科書</b>	
岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』有斐閣	

<b>家族心理学</b>	春 週2回 4単位
担当者：水本 深喜	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>家族心理学の領域では、現代の家族の特徴や問題に関して様々な研究がなされている。そして家族の問題は、家族成員のこころの問題にも深く関わっており、家族を視野に入れた心理臨床的支援がなされている。「家族心理学」の講義では、特に夫婦関係、親子関係に焦点を当て、「データ編」では家族に関する研究を紹介し、それらから読み取れる現代の家族の特徴や問題について考えて行く。そして「ケース編」では、家族の問題に起因するこころの問題をどのように捉え、どのように支援したらよいかについて考える。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>福祉の場において、支援の対象者を家族関係も含めて理解し、支援するための基礎的な知識を得ることができる。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>身近な存在であるがゆえに客観視することが難しい家族との関係について客観的に考えることは、他者理解のみでなく自己理解にも繋がる。また、本講義が、研究データを読み取って解釈し、それを支援に繋げることを考える機会となることを期待する。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席点 (20%) と筆記試験 (80%) から評価する。	
<b>教科書</b>	
柏木恵子・平木典子『家族の心はいま』東京大学出版会	

<b>学校経営と学校図書館</b>	春 週1回 2単位
担当者：斉藤 規	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>学校図書館の理念と学校教育における学校図書館の果たす役割を明確にする。学校図書館と教育行政との関わり、学校図書館経営のあり方、学校図書館メディアの選択、収集、管理、更新、司書教諭の任務など学校図書館の基本的な役割について考察し理解を図る。司書教諭が学校図書館経営の責任者であることの認識を促す。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席3分の2を満たさないものは単位取得不可。その他、提出物、考查点を併せ総合的に評価。	
<b>教科書</b>	
図書館教育研究会『新学校図書館通論 三訂版』学芸図書株式会社	

<b>学校図書館メディアの構成</b>	春 週1回 2単位
担当者：若松 昭子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>学校図書館の利用者が必要としている様々な情報メディアの特性とその効果的な収集方法、また、日本十進分類法、件名標目表、日本目録規則、書誌ユーティリティ、オンライン目録などを用いた効果的な資料組織化の理論と方法を学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>学校図書館司書教諭の資格科目・児童学科の専門科目</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>学校図書館における適切な資料の選択・収集とその体系化は、学校教育の中心となりうる充実した学校図書館を創造するための基盤である。授業では、学校教育に必要とされる多様な情報メディアの特性を理解し、資料選択の理念と効果的な収集の方法、さらにそれらを有効に活用するための組織化の理論について理解する。また、実際に組織化を体験することによって、資料組織化の具体的な技法を体得できるようにする。</p>	
<b>評価方法</b>	
試験またはレポート40%、毎回の授業時の課題40%、出席状況(単なる出席点ではなく平常の授業態度) 20%	
<b>教科書</b>	
『学校図書館メディアの構成』全国学校図書館協議会	

<b>家庭</b>	秋 週1回 2単位
担当者：馬場 由子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>自分の生活と持続可能な地球環境の関わりを考える学習を通して、生活者としての自覚と判断力、実践力を育てる。目の前のエコから、食材の向こうに見える世界にも視野を広げ、購入から調理、ゴミ捨てまで見通す持続可能な地球環境の視点を取り入れた調理実習「サステナブルクッキング」も紹介する。生活を大切にしながら、情報を適正に読み取り、主体的に判断し、行動できる生活者を育てる授業実践を基に、実習や模擬授業も行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>小学校教諭資格取得のため、家庭科教育の基本理念を理解し、指導力の向上を図る。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>家庭科の学びを通し未来を担う自立した生活者を育てることを目指す。調理や裁縫を生活者に必要な技や知恵として評価し直し、賢い消費者として選ぶ目と作る手を育て、時代の要請に応える。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席30%、提出物（レポート、指導案、作品等）50%、試験20%により算出する。	
<b>教科書</b>	
文部科学省『小学校学習指導要領解説家庭編』東洋館出版 『小学校5・6年わたしたちの家庭科』開隆堂 馬場由子『新版 身近な消費生活と環境（教師用）』地域教材社	

<b>家庭科教育法</b>	秋 週1回 2単位
担当者：馬場 由子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>A家庭生活と家族、B日常の食事と調理の基礎、C快適な衣服と住まい、D身近な消費生活と環境の指導内容を関連させて学びをつくり、持続可能な地球環境に配慮しながら生活を楽しく豊かにする知恵と技を育てる。自分の考えや判断を生かして主体的に生きるための作る手を育てるとともに、実践力育成のためのオリジナル単元開発や模擬授業も行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>家庭科教育の基本理念を指導実践に生かす力を養うことを目的とした講座である。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>新学習指導要領に理念の共有が謳われた「生きる力」を育むうえで、家庭科は実践的に貢献できる可能性を最も有した教科だ。生きる力には思考力や判断力とともに、それを実行する知恵と技が不可欠。消費者基本法で「選択する権利」を保障されていても、自分で作ることが出来なければ、買うという選択肢しかない。未来を担う自立した生活者として、生きる力という車の両輪である「選ぶ目」と「作る手」を育てる。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席30%、提出物（レポート、指導案、作品等）50%、試験20%により算出する。	
<b>教科書</b>	
文部科学省『小学校学習指導要領解説家庭編』東洋館出版 『小学校5・6年わたしたちの家庭科』開隆堂 馬場由子『新版 身近な消費生活と環境（教師用）』地域教材社	

<b>カナダ文化演習</b>	秋集中 4単位
担当者：D. バーガー	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>University of Victoria（認定校）</p> <p>ブリティッシュ・コロンビア州の首都であるビクトリア市に広大なキャンパスを擁するビクトリア大学の附置機関University of Victoria English Language Centreの協力によってカナダ文化をテーマにしたカリキュラムを編成している。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>基礎科目群の選択科目</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>この科目は実際に海外に赴き、授業及び生活をとおして異文化交流を体験し、英語でカナダ文化について学ぶ。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>1. 出発前準備講座・帰国報告会の出席 25%</p> <p>2. レポートとアンケートの提出 25%</p> <p>3. 現地研修校での成績 50%</p> <p>（研修終了後春学期の単位として認定）</p>	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>神と人間A</b>	春 週1回 2単位
担当者：野島 邦夫	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1)内容</p> <p>まず、現代の私たちが置かれている困難な諸状況のなかで、「人間はどうして大切なのか?」、「人間とは何だろうか?」を考えます。そこから、人間について根本的に考えようとするならヒューマニズム（人間中心主義）では不十分であることを示します。そしてキリスト教（神）の立場からこの問いを考えます。具体的には、聖書の幾つかの箇所（春学期は主に旧約から）を取り上げて神を知る人間と無視する人間の姿を見ていきます。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ</p> <p>聖学院大学はキリスト教精神を教育の基礎としています。この講義は、キリスト教と聖書についての初歩を教える基礎科目のひとつで、現代の諸問題とかかわらなくてはならない各専門分野で学びを進める土台の一つになるでしょう。</p> <p>(3)学びの意義と目標</p> <p>現代の諸問題と取り組むためにキリスト教は大きな力となります。聖書から「神と人」の問題を考え、そこからもう一度、キリスト教の視線で、いま私たちを取り巻く問題に立ち向かって考える「道しるべ」を示します。全体として聖書の概説にもなっています。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席と授業への取り組みの態度（20%）、礼拝レポート（20%）、期末試験（60%）の総合点で評価します。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>神と人間B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：野島 邦夫	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1) 内容          まず、現代の私たちが置かれている困難な諸状況のなかで、「人間はどうして大切なのか?」、「人間とは何だろうか?」を考えます。そこから、人間について根本的に考えようとするならヒューマニズム(人間中心主義)では不十分であることを示します。そしてキリスト教(神)の立場からこの問いを考えます。具体的には、聖書の幾つかの箇所(秋学期は主に新約から)を取り上げて、神を知る人間と無視する人間の姿を見ていきます。</p> <p>(2) カリキュラム上の位置づけ          聖学院大学はキリスト教精神を教育の基礎としています。この講義は、キリスト教と聖書についての初歩を教える基礎科目のひとつで、現代の諸問題とかかわらなくてはならない各専門分野で学びを進める土台の一つになるでしょう。</p> <p>(3) 学びの意義と目標          神を無視しては人間の問題は行きづまります。聖書から「神と人」の問題を考え、そこからもう一度、キリスト教の視線で、いま私たちを取り巻く問題に立ち向かって考える「道しるべ」を示します。全体として聖書の概説にもなっています。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席と授業への取り組みの態度(20%)、礼拝レポート(20%)、期末試験(60%)の総合点で評価します。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>環境衛生学</b>	秋 週1回 2単位
担当者：中村 馨男	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1) (内容)          水・空気・食品・土壌・日光・住居など、われわれの周囲の環境と健康との関連について考える。放射能・環境汚染・公害および地球環境問題についても言及したい。</p> <p>(2) (カリキュラム上の位置づけ)          「衛生学入門」、「公衆衛生学」、「環境衛生学」は一連の講義として、生命・健康・環境分野を学ぼうとする者が基本的知識と考え方を習得することを目標としている。講義は「衛生学入門」を履修していることを前提として進めるが、重要な基礎的知識は復習する。(教科書は「衛生学入門」、「公衆衛生学」と共通)</p> <p>(3) (学びの意義と目標)          疾病の最大原因は貧困である。この事実は現代でも変わっていない。貧困→不衛生→疾病→貧困の「悪循環」を理解することは、福祉を学ぶ基礎となる。近年問題となっている、食中毒、熱中症、電離放射線・紫外線と健康、環境汚染・公害、地球環境問題等についてもふれる。感染症の流行と環境の意外な関係なども理解することも目的とした。</p>	
<b>評価方法</b>	
1) 出席20% 2) 授業中態度(座席順を含む)20% 3) 毎回小テスト30%、4) 期末テスト30%	
<b>教科書</b>	
鈴木庄亮・久道茂『シンプル衛生公衆衛生学』南江堂	

<b>環境学</b>	春 週2回 4単位
担当者：村上 公久	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>キーワード：[人間—環境]系、地球環境問題、ガイアGaia、保続可能な(持続可能な)開発</p> <p>1. 内容          君たちが生まれた頃から現在まで、つまり君たちの平均年齢に相当する約20年間の間に私たちの地球の生命圏の環境は、急速に悪化しました。この間日本列島の約6倍の面積の熱帯の森林が失われ、中国の耕地面積に相当する陸地が砂漠化したのです。</p> <p>今日、世界的規模での最大の問題は、環境の急激な悪化による生命圏(生態圏)の全体的壊滅の危険、すなわち地球環境問題です。この科目では「ヒトと環境」が相互に影響し呼応し合うシステム[人間—環境]系を理解し、「ヒトと森林の関係」を例にとって考えます。かつては環境問題の問題意識の中心は産業公害でしたが、現在ではこの問題は国境を突破した生命圏全体の存続を懸けた「地球環境問題」として捉えられており、いわゆる公害問題はその一部として意識されています。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ          専門科目「環境保全論」履修の準備となる科目です。</p> <p>3. 学びの目標          NGOの果たす大きな役割を含め、私たちと生き物たちのこの世界を全体的な壊滅から救うほとんど唯一の戦略「保続的開発」の可能性を探ります。</p>	
<b>評価方法</b>	
学期中複数回の試験(60%)、出席状況(欠席が1/3を超えた場合は不合格)、討論によるクラスへの貢献(20%)、レポート(20%)を総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>環境政策論</b>	春 週2回 4単位
担当者：平 修久	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容          本科目は、20世紀の公害問題、自然環境破壊に対する反省を踏まえ、21世紀の主要課題の1つである環境問題に我々はどうのように取り組むべきなのかを学ぶ。まず、環境政策を考える基礎として、環境問題の特徴や環境に関する倫理的側面などを概観する。次に、廃棄物、水環境、大気質といった比較的身近な生活環境、そして自然環境を取り上げ、それらの環境問題の内容と対応策を学ぶ。最後に、都市の総合的な環境政策を学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ          本科目は、コミュニティ政策学科の専門科目であり、将来、公務員を目指す学生にとって重要な科目の一つである。公共政策論、地域社会論、まちづくり学などと合わせて学ぶと理解が深まる。</p> <p>3. 学びの意義と目標          環境は地域社会にとって非常に重要な要素であり、環境を保全し、次世代に継承していくことは我々にとっての責務である。社会人として、環境問題と対応策に関する知識を身につけることを学びの目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
課題(授業中の小テストなどを含む)、中間テスト(あるいはレポート)と期末テスト(あるいはレポート)の結果、出席点などを総合して評価する。配点は、課題が20%、中間テストと期末テストが各35%、出席点10%とする。(予定)	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>環境法</b>	秋 週2回 4単位
担当者：仲田 孝仁	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>〈講義内容〉(1)我が国では過去においてどのような公害・環境問題が発生したか、(2)それらの環境問題が生じた際、立法的な措置は十分であったか、(3)行政は、どのような対応をしたか、(4)公害・環境問題に対して、司法による解決は図られたかといった視点から個別的な問題を検討する。もちろん、個別の法律の仕組みについても論ずる。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉本講義は、いうまでもないが「法学」である。講義を受講する際は、憲法、民法、行政法といった基本的な科目を履修していることが望ましい。とはいえ、「環境法」の学問としての独自性を強調したいため、講義においては、「環境法」を考える上で必要な他の法律分野の知識は最低限フォローする予定である。</p> <p>〈目標〉授業では、講義内容に関連した映像を視聴させ、または、新聞記事など、講義内容に関連した資料を配付し諸君に意見を求める予定である。受講者に広く環境問題に関心を持たせ、かつそれらの映像等の内容について、諸君が各自環境問題を法的に分析できるレベルまで導きたいと考えている。最終的には、「環境法」の法的枠組みを理解させ、「法」という道具を用いることで、各人が環境問題への具体的解決策を導くための手がかりを与えることにある。</p>	
<b>評価方法</b>	
平常点を重視する。毎回、諸君にコメント・ペーパーを配布し、一週ごとに意見を求め、それを内容に応じ毎回10点として加点する。期末試験は実施するが、それは、平常点にその一定割合を加算する形で上乗せし、総合評価する。	
<b>教科書</b>	
阿部泰隆・淡路剛久『環境法 [第4版]』有斐閣ブックス	

<b>環境保全論</b>	秋 週2回 4単位
担当者：村上 公久	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>私たちの世界の滅亡を人の死に例えて「核戦争による滅亡を心臓発作による死、環境破壊による滅亡をガンの進行による死」とすれば、今日全面核戦争の脅威は軽減されつつありますが、自然・環境破壊は急速に進行中です。心臓発作の急死の危険はやや遠のきましたが、ガンが進行し体のあちこちに転移して拡大していることがはっきりしてきたのです。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>教養・総合科目「環境学」の内容を基礎として展開する内容を扱う専門科目。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>現在、国際機構、各国、自治体、地域の環境問題における最大の政策課題は、「経済成長か、環境か」のディレンマをめぐる合意形成とその妥当性の検討です。この科目では、まず環境史を学び、次に産業革命以後の環境問題を省みた上で、保続可能な(持続可能な)開発(Sustainable Development)を考えます。</p>	
<b>評価方法</b>	
学期中複数回の試験(60%)、出席状況(欠席が1/3を超えた場合は不合格)、討論によるクラスへの貢献(20%)、レポート(20%)を総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>観光地理</b>	秋 週2回 4単位
担当者：秋山 秀一	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>〈内容〉</p> <p>観光庁ができ、日本も、本格的に「観光立国」を目指すことになりました。この授業では日本の各地、並びに、ヨーロッパ、アメリカ、アジアの諸国における観光と地理について学んでいきます。フィルムツーリズム(観光と映画)、観光写真についても、具体的な話をします。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉</p> <p>国際理解を深める上でも、より理解度を高めることに大きく寄与します。</p> <p>〈学びの意義と目標〉</p> <p>卒業後どのような仕事に就こうと、国際理解を深めることは意義があり、重要なことです。実際に国内及び海外でのフィールドワークを通して得た映像、資料を活用します。それに、雑誌、テレビ等のメディアとのかかわりの中から、具体的な話をしていきます。出演した番組を事例に、テレビ、ラジオの旅番組の制作についての具体的な話もします。</p>	
<b>評価方法</b>	
日頃の授業への貢献度(30%)、出席状況(30%)、小レポート、それにまとめたレポート(40%)等から総合的に評価します。	
<b>教科書</b>	
秋山秀一『フィールドワークのススメーアジア観光・文化の旅』学文社	

<b>韓国語 I (初級 A)</b>	春 秋 週2回 2単位
担当者：奇 ジョンミン/金 三順/溝口 カブスン	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>韓国語の正しい発音を指導し、ハングル文字の読み方、書き方を教える。</p> <p>文法については「助詞」に重点を置く。</p> <p>また、韓国の歌を歌う、韓国映画の視聴をするなど、韓国文化に触れる機会を作る。</p> <p>講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>韓国語について全く知識のない段階からはじめる。入門者を対象とした初級講座</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>以下の能力を養成し、知識を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 韓国語で挨拶や初歩的会話をするための「聞き取り能力」「発音能力」</li> <li>2 「ハングル文字の習得」「助詞に対する知識」</li> <li>3 韓国文化理解の初歩的知識</li> </ol>	
<b>評価方法</b>	
出席を重視する(20%)。授業への参加態度、宿題で平常点(20%)をつける。学期末試験の点数(60%)とあわせて成績評価をする。	
<b>教科書</b>	
溝口甲順『アルギシウン韓国語』白帝社	

<b>韓国語Ⅱ (初級B)</b>	春 秋 週2回 2単位
担当者：奇 ジョンミン/溝口 カブスン	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 正確な発音に基づく反復指導をする。特に語彙を増やすことに重点を置く。 文法については「語尾変化」に力を入れ、韓国文化の紹介も行う。 授業は講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 「韓国語I」の既履修者及び同程度の知識を持つ者を対象とする。入門レベルに続き、初級レベルを完成させる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 以下の能力を養成し、知識を深める。</p> <p>1 韓国語で簡単な会話をする能力 2 初歩的な文章を読むための「文法知識」 3 韓国文化理解のための基礎知識</p>	
<b>評価方法</b>	
出席を最重視する (20%)。 授業への参加態度、宿題で平常点 (20%) をつける。 学期末試験の点数 (60%) とあわせて成績評価する。	
<b>教科書</b>	
溝口甲順『アルギシウン韓国語』白帝社	

<b>韓国語コミュニケーションA</b>	春 週2回 2単位
担当者：溝口 カブスン	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 正確な発音に基づく反復指導をする。特に、語彙を増やすこと発話力に重点を置く。 文法事項の復習も併行して行う。 また、韓国の現代社会・文化を理解するための映像教材を積極的に活用していく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 韓国語I・II履修者を対象にする。 意思疎通が自由に行えるレベルにコミュニケーション能力を高める。</p> <p>3. 学びの意義と目標 以下の能力を養成し、知識を深める。</p> <p>1 韓国語で簡単な日常会話をする事 2 そのために必要な言語知識を身に付けること 3 韓国の現代社会・文化に対する理解を深めること</p>	
<b>評価方法</b>	
出席を最重視する。(30%) 授業への参加態度、宿題・予告テストで平常点 (30%) をつける。 各自発表 (40%)	
<b>教科書</b>	
溝口甲順『入門ドリル 書いて簡単!韓国語』一藝社	

<b>韓国語コミュニケーションB</b>	秋 週2回 2単位
担当者：金 三順	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 韓国語Iまたは韓国語IIを履修した学生を対象にする。 会話を中心としながら、やや複雑な文型が理解できるように指定したテキストにそって学習していき、中でも特にコミュニケーション力を養うところに重点をおく。 合わせて、言語の背景にある文化や社会などの知識を広げていくために映像などの資料を通してより理解を深めていく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 韓国語の初級から中級的な位置づけである。</p> <p>3. 学びの意義と目標 初級レベルの段階で終わらず、もう少し進んだ学習ができる。基礎的な文型からの応用力が身につけられ、自分の意志や考えをしっかりと表現ができ、さらに文化などの映像資料を通して韓国への一人旅や歌、ドラマなども楽しめる学習ができるように目指す。</p>	
<b>評価方法</b>	
以下のように総合的に評価する。	
小テストや授業へ態度:30%、レポート:50%、出席:30%	
<b>教科書</b>	
金三順・北村唯司『やさしく学べる韓国語中級』白帝社	

<b>韓国文化演習</b>	秋集中 4単位
担当者：清水 正之	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1) 本学と提携関係にある韓国啓明大学校の夏季セミナー (KLCC・3週間) に参加して、認定される科目である。午前中は韓国語を学び、午後は伝統的な韓国文化を体験する。韓国語のクラスは初級からの学びが可能である。また午後の韓国文化の体験学習は、韓国茶道、伝統演劇・音楽・舞踏・技術・武道、現地訪問など多彩なプログラムが用意されており、通例の留学では経験しがたいほどに豊富な内容になっている。</p> <p>(2) 「海外文化交流研修 (アジア)」を経験してから、翌年この科目を履修するも良いし、その逆も有りうる。3週間の寮生活を通して、韓国文化の理解を深め、韓国の学生たちと交流を深めることが出来るのも魅力のひとつであろう。</p> <p>(3) 近くて遠い国といわれた韓国との関係改善は、次代を担う若者たちの相互理解から始まるといえる。啓明大学校での詳細が決定次第、募集にはいるので、掲示に気をつけて欲しい。費用は、昨年は国際センターの補助2万5千円があり、個人負担は26万円ほどであった。授業期間中は通訳兼チューター役の世話係もついていてくれる。</p>	
<b>評価方法</b>	
本学における事前準備講座、KLCCの研修の出席状況、事後のレポートにより総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	



<b>管理学</b>	秋 週2回 4単位
担当者：竹井 潔	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 目的          管理は英語のマネジメントのことである。管理は人々が協働して、変化する環境の下で有限な資源を能率よく使って、組織目標を効果的に達成するプロセスである。管理は企業の経営における領域で発展してきたが、あらゆる組織体にも適応されてきている。本講義においては、管理の生成と発展を概観し、管理の原理・原則を学ぶことにより、管理の基礎について理解する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ          管理学は経営分野の科目であり、講義内容は経営管理の基本的な事柄である。今後、経営分野を専門的に学んでいく上で、管理学は入門科目として位置づけられるので、経営分野を志す多くの学生に履修してほしい。</p> <p>3. 学びの意義と目標          管理（マネジメント）は社会に出てから様々な場面で必要とされる領域である。講義では企業を対象とした経営における管理の原理・原則を学ぶことにより、管理の新しい領域や課題も検討していきたい。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席・平常点 (30%), 中間試験 (35%), 期末試験 (35%)	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>聞くアート</b>	春 週1回 2単位
担当者：藤田 明	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容          胎児が様々な音を聞いて育っていることは良く知られているが、我々は多種多様な音に囲まれて生きている。その多様な音の中から、耳に快く響く音を集めたものが音楽であり、「聞くアート」である。人に快さを感じさせる音楽は、人の心を落ち着かせ、安らぎを与える。本講義では、たくさんの音の芸術作品を紹介し、解説するとともに、実際に演奏されている音楽に触れる機会を提供していく。これらのことを通して、「聞くアート」を味わい楽しめるようになることを目指している。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ          音楽鑑賞入門的な位置づけであり、多く音楽にふれる授業である。</p> <p>3. 学びの意義と目標          今までは無意識に聞いていたであろう音楽を、使い方によって心に影響を与える多くの内容を含んでいることに気が付く。それを感じ、知ることを目的とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
試験40% ノート提出 30% 出席 30%	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>基礎教育入門(書き方)</b>	春 週1回 1単位
担当者：上嶋 康道	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1 内容          さまざまな題材を通して総合的な表現力を身につけます。高校までに比べて、大学では多くの文章を書くこととなります。その準備とともに、卒業後にも役立つ文章力の土台作りを目的にします。ここで学んだことを利用して、秋学期の予備演習ではさらに総合的なコミュニケーション力を身につける事を目指します。</p> <p>2 カリキュラム上の位置づけ          あらゆる科目で必要となる日本語表現の基本を身につける授業です。</p> <p>3 学びの意義と目標          具体的には、          (1)友人など気心の知れた友人など身近な人にだけでなく、他者に向けて事実を分かり やすく述べる力          (2)同じく他者に向けて自分の考えを明確に述べる力を付けることを目標とします。</p>	
<b>評価方法</b>	
毎回学生には結構な量の作業をしてもらいます。したがって、平常点を重視します。ただし、単純なかけ算ではなく後半にかけての上達も評価します。平常点は、毎回の授業で書く文章の質と課題に取り組む姿勢によって決まります。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>基礎教育入門(書き方)</b>	春 秋 週1回 1単位
担当者：新井 尚子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>講義の目標及び概要</p> <p>1. 内容          この講義では、学生の皆さんに学術的な文章を書くための基礎知識を身につけてもらいます。文章を書く実践を通して、「書く」ことの基本ルールと文章表現の技術を指導します。原則として、毎回「書く」作業を行い、提出してもらいます。それを講義担当者が添削し、アドバイスを加えて返却します。          また、社会人に求められる漢字の学習も継続的に行います。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ          必修の基礎教育科目です。大学での全ての学びの基礎になります。</p> <p>3. 学びの意義と目標          大学での学びには様々な能力が必要とされますが、中でも「書く」能力は非常に重要です。400字詰原稿用紙5枚から10枚程度の文章が容易に書ける能力を目標とします。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席点40%、提出物40%、授業への参加態度20%で総合的に評価します。定期試験は行いません。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>基礎教育入門(書き方)</b>	春 秋 週1回 1単位
担当者：副田 恵/中島 佐和子/松村 良	
<b>講義の目標及び概要</b>	
◆内容◆ 表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生活で必要とされる表現力の基礎からを学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成して表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。	
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 1年生の必修科目である。また、大学で必要とされる表現力の基礎を学ぶ科目でもあるので、充実した大学生活を送るためにもぜひ1年生で修得してほしい。	
◆学びの意義と目標◆ 表現したつもり、伝えたつもり、になって、相手に着実にそれが伝わったのかを意識しないままに発信される文章は、時には思わぬ暴威を振るうことになる。相手に理解されるよう着実に説明するために論理的に表現することは、自分の思考を論理的に整理することに繋がるであろう。	
<b>評価方法</b> 出席および授業中に出された課題の取り組み姿勢と提出物により、評価する(出席 30%、参加態度 20%、提出物 50%)ただし、AHレポートの提出を絶対条件とする。原則として欠席が3分の1を超えた場合は評価しない。	
<b>教科書</b> 橋本 修他『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』三省堂	

<b>基礎教育入門(書き方)</b>	春 秋 週1回 1単位
担当者：作田 奈苗	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1 内容 この授業では、大学生活、および卒業後社会で必要となる基礎的な言語技術のうち、書いて伝える力を実践的に養う。 授業は3部にわかれ、最初の5回は敬語とその運用(メールの書き方)、次の5回はわかりやすく伝える技術、最後の5回は論理的な文章力を、それぞれ訓練する。	
2 カリキュラム上の位置づけ 必修の基礎教育科目である。大学での学習の基礎となる。	
3 学びの意義と目標 ・社会人として常識的な敬語運用能力を身につけること。 ・言語を使って人に情報を伝えることについて意識的に取り組むようになること。 ・論理を組み立てる力を身につけること。	
<b>評価方法</b> 授業課題:60% 最終課題:20% 出席率:20%	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>基礎教育入門(話し方)</b>	春 秋 週1回 1単位
担当者：秋山 隆/岡部 晃彦/半谷 進彦/村田 昭	
<b>講義の目標及び概要</b>	
この講義は1年生を対象に「相手に的確に伝わる話し方」を学ぶものです。日本人はお喋りは得意でも公的な場での確に分かりやすく話すことが苦手だといわれています。しかし、今、世界はグローバル化がすすみ、国内はもとより、国際間においても自分の主張や相手の意見を交換しあう場はますます増えています。そこで必要となってくるのが「自分の考えを相手に伝える」「相手の発言を聞く」「自分の意見と相手のそれとの違いを明確にし、問題解決のため両者で話し合う」能力です。ひとことでいえば「パブリックスピーキング能力」、つまり“一定の時間内に、一定の内容を、筋道たてて話せる力”、これを学びます。また、その土台になる「発声・発音」など共通語の基本もあわせて学ぶほか、社会生活に欠かせない「敬語」も身につけてもらいます。この授業はゼミでの発表や就職時の面接、さらに社会人になった時など必ず役に立つものです。 講師はNHKアナウンサーです。放送85年の歴史の中で培ったノウハウを駆使し、実践トレーニングをとおして学んでもらいます。	
<b>評価方法</b> 話し方スキルの理解度、進捗度や毎回の授業参加の積極性を見て評価する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>基礎教育入門(留学生用書き方)</b>	秋 週1回 1単位
担当者：中島 佐和子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
◆内容◆ 自己紹介、ノートの取り方、敬語の使い方から始め、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。簡単な小論文とレポートを作成する中で、基礎的な書き方の技法を習得したい。また、アセンブリーアワーに実施される講演会に出席し、レポートを提出する。	
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 留学生の1年生必修科目である。	
◆学びの意義と目標◆ 授業理解と日本文化への理解を深めたい。レポートや論文の書き方の基礎を身に付け、自分の考えを論理的に構成し表現する力を育てることを目標とする。	
<b>評価方法</b> 出席および授業中に出された課題の取り組み姿勢と提出物により、評価する(出席・参加態度 50%、提出物 50%)。アセンブリーアワー講演会のレポート提出を課題とする。欠席3分の1以上は原則として評価しない。	
<b>教科書</b> プリントを配布する 橋本修/安部朋世/福嶋健伸『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』三省堂	

基礎教育入門(留学生用書き方) <span style="float:right">春 週1回 1単位</span>	
担当者: 北村 淳子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
◆内容◆ 表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生活で必要とされる表現力の基礎からを学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成して表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。	
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 1年生の必修科目である。また、大学で必要とされる表現力の基礎を学ぶ科目でもあるので、充実した大学生活を送るためにもぜひ1年生で修得してほしい。	
◆学びの意義と目標◆ 表現したつもり、伝えたつもり、になって、相手に着実にそれが伝わったのかを意識しないままに発信される文章は、時には思わぬ暴威を振るうことになる。相手に理解されるよう着実に説明するために論理的に表現することは、自分の思考を論理的に整理することに繋がるであろう。	
<b>評価方法</b> 出席および授業中に与えられた課題の取り組み姿勢と提出物により、評価する(出席 30%、参加態度 20%、提出物 50%)ただし、AHレポートの提出を絶対条件とする。原則として欠席が3分の1を超えた場合は評価しない。	
<b>教科書</b> 橋本 修他『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』三省堂	

基礎教育入門(留学生用書き方) <span style="float:right">秋 週1回 1単位</span>	
担当者: 作田 奈苗	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1 内容 この授業では、日本での大学生生活、社会生活で必要となる基礎的な言語技術のうち、書いて伝える力を実践的に養う。 授業は3部にわかれ、最初の5回は敬語とその運用(メールの書き方)、次の5回はわかりやすく伝える技術、最後の5回は論理的な文章力を、それぞれ訓練する。	
2 カリキュラム上の位置づけ 必修の基礎教育科目である。大学での学習の基礎となる。	
3 学びの意義と目標 ・日本での社会生活に必要な常識的な敬語運用能力を身につけること。 ・言語を使って人に情報を伝えることについて意識的に取り組むようになること。 ・論理を組み立てる力を身につけること。	
<b>評価方法</b> 授業課題:60% 最終課題:20% 出席率:20%	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

基礎実習 <span style="float:right">春 秋 週1回 1単位</span>	
担当者: 相川 徳孝/市村 和子/佐治 由美子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 目的 「基礎実習I」は幼稚園教諭免許修得のための必須科目であるが、児童学の対象とする子ども理解を深めるために、保育士や小学校教諭を目指す学生、資格を取らずに児童学の学びを深めていく学生も履修することが望まれる。この授業では実際の保育現場での観察実習が中心となる。幼稚園生活をしている子どもの姿を観察することにより、子どもの発達の様子や保育者が遊びや発達を支えるためにどのような援助をしているのかを自分なりに考えることを中心にすすめ、子どもの行為や行動、また保育者の援助行為の意味を自分なりに捉え、それを文章として第三者に伝えることをねらいとするものである。幼稚園での子どもの姿から「子どもから学ぶ」ということの意味と保育者、教師としてどのような資質が必要となるのかを自発的に身につけていけるようにしていきたい。	
2. カリキュラム上の位置づけ 幼稚園教諭資格取得希望者には必修科目である。	
3. 学びの意義と目標 子ども理解を深めることと保育者(教師)となるための自己課題を各自が見出すこと。	
<b>評価方法</b> 見学実習と観察実習の評価(5日間)と実習日誌、レポートを総合的に評価する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

基礎ゼミA <span style="float:right">春 週1回 1単位</span>	
担当者: 氏家 理恵/長崎 睦子/D. パーガー/畠山 宗明/和田 光司	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1) 授業の概要 本科目は、大学での学びに必要な基礎力を身につけ、2年生以降の専門科目や演習科目に備えるための演習科目です。基礎ゼミAでは、特に、読む力と考える力の習得のため、テキストの読解方法や、読解に必要な予備知識の習得、批判的な思考の方法などを学びます。	
2) カリキュラム上の位置づけ この科目は本学科の1年生を対象とした必修科目で、他の様々な科目を学ぶための最も土台となる科目です。また、基礎ゼミBへとつながる科目です。	
3) 学びの意義と目標 本科目をとおして、学びに必要な読解力と思考力と同時に、日常的に文章を読む習慣そのものが身につくようになります。	
<b>評価方法</b> 各授業にて行われる小テスト7回の合計(20%)、期末テスト(20%)、平常点(60%、出席状況、授業への参加態度、授業の提出課題など)	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>基礎ゼミB</b>	秋 週1回 1単位
担当者：佐藤 啓介/柴田 史子/畠山 宗明/東 仁美	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1) 授業の概要 本科目は、大学での学びに必要な基礎力を身につけ、2年生以降の専門科目や演習科目に備えるための演習科目です。基礎ゼミBでは、特に、調べる力と書く力の習得のため、図書館の使い方や、情報の調べ方、レポートの作成法などを学びます。	
2) カリキュラム上の位置づけ この科目は本学科の1年生を対象とした必修科目で、様々な科目の最も土台となる科目です。また、基礎ゼミAからつながる科目です。	
3) 学びの意義と目標 本科目をとおして、学びに必要な調査力や書く力と同時に、日常的に文章を読む習慣そのものが身につくようになります。	
<b>評価方法</b> 各授業にて行われる小テスト7回の合計(20%)、期末課題(40%)、平常点(40%、出席状況、授業への参加態度、授業の提出課題など)	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>キャリアデザインA</b>	春 週1回 1単位
担当者：萬年山 啓	
<b>講義の目標及び概要</b>	
この科目では、学生が、自分の生き方、働き方、学び方を設計できるようになることを目的として、自分自身のキャリアをデザインする際に必要となる考え方や思考方法について学びます。この科目で扱う自己の興味関心や適性に対する理解、日本の社会構造や職業に対する理解、社会が求める能力や技能に対する理解などのテーマは、大学卒業後に社会で活躍するために必要とされている基礎的な事柄です。	
この科目で学ぶことは、同時に、学生が自分の将来を見据えて大学生生活を有意義に過ごすための起点となり、大学(教育)から職場(社会)への円滑なキャリアチェンジを実現するための基点にもなります。この科目は、「キャリア」を経歴や職業だけでなく、個人の家庭生活や社会生活なども含む人間の生き方を表現する「ライフキャリア」と捉えて、そうしたキャリアを「デザイン」という未来志向であることを特長とします。	
授業では、個人ワークやグループワーク・発表をふんだんに採り入れ、学生が主体的に行動する形態で実施します。個人ワークでは、与えられた課題について集中して取り組む訓練を積み上げることで、論理的に結論を導く方法を学んでいきます。グループワークでは、普段あまり接しない人との交流を通じて、コミュニケーションのとり方を学びます。	
<b>評価方法</b> 評価：出席点と平常点を重視します。毎回の授業に参加すること及び授業で積極的に取り組んだことを成績評価の基礎資料とします。学期末試験は、レポート提出とします。配分は、出席点：平常点：学期末レポート＝60%：20%：20%です。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>キャリアデザインA</b>	春 週1回 1単位
担当者：上田 信一郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1) (内容) キャリアデザインは、広くは人生設計全体に関わるが、具体的には将来の職業について、将来なりたいもの、やりたい仕事、自分の適性、職業の現状を考え整理し、目標を企画・設計していくこと。そして、現在学ぶもの、身につけるもの、体験行動すべきテーマを発見・具体化し、目標の設定と行動に移すキッカケとなるものだ。また職業紹介に関するビデオを上映し職業理解を進める。	
(2) (カリキュラム上の位置づけ) キャリアデザインAは自分を知ることが重点に、仕事を知ることと並行して講義を進める。自分を知ることとは、やりたいこと、なりたいもの、適性、価値観などの自己分析を進めることだ。並行して進める仕事を知ることでは、仕事図鑑のビデオで仕事の現状を知る。	
(3) (学びの意義と目標) 自分自身のなりたいもの、やりたいことを少しでも明確にし、自分のできることにのすり合わせの中で、進路を明確にし、目標設定できるようになること。	
<b>評価方法</b> 学生証による出席管理システム。20分以上で遅刻。遅刻3回で1回欠席扱い。単位認定は3分の2以上の出席必要。配点(1)演習レポート及び期末レポート(自己分析力、テーマに関し考える力。50%) (2)出席率30% (3)授業態度・積極性20%	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>キャリアデザインA</b>	春 週1回 1単位
担当者：篠寺 俊之/平山 正実/石川 由美子/井上 知洋/金谷 京子/佐野 正子/竹淵 香織/中村 豊男/原 一子/藤原 剛/上 鏡子/山田 麻有美/遠辺 正人	
<b>講義の目標及び概要</b>	
キャリアデザインとは、自分自身の生き方を見つめ、将来をどのように設計していくかを考えることである。その設計に当たっては、	
1、人間関係形成能力 2、情報活用能力 3、将来設計能力 4、意思決定能力 が求められる。	
本演習では、初年次の学習であることも考慮して、ことに人間関係形成能力の育成を目指して、様々な人々とのコミュニケーションを図るプログラムを中心に、生き方に関する考え方をお互いに理解し合う機会としてゆく。	
情報活用能力については、オンラインポートフォリオを活用しながら身につけてゆくこととする。	
<b>評価方法</b> 授業内で課された課題40%、授業内での参加状況20%、まとめ40%とする。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>キャリアデザインB</b>	秋 週1回 1単位
担当者：窪寺 俊之/平山 正実/石川 由美子/井上 知洋/金谷 京子/佐野 正子/竹淵 香織/中村 勉男/原 一子/藤原 明村上 純子/山田 麻有美/渡辺 正人	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>本演習では、キャリアデザインをしてゆく際に必要な情報の収集の仕方や、情報の利用の仕方を学び、多様な学習や仕事のなかから、自己の進路や生き方の選択に生かす力を伸ばしてゆく。多様な職業人を招いての講義や学外の職場見学などもふくめ、幅広く情報を収集していき、進路設計に役立ててゆく。</p> <p>情報活用能力については、オンラインポートフォリオを活用しながら身につけてゆくこととする。</p>	
<b>評価方法</b>	
授業内で課された課題40%、授業内での参加状況20%、まとめ40%とする。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>キャリアデザインB</b>	秋 週1回 1単位
担当者：上田 信一郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1)内容 キャリアデザインAでは比較的「自分を知る」ことを重点に進路目標をたてることを往にしたが、キャリアデザインBでは「職業を知る」ことを重点に、自分とのマッチングの可能性を探る。また、職業を通して社会的な役割をになう意味、職業をもち生きていく力を身につける意味を考える。職業を紹介するビデオをほぼ毎回上映する。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ 職業について、業種・職種の種類、特性などを知り、職業への関心を高め、自分自身の関心のある仕事発見につなげる。関心のある仕事の発見のためにリサーチし、仕事のやりがいなどについて、自分が主体的に職業を選択する視点で学ぶ。</p> <p>(3)学びの意義と目標 講義及び演習でのリサーチを通じて、職業についての業種・職種の内容、職業につくための要件・方法、労働条件、職業につくための競争条件などを知り、仕事に対するモチベーションを高め、進路を明確にすること。また、リサーチ発表を通してプレゼンテーション力を身につけること。</p>	
<b>評価方法</b>	
学生証による電子出席。遅刻3回で1回欠席扱い。単位認定には3分の2以上の出席必要。配点(1)職業リサーチ発表・演習及び期末レポート(テーマに関し調べる熱意・努力、プレゼン内容) 50% (2)出席率30% (3)授業態度・積極性20%	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>キャリアデザインB</b>	秋 週1回 1単位
担当者：萬年山 啓	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>後期に配賦されるこの科目は、前期で学んだ自己理解・職業理解・ビジネスシーンに必要な基礎的能力などの理解を踏まえながら、内容を一步深めていきます。さらに、大学(教育)から職場(社会)へのキャリアチェンジに向けた準備活動というキャリア教育の観点も加味し、より実践的な内容を学んでいきます。社会で行われていることと大学で学んでいることを関連づけて考えるための方策を示し、社会を視る目を養成します。</p> <p>この科目では、社会的活動が協働の場であることを理解し、学生がこれまで体験してきた競争の場とは異なる考え方や能力が求められることを意識します。21世紀の「知識基盤社会」において働くとはどういう意義を持ち、どのような人間的資質が求められるか、評価されるのかを理解していくのが主眼です。</p> <p>この授業でも、個人ワークやグループワークを採り入れます。他人が発する情報をどのように受けとめ、理解するか、さらにそれをどのように伝えていくかを意識しながら、授業を進めます。授業中での行動を通じて、学生の「ジェネリックスキル」を育成していきます。この授業に主体的に参加する学生が、自分の「キャリアデザイン」を自分自身の言葉で語り、構築ができるようになることを目指します。</p>	
<b>評価方法</b>	
評価:出席点と平常点を重視します。毎回の授業に参加すること及び授業で積極的に取り組んだことを成績評価の基礎資料とします。学期末試験は、レポート提出とします。配分は、出席点:平常点:学期末レポート=60%:20%:20%です。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>教育・保育課程論</b>	春 秋 週1回 2単位
担当者：相川 徳孝	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1)内容:幼稚園・保育所では教育課程・保育計画、指導計画があり、それに基づいて実際の保育が展開される。この授業では保育の計画を立てる際の基盤となる子どもの姿や活動の捉え方、保育者の援助について理解し、子どもの生活に相応しい生活が展開されるための指導計画について、具体的に学ぶ。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ:幼稚園教諭免許・保育士資格取得のためには必修となる科目である。</p> <p>(3)学びの意義と目標:指導計画作成を作成するための幼児理解・観察の方法など、保育実践に向けた理論的実践的能力を高めることを目指す。</p>	
<b>評価方法</b>	
試験(70%)と課題レポート(30%)で評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>教育課程論</b>	春 週1回 2単位
担当者：川瀬 敏行	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 教育課程の基本と教師の資質、20年版の学習指導要領の主な改訂点、各教科等に共通する指導計画・指導案の実際、学級経営・指導方法等の具体的な課題を学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置付け 各教科・領域の学習をつなぐ教育課程の立場から大きな目で考察するとともに、各教科の指導案の共通点の検討など授業実践力につながる力を身に付ける。</p> <p>3. 学びの意義と目標 教職を目指す人はもとより、現在教職に就いている人であっても、「教育課程」についての関心や認識は低い、というのが一般的である。意図的、計画的、組織的に行われる学校教育では一人一人の教師が「教育課程」の編成・実施について理解していくことによって、目指す学校・教育が実現される。 教育課程の重要性、20年版の教育課程の考え方、さらに授業に直結する指導案の考察などについてその重点点が説明できることを目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席を重視し、出席カード又は小レポートの提出で40%、授業への積極的な参加態度及びレポート提出等で30%、定期試験で30%とする。	
<b>教科書</b>	
文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社	

<b>教育経営</b>	春 週1回 2単位
担当者：島田 桂吾	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>教育（本授業では学校教育）には、教室内での営み以外にも、それを支える経営的な働きが存在しています。この授業ではその働きを大きくは二つに分けて考えます。一つは行政で、文部科学省や教育委員会が存在しています。もう一つは学校で、学校経営があります。これらの政策・制度の現状と問題を概説するとともに、それがどのように教室内での営みに関わってくるかを考えていきたいと考えています。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>(1)出席及び授業参加度:20% (授業後に提出するコメントペーパーも評価の対象とする)</p> <p>(2)レポート:30%</p> <p>(3)テスト:50%</p>	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>教育原理</b>	春 秋 週1回 2単位
担当者：寺崎 恵子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1 内容 教育は、誰もが経験してきているにもかかわらず、「教育とはなにか」という問いに一言で答えることは難しい。この講義では、人々が教育をどのようにとらえてきたのか、そして、教育を通して人々がどのようなことを望んで生きてきたのか、という視点から教育を考える。また、異校種間連携の可能性をあわせて考察する。</p> <p>2 カリキュラム上の位置づけ 初等教育の基本的観点について学ぶので、入門として位置づけている。</p> <p>3 学びの意義と目標 多方面から活発になされている教育についての議論を冷静に把握することを、この学びの目標とする。そのために、自分自身の観点を確認するとともに、自分自身の思い込みにとらわれない自分自身のあり方を確認したい。</p>	
<b>評価方法</b>	
各回の小レポート(5点×14回=70点)と期末課題(30点)とを合わせて評価する。なお、小レポートの記述状況によっては再提出を求める場合がある。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する 山崎英則ほか『教育用語辞典』ミネルヴァ書房	

<b>教育原理</b>	秋 週1回 2単位
担当者：小川 洋	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容:教職の入門科目であり、教育についての基礎的知識をひと通り取り扱う。指定の教科書と各回配布のプリント資料などを利用しながら、教育心理、文化人類学、教育制度、教育法規、教育社会学、比較教育、教育史など、広範にわたるテーマを取上げていく。自分が興味をもったテーマについて関連図書などを参考にしてレポートも作成してもらおう。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ:中学校、高等学校の教職課程履修者が最初に履修すべき科目である。基本的には1年次の秋学期に「教師論」とともに履修をすることが望ましい。教育実習の前年度までに履修を済ませないと実習が不可能になるので気を付けること。</p> <p>3. 学びの意義と目標:教育を「受ける」立場であった諸君が、教育を「ほどこす」立場に立つためには、教育に対する考え方を根本から洗いなおすことが必要となる。これらの学習を通じて、社会にとって不可欠な営みのひとつとしての教育を捉え、教育に対して、より豊かな視野を獲得するように努めてもらう。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>(1)授業出席状況(20%)、(2)小テスト:教科書の指定した範囲の予習・復習を前提とする(20%)、(3)レポート2本:授業で取り上げたテーマから関心をもったことを取り上げて作成(20%)、(4)期末テスト(40%)</p>	
<b>教科書</b>	
田嶋一ほか編『やさしい教育原理 新版補訂版』有斐閣	

<b>教育社会学</b>	春 秋 週1回 2単位
担当者：小川 洋	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容:教育に関するさまざまな現象を、質問紙調査、聞き取り調査あるいは統計などを用いて、その背景にあるものを解明しようとする研究分野である。近代以降、教育が学校という組織によって担われるようになると、学校教育の果たす社会的な役割がひじょうに大きくなる。時にそれは、関係者に過剰な期待を持たせたり過剰な負担を与えたりする。その結果しばしば教育には、「問題」が見出され、マスメディアや政治家たちによって争点化される。「問題」をどのように社会的に理解できるのか、研究事例などの紹介をとおして、考えてもらうことを中心とする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ:教育に関する幅広い視野をもつための教職課程科目。児童学科の幼稚園教諭・小学校教諭の課程においては必修、中学校・高校の教職課程においては、選択必修である。</p> <p>3. 学びの意義と目標:教員にとっては、目の前の生徒や保護者を自分自身の目で判断し、必要な教育活動について考える能力が求められる。マスメディアなどの言説に安易に依存しては、教師としての専門性を放棄することになる。授業を通じて、教育現象を冷静にみる能力と姿勢を育てることを目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席は基本条件。学期中にレポート1本の提出を求める(25%)。授業中のミニレポート(25%)。期末テスト(50%)	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>教育心理学</b>	春 週2回 4単位
担当者：小山 義徳	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>教育心理学は「人間がどのように物事を学んでいるのか」ということと、「物事を教えるにはどうすればよいのか」ということを心理学的手法により明らかにしていく学問です。</p> <p>教育心理学は教師になる人だけに必要な学問であると誤解されがちですが、どのような仕事に就いても多くの知識を学ばなければなりません。また、仕事に就いてから数年経てば、自らが後輩に仕事を教える立場になりますので、すべて人にとって有用な学問です。</p> <p>授業では教育心理学の基礎的な知識を紹介していきます。しかし、学問としての教育心理学と福祉や教育の現場で求められている実践の間にギャップが生じてしまっはけません。そこで、授業では講義に加えて、学んだ知識をもとにしたレポートの提出や、他者の意見と自分の意見を対比するディスカッションを取り入れて、理論を教育場面での実践事例に関連付けていきます。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席状況および小レポート、期末レポート、受講意欲・態度を総合して評価する。出席が3分の2に満たない場合は単位認定は行わない。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>教育心理学</b>	春 秋 週1回 1単位
担当者：井上 知洋	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(内容)</p> <p>今日の保育・教育において、子どもの発達や学習の過程を理解し、教育的支援を必要とする子どもの理解を深め、その対応を考えることはきわめて重要である。本授業では、幼児・児童(障害のある幼児・児童を含む)の発達と学習の過程に関する心理学的な基礎知識を習得し、その知識を実際の子どもの理解を深めるのに利用できるようになることを目標とする。また、子どもの発達と学習の状態に応じた適切な指導・支援の方法について、自らで考えられるようになることを目標とする。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>この科目は、教職に関する科目では「教育の基礎理論に関する科目」、保育の対象の理解に関する科目では「保育の心理学Ⅱ」に該当する。</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>実際の保育・教育の現場において子どもの心身の発達を理解し、その援助を行う上での基盤を養うことができる。</p>	
<b>評価方法</b>	
授業への参加の程度(出席、発表、小レポート等:60%)および試験(40%)	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>教育相談(カウンセリングを含む。)</b>	秋 週1回 2単位
担当者：山田 麻有美	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1) (内容) 児童生徒がもつ教育上の諸問題や悩みや困難を解決し、よく適応させ、人格の成長を援助するために教師が行なう教育相談活動のための基本的な態度(カウンセリング・マインド)を実践的に習得できるよう計画されている。具体的には、教育相談の意義や現状を踏まえた上で、受講生が、サイコドラマの手法を用いて児童や保護者に対する態度やコミュニケーションスキルを実践的且つ段階的に身につけられるようにする。</p> <p>(2) (カリキュラム上の位置づけ) 教職科目であり、教職課程の受講登録をした学生にのみ開かれている科目で、教師として児童生徒に向き合う基本的な姿勢と信頼関係形成のためのコミュニケーションスキルを学ぶものである。</p> <p>(3) (学びの意義と目標) 教師が児童に助言や援助を行う時、一方的に指導するという態度ではなく、児童生徒の様々な心の動きを察知し、適切に対応しようとするカウンセリングマインドを、この講義を通して習得し、児童生徒にとってよりよい指導のできる教師、また保護者や地域社会からは信頼される教師となることが期待される。</p>	
<b>評価方法</b>	
授業への参加度40%と理解度50%、出席10%の割合で評価を行う。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>教育相談(カウンセリングを含む)</b> <span style="float: right;">春 週1回 2単位</span>
担当者：山田 麻有美
<b>講義の目標及び概要</b> (1)〈内容〉 生徒がもつ教育上の諸問題や悩みや困難を解決し、よく適応させ、人格の成長を援助するために教師が行なう教育相談活動のための基本的な態度(カウンセリング・マインド)を実践的に習得できるよう計画されている。具体的には、教育相談の意義や現状を踏まえた上で、受講生が、サイコドラマの手法を用いて生徒や保護者に対する態度やコミュニケーションスキルを実践的且つ段階的に身につけられるようにする。 (2)〈カリキュラム上の位置づけ〉 教職科目であり、教職課程の受講登録をした学生にのみ開かれている科目で、教師として生徒に向き合う基本的な姿勢と信頼関係形成のためのコミュニケーションスキルを学ぶものである。 (3)〈学びの意義と目標〉 教師が生徒に助言や援助を行う時、一方的に指導するという態度ではなく、児童生徒の様々な心の動きを察知し、適切に対応しようとするカウンセリングマインドを、この講義を通して習得し、生徒にとってよりよい指導のできる教師、また保護者や地域社会からは信頼される教師となることが期待される。
<b>評価方法</b> 授業への参加度40%と理解度50%、出席10%により算出する
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>教育方法論</b> <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：篠原 文陽児
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本講義は、教育の方法に関する基礎的かつ基本的な理論や学説と、教授技術、教育機器、教材など実践に直結する内容を、具体例と受講者自身の体験や経験と関連させ学ぶ。 2. カリキュラム上の位置づけ 幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状の取得のための必修科目である。「児童学概論」「教育原理」「発達心理学」「児童教育学」「基礎実習」等と深く関連し、同時に、各領域や各教科等の指導方法に関する基礎的、基本的かつ横断的な位置づけである。 3. 学びの意義と目標 受講者自身の体験や経験と関連させながら教育の方法に関する基礎的及び基本的な知識と技能を得るとともに、情報機器を活用した資料提示や資料作成の方法及びこれらを授業等場面で適切に運用するための指導技術を理解し身に付ける。 参考文献：天城勲監訳、1996、学習：秘められた宝—ユネスコ「21世紀教育国際委員会」報告書、ぎょうせい。
<b>評価方法</b> 出席(50%)、授業態度(10%)、授業中に出すレポート課題及び最終試験等(40%)を基準に、総合的に判断して、評価する。
<b>教科書</b> 多田俊文(編者)『教育の方法と技術 四訂版』学芸図書株式会社

<b>教育方法論</b> <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：小川 洋
<b>講義の目標及び概要</b> 教育は、生徒に知識や技術を伝達するとともに、ものごとの考え方や育てることを、大きな目的としている。同じことは、学校だけではなく、社会のさまざまな場面で常に行われている。正確な知識を伝えて相手に理解させる、納得させることの重要性は学校の世界に限らない。 この授業では、「伝える」ことや「理解させる」ことなどをキーワードとして、必ずしも学校という枠にとらわれずに学習するが、それは必ず教科指導などの技能の向上に役立つことになるはずである。 資料集めから、伝えるための資料整理、理解を求めるためのプレゼンテーションの方法、話法などを体験しながら実践的に学習していく。情報機器を利用した資料の集め方やプレゼンテーション機器の利用方法などについても積極的に取組んでもらう。
<b>評価方法</b> 授業への参加状況と課題作成と提出された課題、およびレポートの内容などを総合して評価する。
<b>教科書</b> 文部科学省『中学校学習指導要領』

<b>教職演習A</b> <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>
担当者：石津 靖大
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 学校の基本的な教育力は、教師の教育力つまるところ教師の授業における指導力であると考えられる。本演習は、上記の考えを踏まえて、公立小学校教員採用試験を受験し、その合格を目指すところの学生を対象とした内容の演習である。とくに採用試験の傾向と現状を正確に把握し、効果的な対策を立て、合格力を養成することに共同で取り組みたい。本年度の主たる内容は、教職における教職教養の分野を取り扱い、受講の対象を児童学科の2年次生に限定する。具体的な授業内容は、授業計画を参照。 2. カリキュラム上の位置づけ 教職の基本的な知識を研究するところの学科の専門科目である。 3. 学びの意義と目標 主たる目標は、小学校教諭に成るための教職教養の基本的な知識を研究し、教師としての肝どころをおさえることにある。
<b>評価方法</b> 出席25%、平常点25%、試験50%の割合で評価する。
<b>教科書</b> プリントを配布する



<b>教職演習 A (J用)</b>	春 週1回 1単位
担当者：濱田 寛	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(内容)</p> <p>現代文の読解問題について演習形式にて検討を加える。          (カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>「教えるための古典」と並行して学ぶ科目である。現代文についてより深い理解とより確かな読解力の涵養を目指す。          (学びの意義と目標)</p> <p>「解答者」としての立場に限定せず、読解問題作成における「出題者」としての視点も含んだ、複眼的な視点からの学習を目指したい。</p>	
<b>評価方法</b>	
演習:100%	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>教職演習 B</b>	秋 週1回 1単位
担当者：石津 靖大	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>学校の基本的な教育力は、教師の教育力つまるところ教師の授業における指導力であると考えられる。本演習は、上記の考えを踏まえて、公立小学校教員採用試験を受験し、その合格を目指すところの学生を対象とした内容の演習である。とくに採用試験の傾向と現状を正確に把握し、効果的な対策を立て、合格力を養成することに共同で取り組みたい。本年度の主たる内容は、教職における専門教養の分野を取り扱い、受講の対象を児童学科の2年次生に限定する。具体的な授業内容は、授業計画を参照。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>教職の基本的な知識を研究するところの学科の専門科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>主たる目標は、小学校教諭に成るための専門教養の基本的な知識を研究し、教師としての肝どころをおさえることにある。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席25%、平常点25%、試験50%の割合で評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>教職演習 B (J用)</b>	秋 週1回 1単位
担当者：濱田 寛	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>本演習は「教職演習 A」を継続するものである。</p> <p>(内容)</p> <p>教員にとって教材研究は授業の成否を決定する重要な基本的な作業である。本演習を通して、教科書に採択されている教材を対象に、教材研究の方法を学び、手控えのノートから授業を作り上げるプロセスを演習を通して学ぶ。          (カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>「教えるための古典」と並行して学ぶ科目である。          (学びの意義と目標)</p> <p>教員は一方でよく学ぶ者でありたい。教材研究の方法を実践的に学びつつ、自立した学習スタイルの習得を目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
演習:100%	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>教職演習 C</b>	春 週1回 1単位
担当者：石津 靖大	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>学校の基本的な教育力は、教師の教育力つまるところ教師の授業における指導力であると考えられる。本演習は、上記の考えを踏まえて、公立小学校教員採用試験を受験し、その合格を目指すところの学生を対象とした内容の演習である。とくに採用試験の傾向と現状を正確に把握し、効果的な対策を立て、合格力を養成することに共同で取り組みたい。本年度の主たる内容は、前年度の教職演習 A で取り扱った分野を質量共に発展させるものである。受講の対象は児童学科の3年次生に限定、具体的な授業内容は授業計画を参照。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>教職の基本的な知識を土台にして、それを発展的に研究するところの学科の専門科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>主たる目標は、小学校教諭に成るための教職教養の基本的な知識を発展的に研究し、教師としての肝どころをより明確におさえることにある。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席25%、平常点25%、試験50%の割合で評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>教職演習 D</b>	秋 週1回 1単位
担当者：石津 靖大	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>学校の基本的な教育力は、教師の教育力つまるところ教師の授業における指導力であると考えられる。本演習は、上記の考えを踏まえて、公立小学校教員採用試験を受験し、その合格を目指すところの学生を対象とした内容の演習である。とくに採用試験の傾向と現状を正確に把握し、効果的な対策を立て、合格力を養成することに共同で取り組みたい。本年度の主たる内容は、前年度の教職演習 B で取り扱った分野を質量共に発展させるものである。受講の対象は児童学科の3年次生に限定、具体的な授業内容は授業計画を参照。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>教職の基本的な知識を土台にして、それを発展的に研究するところの学科の専門科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>主たる目標は、小学校教諭に成るための専門教養の基本的な知識を発展的に研究し、教師としての肝どころをより明確におさえることにある。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席25%、平常点25%、試験50%の割合で評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>教職演習 E</b>	春 週1回 1単位
担当者：船田 信昭	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>授業の本時案、模擬授業、指導技術及びそれらを支える教育常識等、授業について演習を通して習得する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置付け</p> <p>各教科等の教科教育法で個々に学んだ学習指導案の書き方及び模擬授業の延長上に位置付けている。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>各教科の学習指導案の見方、作成の仕方及び本時のねらい・学習活動・評価のかかわり合いを説明できることは大切である。また、本時案に基づいた授業や主な指導技術(発問・話し合い・ノート・板書・個別指導等)をある程度身に付けることを目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席を重視し、出席カードまたは小レポート提出で30%、本時案の提出、模擬授業の技量や態度等で40%、定期試験で30%とする。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>教職演習 F</b>	秋 週1回 1単位
担当者：船田 信昭	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>学級担任としての教師は、子どもが困ったときの対応としての「場面指導」を十分準備して行ったり、学習指導の方法について演習を通して学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置付け</p> <p>学習指導や生徒指導の基礎的素養を踏まえた上で、様々な場面の教祖としての具体的な対応策になる。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>事例を通しての場面指導の仕方や学級経営の基本、また、授業づくりの基本を身に付けていくことを目標にする。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席を重視し、出席カードまたは小レポートの提出で40%、場面指導の具良哉授業中の積極的姿勢やレポート提出等で30%、定期試験で30%とする。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>教職演習 G</b>	春 週1回 1単位
担当者：船田 信昭	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>教員採用試験を念頭にもう一度教師のあり方に思いをいたし、主として授業に関することを中心に学習指導の基礎について学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置付け</p> <p>小学校全科教員に必要な職務内容、特に、学習指導力の総仕上げの段階に位置付けている。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>受験する都県の採用問題の出題傾向を見ながら、各自が対策を考え準備する手助けをする。特に、教師のあり方や学習指導について合格レベルと比べ、自分の足りないところの力をつけていくことを目標にする。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席を重視し、出席カードまたは小レポート提出で50%、模擬授業や演習発表・学習態度等で50%とする。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>教職基礎</b>	春 秋 週1回 2単位
担当者：加藤 実三	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>言葉は、他とのコミュニケーションの道具であると共に、自己の思考を整理したり深めたりする役割を持っています。この機能は、家庭・保育園・幼稚園・学校などを通じていっそう高められ、社会人としての重要な素養の一部となり、あらゆる社会の基盤をなしていきます。</p> <p>そのため、聞くこと・話すこと・読むこと・書くことを統合して「書く力」の向上を目指します。学習の材料は、毎日の生活のあちこちに存在します。身近にあるさまざまな言葉を拾い上げ取り出し、「正しい日本語の基準って何だろう?」「言葉って案外面白い」ということなどを追究していく予定です。</p> <p>可能なら、受講生が自ら話材を提供したりグループワークをしたりすることも考えています。できるだけ児童学科の学生に必要な事項、あるいは児童学科の学生として関心のある内容を選びます。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>「言葉に対して興味・関心を深めることができたか」を目標とします。小論文(50%) 出席状況(20%) 提出物(20%) 授業への参加意欲(10%)で総合的に評価します。</p> <p>小論文等は、その都度採点添削して返却します。</p>	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>教師論</b>	秋 週1回 2単位
担当者：小川 洋	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>教職課程の授業の多くは、教員になるための技術や知識を習得するためのものだが、「教師論」の目的は、技術や知識の習得ではなく、教師という仕事に求められる資質や能力などについて考え、教職を目指すものが確かな考えをもつようになることを目標とする。</p> <p>教師の社会的な役割とは何か、教師に必要な資質や能力とはどのようなものかなど、教職の意義について考えるための授業である。そのためには、教師が歴史的にどのような立場(役割)にあったのか、とくに近代以降の日本ではどのような役割を期待され、果たしてきたのかを考える。また、諸外国では教員はどのような立場に置かれているのか、日本の場合と比較して考え、今後の日本の教師のあり方を考える上での参考としたい。</p> <p>その上で、現代の教員が抱える諸問題について、いくつかの視点から見ていく。さらに現在、世界的に政治情勢や経済情勢が変化するなかで教育も大きな変化を求められているが、そのなかで、教師はどのように対応していくべきか考えていきたい。</p>	
<b>評価方法</b>	
授業への参加状況、指定したテーマについての調査レポート、期末テストなどを総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>教師論(幼保)</b>	秋 週1回 2単位
担当者：佐藤 千瀬	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 および 3. 学びの意義と目標</p> <p>本講義では、1. 保育者の役割と倫理について理解すること。</p> <p>2. 保育士・幼稚園教諭の制度的な位置づけを理解すること。</p> <p>3. 保育士・幼稚園教諭の専門性について考察し、理解すること。</p> <p>4. 保育者の協働について理解すること。 5. 保育者の専門職的成長について理解することを目標とする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>児童学科の専門科目であり、保育士資格、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状取得のための1年次の資格必修科目である。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>平常点 30%</p> <p>授業時の課題・小テスト 70%</p>	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>教師論(小)</b>	秋 週1回 2単位
担当者：小川 隆夫	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>[小学校]</p> <p>1. 内容</p> <p>教師の仕事、役割、教師観や職場としての学校などについて学び、望ましい資質能力とは何かと望ましい教師の姿を考える。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>教師論は、教職の意義等に関する科目の必修になっている。教師の職務、魅力、生きがいを考えることは、教職を目指すものにとって必須である。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>子どもの好む教師、親の求める教師、教師の考える望ましい教師、校長・行政者の求める望ましい教師を考えながら、教師とは何かを追及することに学びの価値がある。本授業を通して教育活動に従事する魅力に触れ、教師の道を目指そうとする気持ちが確かなものになることを期待する。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>出席と授業への貢献度で30%</p> <p>レポート提出2回で40%</p> <p>定期試験で30%</p>	
<b>教科書</b>	
矢田貝公昭・林邦雄・成田国英『教師論(教職課程シリーズ7)』一藝社	

<b>行政学</b>	秋 週2回 4単位
担当者：鈴木 潔	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 本講義では、これまでの行政学の蓄積を利用し、現代日本における行政の仕組みと行政の理論を中心に説明する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 本講義は、政治学、憲法（統治）、政治過程論、地方自治論、公共政策論などを学習するうえで重要なポイントとなる行政の仕組みに関する知識を提供している。</p> <p>3. 学びの意義と目標 行政の活動が複雑・多様化するのに伴って、市民が行政を的確に評価し、コントロールすることが一層重要になってきている。本講義では、受講者が(1)行政の主要な仕組みを理解できるようになること、(2)抽象的な行政の理論を用いて具体的な行政の活動を説明できるようになること、(3)行政を評価し、コントロールするために必要な事柄について考察できるようになることを目標とする。</p> <p>なお、真淵勝『行政学』有斐閣（2009年）を参考書とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
基本的には試験の成績によって評価を行うが、毎回の講義で実施する小テストや平常点（出席状況、講義への貢献度など）も加味される。(1)試験（80%）、(2)小テスト（10%）、(3)平常点（10%）	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>行政法</b>	春 週2回 4単位
担当者：仲田 孝仁	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1)講義の内容 本講義は、行政法の入門的な知識・考え方の修得を主目的とする。講義では、各種行政活動に共通する通則的な理論である「行政法総論」と、違法な行政活動に対する事後的な権利・利益の救済制度である「行政救済法」とを学ぶ。公務員として任用された場合は、実際に法律や条例を運用し、また民間企業であれば、行政の規制を受けない業種・業界はないといっても過言ではない。さらに、市民としても、運転免許や営業許可の取得、各種申請・届出、ゴミ収集、年金の給付等行政との関わりは生涯切っても切れないといえる。よって、公務員希望者に限らず、企業に就職し或いは一市民として社会生活を営む上でも「行政法」を学ぶ重要性は極めて高い。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ 本科目は法律学であり、法学概論や憲法、民法などの基幹科目との対比では、応用科目に位置する。とはいえ、法学の基礎についても適宜ふれる。諸君の将来の進路とのかかわりでは、各種国家試験や資格試験対策としても必要性がある科目である（むろん、民間企業への就職希望や自営業者でもニーズはある。）。</p> <p>(3)学びの意義と目標 この講義を履修した後は、社会に生起している諸事象に対して、法的に考えることができる力（いわゆる、リーガルマインド）を養われるであろう。</p>	
<b>評価方法</b>	
期末試験を重視する。その他、ほぼ毎回行われる講義内容の理解度をはかるアチーブメントテストの得点を加算する。出席は当然であるので、出席自体は評価対象とはしない。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>キリスト教音楽史A</b>	春 週1回 2単位
担当者：渡辺 善忠	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1)キリスト教音楽の歴史を、背景の文化も含めて広い視点で学ぶ</p> <p>(2)聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰を理解することを目標とする</p> <p>☆聖書の言葉を基としてキリスト教音楽を深く味わうことを目指します。</p> <p>「キリスト教音楽史A」では、キリスト教音楽のルーツであるユダヤ教音楽から宗教改革時代までの教会音楽について、聖書解釈と作品の時代背景から論じつつ作品に耳を傾けます。聖書と音楽史との関わりをふまえて音楽を理解することを目的とします。なお、「キリスト教音楽史B」では宗教改革以降の作品を学びますので、通年で受講される方を歓迎致します。</p> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聖書（旧新約聖書両方を用います）</li> <li>・「キリスト教音楽の歴史」（金澤正剛著／日本キリスト教団出版局 2001年）</li> <li>・「よくわかるキリスト教の音楽」（長谷川朝雄他著／キリスト新聞社2000年）</li> <li>・「ユダヤ音楽の旅」（水野信男著／ミルトス 2000年）</li> </ul> <p>その他の参考文献については必要に応じてその都度お知らせします。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席点と試験で評価致します。出席を重視しますので、三分の一以上欠席した場合は不合格となります。評点は、講義内容に関する試験の評価をもとに、出席状況、授業態度、礼拝レポート・教会レポートを勘案して評定致します。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>キリスト教音楽史B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：渡辺 善忠	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1)キリスト教音楽の歴史を、背景の文化も含めて広い視点で学ぶ</p> <p>(2)聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰を理解することを目標とする</p> <p>☆聖書の言葉を基としてキリスト教音楽を深く味わうことを目指します。</p> <p>「キリスト教と音楽史B」（後期）では、宗教改革から現代までのキリスト教合唱作品を中心に、教会の歴史・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾けます。</p> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聖書（旧新約聖書両方を用います）</li> <li>・「キリスト教音楽の歴史」（金澤正剛著／日本キリスト教団出版局 2001年）</li> <li>・「よくわかるキリスト教の音楽」（長谷川朝雄他著／キリスト新聞社2000年）</li> <li>・「大作曲家の信仰と生涯」（P.カヴァノー著・吉田幸弘訳／教文館 2000年）</li> </ul> <p>その他の参考文献については必要に応じてその都度お知らせします。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席点と試験で評価致します。出席を重視しますので、三分の一以上欠席した場合は不合格となります。評点は、講義内容に関する試験の評価をもとに、出席状況、授業態度、礼拝レポート・教会レポートを勘案して評定致します。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>キリスト教概論 A</b>	春 週1回 2単位
担当者：菊地 順	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1)内容 初めてキリスト教に触れる学生を念頭に置きながら、現代世界の成立において重要な役割を果たしてきたキリスト教の基本的な点について、聖書を中心に学びます。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ キリスト教は、大学の建学の理念の根幹をなすだけでなく、現代世界の一つの基底をなす重要な位置を持っていますので、この授業は大学での学びの基礎となる科目です。</p> <p>(3)学びの意義と目標 春学期は、初めに現代世界における宗教の意義について考察し、また日本とキリスト教との関係について概観します。その後、旧約聖書に基づいて、キリスト教の背景をなすユダヤ教（イスラエル宗教）の世界について、特にその世界観・人間観、その歴史、及びキリスト教との関連について学びます。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席状況、課題、試験の全体を評価して成績を出します。割合は、出席30%、課題20%、試験50%です。ただし、欠席が3分の1以上の人、また課題の未提出の人は、試験を受ける資格がありません。	
<b>教科書</b>	
『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス	

<b>キリスト教概論 A</b>	春 週1回 2単位
担当者：E. D. オズバーン	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容：この講義では、聖学院大学の教育理念の根底に位置するキリスト教の基礎を紹介します。まず最初に個人個人の人生における宗教の重要性を確認し、同時に日本の歴史と文化における主要な宗教と哲学の役割を概観します。次にこの講義では、それぞれの学生が持つ信念や信条に焦点をあて、それぞれが何を信じ、そして何故それを信じるのかについて考え、表現することにチャレンジしてもらいます。さらに、創造主・聖書・罪・救済などの例を挙げながらキリスト教のユニークさを強調しつつ、その教理を概観していきます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：聖学院大学基礎科目群の必修科目</p> <p>3. 学びの意義と目標：第一の目的は、一般の宗教と又、キリスト教の概観を、特に日本の環境において重点をおきながら受講者に提供することです。</p>	
<b>評価方法</b>	
読書レポート（20%）、教会出席レポート及び全学礼拝レポート（30%）、テスト（30%）、出席と授業参加（20%）を判定して評価します。	
<b>教科書</b>	
『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス	

<b>キリスト教概論 A</b>	春 週1回 2単位
担当者：石田 学	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 目的 現代世界は、世界構造と価値観の急速な変化のただ中にあります。地球規模の諸問題に直面し、未来の不透明な危機の時代にあって、わたしたちはどのような生き方をするべきでしょうか。現代ほど、世界を理解する視点と未来を創造する意志、適切な価値基準が求められる時代はありません。この講座が、キリスト教についての基礎知識を身につけ、現代を生きる上で必要な智恵と価値基準を見出す助けとなることを願っています。できるだけ多くの画像、写真などを用いて、理解の助けとしてゆきます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ キリスト教主義大学の根幹となる科目であり、本学の教育全体の基礎となるべきものです。</p> <p>3. 学びの意義と目標 この講座では、キリスト教主義大学で学ぶことの意義を考え、キリスト教について簡単な紹介をした後、おもに旧約聖書の内容を学びます。講座終了時には、学生諸君が旧約聖書についての基礎知識を持つことを目標とします。</p>	
<b>評価方法</b>	
1) 学期末試験（90%） 2) キリスト教概論共通のレポートと課題（10%） 3) 出席状況を加味して最終評価を出します。	
<b>教科書</b>	
『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス	

<b>キリスト教概論 A</b>	春 週1回 2単位
担当者：山ノ下 恭二	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 目的 本講義ではキリスト教の基礎であるキリスト教の神、聖書について詳しく解説し、旧約聖書の内容を詳しく解説していく。 キリスト教に触れるのは初めての学生も多いと考えているので、キリスト教の中心的メッセージを明確にしつつ、特に旧約聖書の中心的な用語についても詳しく解説していく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ キリスト教入門的な位置づけであり、キリスト教関連科目の基礎となるべきものである。</p> <p>3. 学びの意義と目標 キリスト教の神と日本の神との相違を知ること。聖書の内容を把握すること。古い契約、文学、預言の内容を明確に理解すること。</p>	
<b>評価方法</b>	
授業出席は、授業数の3分の2以上の出席。全学礼拝レポート、教会礼拝レポートの提出を重視。定期試験を実施。授業態度を評価しつつ、総合評価する。授業出席30%、試験30%、レポート提出30%、授業態度10%。	
<b>教科書</b>	
『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス	

<b>キリスト教概論 A</b>	春 週1回 2単位
担当者：佐野 正子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 キリスト教の基礎知識と、キリスト教の中心であるイエス・キリストの生涯と教えについて学び、そこから私たちに示されている生き方について、共に考えていく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目に属する一年生の必修科目。キリスト教主義大学の根幹となる科目であり、本学の教育全体の学びの基礎となるべき科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 キリスト教に初めて触れる学生が、聖書に親しみ、キリスト教の基本的かつ本質的内容を理解するとともに、自分の生き方を見つめ、現代社会をとらえる目を養うことを目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
毎回の授業内の小レポート、礼拝レポート、学期末試験を総合的に判定して評価する。	
<b>教科書</b>	
『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス	

<b>キリスト教概論 A</b>	春 週1回 2単位
担当者：久保島 理恵	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1)内容 キリスト教信仰は、イエスを救い主として信じ告白することである。そこで授業では、イエス・キリストについての証言である新約聖書を通して、キリスト教の基本的内容への理解を深める。具体的には、「ルカによる福音書」を読みながら、イエス・キリストの教え、働き、そして十字架の死と復活という救済の出来事について学んでいく。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ 「神を仰ぎ、人に仕う」というスクール・モットーは、キリスト教信仰に貫かれている。従って、本講義は自分の学びの場の土台を知るという意味をもっている。</p> <p>(3)学びの意義と目標 多くの学生にとってキリスト教は初めて触れる世界であろう。そのため驚きや戸惑いがあるかもしれない。しかし、むしろその率直な感想を大切にしてほしい。なぜなら、それはキリスト教という一種の異文化を通して見えてくる自分自身だからである。この講義を通して、キリスト教への理解を深めると同時に、自分自身について、また自分の生き方について考える良い機会になることを望んでいる。</p>	
<b>評価方法</b>	
平常点 (25%)、授業毎の小レポート (25%)、礼拝レポート (25%)、期末レポート (25%) を合わせて評価する。	
<b>教科書</b>	
『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス	

<b>キリスト教概論 A</b>	春 週1回 2単位
担当者：田中 かおる	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 目的 この授業は、聖学院大学の建学の精神であるキリスト教への理解を深めることを目的とする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ キリスト教入門の位置づけである。しかも基礎となるべきものである。</p> <p>3. 学びの意義と目標 キリスト教は、現在の私達の日常生活、また明治以降の日本の幼児教育界にもいろいろな形で影響を与えてきた。そういうことを点検しながら、キリスト教に親しみ、聖書のメッセージに直接触れて、理解を深めていきたい。 聖書は旧約聖書を取り上げ、そこに示されている人間観とそれに対する神の関わりという視点から学び、今日の社会の問題との接点を共に考えていく。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>評価方法</p> <p>(1) 授業出席 20%</p> <p>(2) レポート提出 40%</p> <p>(3) 学期末試験 40%</p> <p>出席とレポート提出を重視する。</p>	
<b>教科書</b>	
『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス	

<b>キリスト教概論 A</b>	春 週1回 2単位
担当者：藤原 淳賀	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>本講義は、キリスト教に初めて触れる学生諸君が、キリスト教の基本的かつ本質的内容を理解できるようにすることを目的としている。</p> <p>春学期は、聖書について、神について、人生について、キリスト教およびプロテスタンティズムについて概観し、旧約聖書に記された重要な出来事を概観する。</p>	
<b>評価方法</b>	
クイズ (小テスト) 60% 期末試験 40%	
<b>教科書</b>	
『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス	

<b>キリスト教概論 A</b>	春 週1回 2単位
担当者：柳田 洋夫	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(内容)</p> <p>キリスト教は、民主主義や資本主義を柱とするこの近代世界を成立させた原動力であるとともに、私たちに生きる勇気と指針を与えるものでもある。春学期は、初学者にも理解できるキリスト教入門を心がけつつ、キリスト教信仰の概略と旧約聖書について学ぶ。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>本学における基礎科目に属する必修科目である。</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>聖書に親しみ、キリスト教についての基礎知識を習得するとともに、キリスト教によって培われる新しい生き方とは何かについて考察し、それぞれの実践に生かす。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席・参加度40%、試験40%、礼拝レポート20%。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。	
<b>教科書</b>	
『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス	

<b>キリスト教概論 A</b>	春 週1回 2単位
担当者：左近 豊	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>キリスト教の基本的な内容を、聖書に即して学ぶ。特に春学期は旧約聖書が語るダイナミックな世界観、人間観、救済観、共同体観などに触れ、聖書からの挑戦を受けて、現代社会を創造的に捉える視点を養う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>基礎科目に属する必修科目。キリスト教について初めて学ぶ人を対象とする。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>聖書の世界観、人間観、救済観、共同体観、終末観について記述することができる。</p> <p>聖書、キリスト教的視点から現代社会を創造的に捉え、論じることができる。</p>	
<b>評価方法</b>	
期末試験40% 出席・授業参加30% 礼拝出席レポート20% 小クイズ (5回) 10%	
<b>教科書</b>	
『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス	

<b>キリスト教概論 B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：菊地 順	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1)内容</p> <p>初めてキリスト教に触れる学生を念頭に置きながら、現代世界の成立において重要な役割を果たしてきたキリスト教の基本的な点について、聖書を中心に学びます。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ</p> <p>キリスト教は、大学の建学の理念の根幹をなすだけでなく、現代世界の一つの基底をなす重要な位置を持っていますので、この授業は大学での学びの基礎となる科目です。</p> <p>(3)学びの意義と目標</p> <p>春学期の学びを踏まえ、主にキリスト教の中心をなすイエス・キリストの生涯と教えについて、新約聖書を用いて、できるだけ詳しく学びます。また授業では、できるだけ映像なども取り入れて、親しみやすい内容にしたいと思えます。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席状況、課題、試験の全体を評価して成績を出します。割合は、出席30%、課題20%、試験50%です。ただし、欠席が3分の1以上の人、また課題の未提出の人は、試験を受ける資格がありません。	
<b>教科書</b>	
『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス	

<b>キリスト教概論 B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：E. D. オズバーン	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容：この講義は、キリスト教概論 A で最後に学んだ福音(ゴスペル) メッセージの概要を基にして構成していきます。学期の前半はイエス・キリスト：その生涯、死、そして復活；新約聖書に書かれたその主な教え；その神性と神の存在をあらわすために行った数々の奇跡に焦点を当てます。また、聖書のいくつかの内容を概略した後、キリスト教の根本的な教理を要約していきます。学期の後半においては、アメリカにおける民主主義の発展を例として使い、キリスト教が世界の歴史に与えた影響について考えていきます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：聖学院大学基礎科目群の必修科目</p> <p>3. 学びの意義と目標：講義の主要な目的は受講者がイエス・キリストの教えに親しむことであり、また、世界の歴史上の影響に注目し、学ぶことです。尚、受講者の個々の人生における福音メッセージの関連を見つめることにあります。</p>	
<b>評価方法</b>	
読書レポート (20%)、教会出席レポート及び全学礼拝レポート (30%)、テスト (30%)、出席と授業参加 (20%) を判定して評価します。	
<b>教科書</b>	
『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス	

<b>キリスト教概論B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：石田 学	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 講座の目的 わたしたちの世界は、いろいろな問題が複雑に絡み合い、単純に善悪を決めることのできない世界です。そのような世界の中であって、わたしたちはできるだけ善い生き方を志し、努める責任があります。この講座では「キリストの教えと働き」を前半に学び、後半ではこの世界の中でわたしたちがどう生きるべきかを、キリスト教的理解に基づいて、共に考えてゆきます。</p> <p>2. 講座の進め方 キリストの教えとおこないを概観し、十字架と復活の意味を学びます。そのうえで、今日の世界でわたしたちが直面し、判断を迫られる諸問題について具体的に考えてみましょう。ビデオや映像などを通して具体的に問題提起し、理解の助けとしてゆきます。</p> <p>3. 目標 キリストについての知識を身に付け、キリスト教的視点に基づいて物事を考えることのできる基礎を築きます。</p>	
<b>評価方法</b>	
学期末試験80% 課題レポート10% 出席評価10%	
<b>教科書</b>	
『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス	

<b>キリスト教概論B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：山ノ下 恭二	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 目的 本講義ではキリスト教の基礎である新約聖書の内容に詳しく解説する。イエスの生涯、十字架と復活、教会の成立、ヨーロッパ世界への伝道を解説する。 新約聖書の用語を詳しく解説し、キリスト教が伝えようとする贖い、信仰、義、愛、を解説することによって、学生が正しい理解をもってキリスト教の本質を把握することを目的とする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ キリスト教入門的な位置づけであり、キリスト教関連科目の基礎となるべきものである。</p> <p>3. 学びの意義と目標 新約聖書の内容を学生が把握し、キリスト教についてより深く知るようにむかわせること。</p>	
<b>評価方法</b>	
授業出席は、授業数の3分の2以上の出席。全学礼拝レポート、教会礼拝レポートの提出を重視。定期試験を実施。授業態度を評価しつつ、総合評価する。授業出席30%、試験30%、レポート提出30%、授業態度10%。	
<b>教科書</b>	
『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス	

<b>キリスト教概論B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：佐野 正子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 キリスト教の理解を深めるために、学期の前半では、旧約聖書に基づいて、その世界観、人間観、イスラエルの民の歴史を学び、学期の後半では、キリスト教の歴史と文化について学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目に属する一年生の必修科目。キリスト教主義大学の根幹となる科目であり、本学の教育全体の学びの基礎となるべき科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 キリスト教に初めて触れる学生が、聖書に親しみ、キリスト教の基本的かつ本質的内容を理解するとともに、キリスト教の歴史や文化を学ぶことによって教養を身につけ、また現代社会をとらえる目を養うことを目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
毎回の授業での小レポート、礼拝レポート、学期末試験を総合的に判定して評価する。	
<b>教科書</b>	
『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス	

<b>キリスト教概論B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：久保島 理恵	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1)内容 本講義では主に旧約聖書を取り上げる。よく知られているエピソードを取り上げながら、わたしたちが人生の中で直面する諸問題と関連づけて考えていく。また新約聖書とのつながりも明らかにしたい。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ 「神を仰ぎ、人に仕う」というスクール・モットーは、キリスト教信仰に貫かれている。従って、本講義は自分の学びの場の土台を知るという意味をもっている。</p> <p>(3)学びの意義と目標 旧約聖書は単なる遠い昔の歴史物語ではない。そこには、現代に生きるわたしたちへの力強いメッセージがある。旧約聖書の学びを通して、キリスト教への理解を深めるとともに、自分の生き方を見つめ、またこの現代社会をとらえる目を養ってほしい。</p>	
<b>評価方法</b>	
平常点(25%)、授業毎の小レポート(25%)、礼拝レポート(25%)、期末レポート(25%)を合わせて評価する。	
<b>教科書</b>	
『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス	



<b>キリスト教概論B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：田中 かおる	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 目的 春学期の授業内容を前提に、新約聖書におけるイエス・キリストのメッセージを学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 春学期の内容を前提にしつつ、引き続きキリスト教入門の位置づけであり、基礎である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 今学期は、聖書が人間をどう見ているか、というところに、キリスト教教育の鍵があることを共に確認していきたい。また、神の導きに従った人々の生涯に触れ、キリスト者としての歩んだ人々の生き方を学ぶ。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>(1) 授業出席 20%</p> <p>(2) レポート提出 40%</p> <p>(3) 学期末試験 40%</p> <p>出席とレポート提出を重視する。</p>	
<b>教科書</b>	
<p>『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス</p>	

<b>キリスト教概論B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：藤原 淳賀	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>本講義は、キリスト教に初めて触れる人が、キリスト教の基本的しかし本質的内容を理解できるようにすることを目的としている。</p> <p>秋学期には、新約聖書を中心に、イエス・キリストについて、人について、救いについての理解を深める。またキリスト教史とプロテスタンティズムについて概観する。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>クイズ 60%</p> <p>期末テスト 40%</p>	
<b>教科書</b>	
<p>『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス</p>	

<b>キリスト教概論B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：柳田 洋夫	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>〈内容〉 キリスト教は、民主主義や資本主義を柱とするこの近代世界を成立させた原動力であるとともに、私たちに生きる勇気と指針を与えるものでもある。秋学期は、初学者にも理解できるキリスト教入門を心がけつつ、新約聖書と教会の歴史について学ぶ。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 本学における基礎科目に属する必修科目である。</p> <p>〈学びの意義と目標〉 聖書に親しみ、キリスト教についての基礎知識を習得するとともに、キリスト教によって培われる新しい生き方とは何かについて考察し、それぞれの実践に生かす。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>出席・参加度40%、試験40%、礼拝レポート20%。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。</p>	
<b>教科書</b>	
<p>『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス</p>	

<b>キリスト教概論B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：左近 豊	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 キリスト教の基本的な内容を新約聖書、キリスト教の歴史を通して学ぶ。秋学期は、「イエス・キリストとは誰か？」との問いを巡って新約聖書、キリスト教史の中でなされてきた様々な証言に耳を傾ける。そしてこれらのキリスト証言が日本にもたらした影響について学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目に属する必修科目。キリスト教について初めて学ぶ人を対象とする。</p> <p>3. 学びの意義と目標 イエス・キリストについて新約聖書、キリスト教の歴史においてどのような理解がなされてきたかを述べる キリスト教と日本の出会い、その影響について論じることができる</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>期末試験40%</p> <p>出席・授業参加30%</p> <p>礼拝出席レポート20%</p> <p>小クイズ(5回) 10%</p>	
<b>教科書</b>	
<p>『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス</p>	

<b>キリスト教カウンセリング論</b>	秋 週1回 2単位
担当者：藤掛 明	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 現代のキリスト教界にあっては、心理カウンセリングは好意的に迎えられる一方で、信仰とは無関係に一般理論や技術体系が適用されることが多い。本講義では、そうした現状をふまえながら、聖書の示す人間観や世界観に照らし、またキリスト教界の歴史の変遷に照らし、キリスト教信仰と心理カウンセリングの営みがどのように関係し、カウンセリングを用い得るのかについて理解していく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ キリスト教の教理や人間理解を、カウンセリングという新しい観点から眺め直し、その理解を深めることになる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 心理カウンセリングの諸側面からキリスト教信仰を理解することになること。</p>	
<b>評価方法</b>	
評価は、試験（50％）を中心に、授業内で行うミニテストおよび出席（50％）を加味して行う。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する 藤掛明『ありのままの自分を生きる』一出版社	

<b>キリスト教教育論A</b>	春 週1回 2単位						
担当者：森田 美千代							
<b>講義の目標及び概要</b>							
<p>内容 今年度は、ホーレス・ブッシュネル著『キリスト教養育』を読み、そのなかに出てくるキリスト教教育に関するいろいろな基本的考え方を学ぶことにする。 カリキュラム上の位置づけ 児童学科2年生を対象とした専門科目である。もちろん、児童学科3年生や4年生も受講できる。 学びの意義と目標 このコースでブッシュネルの『キリスト教養育』をしっかりと学ぶことは、キリスト教教育の一つの重要な理論をマスターすることであり、そして、そのことは、現在実際におこなわれているキリスト教教育を観察したり評価する時の一つの有効な視点を提供してくれることになる。</p>							
<b>評価方法</b>							
<table border="0"> <tr> <td>出席</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レスポンス・ペーパー</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>期末レポート</td> <td>40%</td> </tr> </table>		出席	30%	レスポンス・ペーパー	30%	期末レポート	40%
出席	30%						
レスポンス・ペーパー	30%						
期末レポート	40%						
<b>教科書</b>							
プリントを配布する							

<b>キリスト教史</b>	秋 週2回 4単位
担当者：片柳 榮一	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>キリスト教にとって、歴史は独特の意味をもつ。M.エリアーデが『永遠回帰の神話』で述べているように、古代人は歴史に深い怖れをもっていた。歴史は意味のない混沌であり、歴史を越えた原初を模倣することにより、辛うじて耐えることのできたものである。古代で例外をなしたのはイスラエルの預言者たちであった。彼らは歴史の混沌のうちに統一を見出そうとした。この精神をキリスト者たちも受け継いでいる。彼らは歴史の中で、歴史を越えたものに接し、そこから新しい始まりをなそうとしてきた。そこから一回的な歴史の歩みが自覚的になされたのである。 それぞれの時代が担う歴史の越えがたく重い、しかも文化的に価値ある限定（たとえばヘレニズムの文化世界、中世の封建社会）の中でその刻印を決定的に受けながら、キリスト者たちはそれを越えた異なる光に照らされて、そうした限定を少しずつ変えていったのである。そのような歩みとしてキリスト教の歴史を捉え直してみたい。</p>	
<b>評価方法</b>	
授業中に何回かレポートを書いてもらった上、最終試験をし、出席点も加味して評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>キリスト教社会倫理A</b>	春 週1回 2単位
担当者：菊地 順	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>倫理学というのは、平たく言えば、よりよい人間の生き方、あるいはより正しい人間の生き方について考える学問ですが、この授業は、「キリスト教」社会倫理とあるように、それをキリスト教の視点に立って考えるものです。しかし、また同時に、キリスト教「社会倫理」とあるように、それは広く社会に目を向けた中で考察されます。その考察を、今年度は特に「平和」の問題に集中して行いたいと思います。ただし、「平和」というのは、単に戦争のない状態のことではなく、もっと豊かな内容を持つ言葉であり、そのことを具体的な事例を検討しながら考えていきたいと思っています。 具体的には、まずキリスト教の考える「平和」について考察したいと思います。そこには、いわゆる戦争のない平和ともっと広い意味での平和が認められますが、そのそれぞれを吟味したあと、特に20世紀に事例を求め、その具体的な内容を検討し、人間の生き方について学びたいと思います。そして、そうした学びをおおして、特に人間の尊厳とか人格・人権といった価値の尊さについて学ぶことができればと思います。</p>	
<b>評価方法</b>	
評価は、出席、課題、試験の全体を総合して出します。全体に占める割合は、出席は20％、課題は30％、試験は50％です。しかし、欠席が3分の1以上の人、また課題を出さない人は、試験を受ける資格がありませんので、注意してください。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>キリスト教社会倫理A</b>	秋 週1回 2単位
担当者：山口 博	
<b>講義の目標及び概要</b> 本講義は、「人間実存の神秘への導入」(inducting)を重視しつつ聖書を学び、複雑な現代社会の諸問題を、キリスト教社会倫理学の領域で考察したい。それは、キリスト教の立場から社会問題に即答や解答を与える倫理的な宣言 (ethical pronouncement) としてではなく、人間のおかれている倫理的状況を、キリスト教の啓示の下に分析・洞察 (analysis reflection) を加えるものである。	
<b>評価方法</b> 毎回の出席 (30%)、全学礼拝および教会礼拝出席レポート (20%)、期末レポートおよびノート提出 (50%) の総合点で評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>キリスト教社会倫理B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：菊地 順	
<b>講義の目標及び概要</b> 倫理学というのは、平たく言えば、よりよい人間の生き方、あるいはより正しい人間の生き方について考える学問ですが、この授業は、「キリスト教」社会倫理とあるように、それをキリスト教の視点に立って考えるものです。しかし、また同時に、キリスト教「社会倫理」とあるように、それは広く社会に目を向けた中で考察されます。その考察を、秋学期は、アメリカ合衆国における人種問題、特にアフリカ系アメリカ人 (黒人) に注目して行いたいと思います。 具体的には、まずアメリカ合衆国の歴史について学びます。そこには奴隷制以前の歴史、奴隷制に至る歴史、また奴隷制の実態とそれに対する戦いの歴史、そしてその後の人種隔離時代の歴史がありますが、またそこには同時にキリスト教との深い関わりもあり、その両面から考察していきます。そして、その具体的な内容の検討をとおして、人間の生き方について、特に人間の尊厳とか人格・人権といった価値の尊さについて学びたいと思います。	
<b>評価方法</b> 評価は、出席、課題、試験の総合的判断によって行います。全体に占める割合は、出席は20%、課題は30%、試験は50%です。ただし、欠席が3分の1以上の人、また課題を出さない人は試験を受ける資格がありませんので、注意してください。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>キリスト教社会倫理B</b>	春 週1回 2単位
担当者：山口 博	
<b>講義の目標及び概要</b> 本講義は、「人間実存の神秘への導入」(inducting)を重視しつつ聖書を学び、複雑な現代社会の諸問題を、キリスト教社会倫理学の領域で考察したい。それは、キリスト教の立場から社会問題に即答や解答を与える倫理的な宣言 (ethical pronouncement) としてではなく、人間のおかれている倫理的状況を、キリスト教の啓示の下に分析・洞察 (analysis reflection) を加えるものである。	
<b>評価方法</b> 毎回の出席 (30%)、全学礼拝および教会礼拝出席レポート (20%)、期末レポートおよびノート提出 (50%) の総合点で評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>キリスト教信仰と文化</b>	春 週1回 2単位
担当者：藤原 淳賀	
<b>講義の目標及び概要</b> 本講義のタイトルは「キリスト教と文化」でない。「キリスト教」は既に文化の中にあり、「キリスト教と文化」という問題は、「相対」対「相対」の事柄となる。本講義のタイトルは「キリストと文化」でもない。これは絶対的存在であるキリストと相対的文化との関わりを示すことになる。「キリスト教信仰」という言葉により、私は、既に文化の中にあるキリスト教の本質を表そうとしている。それは絶対的の神の啓示により、相対的文化の中で生まれた絶対と相対の「境界線」にある。本講義ではその「キリスト教信仰」と相対的「文化」との関係を、特に文化を変革していくという観点から教会論を中心にして考察していく。 本講義では、学生諸君がキリスト教信仰と文化との関係を理解し、今日の日本文化を形成している要因を批判的に検討する能力を養うことを目標とする。 毎回、授業レポートを提出してもらおう。初めの時期は講義内容のまとめを書いてもらおうが、次第に講義に対する君たち自身の考え (提示されたテーマに同意するのか、あるいは反対するのか、そうする根拠は何か) を書いてもらおう。それにより、論理的思考及び批判的思考を養う。	
<b>評価方法</b> 期末テスト 50% 授業レポート 50%	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する H・リチャード・ニーバー『キリストと文化』日本基督教団出版局 グレン・H・スタクセン、デービッド・P・ガッシー『イエスの平和(シャローム)を生きる』いのちのことば社 バウル・ディリッヒ『文化の神学』新教出版社 S・ハワード『平和を可能にする神の国』新教出版社 ジョン・ヨルダー『イエスの政治』新教出版社 鈴木有郎『ラインホルド・ニーバーとアメリカ』新教出版社	

キリスト教とアジア文化A	春	週1回	2単位
担当者：高 萬松			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 一年を通してアジアのキリスト教について学ぶが、本学はアジア大陸におけるキリスト教文化を中心に学ぶ。歴史的状況を踏まえた上で、キリスト教がアジア諸国にどのような影響を与えたかについて、またキリスト教文化の現状を理解する。			
2. カリキュラム上の位置づけ 本講義は全学科2年生を対象とした基礎科目（キリスト教関連科目）である。3年生、4年生も受講できる。			
3. 学びの意義と目標 アジア諸国の民族、社会、文化、そして教会の概観を通して、キリスト教の理解を深める。			
<b>評価方法</b>			
出席と授業態度20%、礼拝レポート20%、読書レポート10%、中間試験10%、期末試験40%			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

キリスト教とアジア文化B	秋	週1回	2単位
担当者：高 萬松			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 一年を通してアジアのキリスト教について学ぶが、本学は韓国におけるキリスト教文化を中心に学ぶ。歴史的状況を踏まえた上で、キリスト教が韓国にどのような影響を与えたかについて、またキリスト教文化の現状を理解する。			
2. カリキュラム上の位置づけ 本講義は全学科2年生を対象とした基礎科目（キリスト教関連科目）である。3年生、4年生も受講できる。			
3. 学びの意義と目標 韓国の国家、民族、社会、文化、そして教会の概観を通して、キリスト教の理解を深める。			
<b>評価方法</b>			
出席と授業態度20%、礼拝レポート20%、読書レポート10%、中間試験10%、期末試験40%。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

キリスト教とアメリカ思想A	春	週1回	2単位
担当者：高橋 義文			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 キリスト教とさまざまな思想との交流関係をとくに20世紀アメリカに集中して考察する。その際、20世紀の代表的神学者・知識人ラインホルド・ニーバーの思想を媒介にし、20世紀アメリカのキリスト教、デモクラシー、人種問題、国際政治をめぐるさまざまな思想について検討する。本講義では、1920年代までを扱う。			
2. カリキュラム上の位置づけ 必修科目キリスト教概論を基礎として、キリスト教の多様な展開・影響・応用について考察する、本学建学の精神に関わる学びである。			
3. 学びの意義と目標 (1)20世紀アメリカの諸思想を概観する。(2)ラインホルド・ニーバーの思想の概要を把握する。(3)ニーバーの視点と交差するアメリカ思想の特質・問題・意義をとらえる。(4)アメリカとは何かをニーバーの視点から考察する。(5)現代日本におけるその意味を考える。			
<b>評価方法</b>			
1. 毎回の小レポート。出席点を兼ねる。30% 2. 全学礼拝・教会出席レポート 20% 3. 期末レポート 50%			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

キリスト教とアメリカ思想B	秋	週1回	2単位
担当者：高橋 義文			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 キリスト教とさまざまな思想との交流関係をとくに20世紀アメリカに集中して考察する。その際、20世紀の代表的神学者・知識人ラインホルド・ニーバーの思想を媒介にし、20世紀アメリカのキリスト教、デモクラシー、人種問題、国際政治をめぐるさまざまな思想について検討する。本講義では、1930年代以降を扱う。			
2. カリキュラム上の位置づけ 必修科目キリスト教概論を基礎として、キリスト教の多様な展開・影響・応用について考察する、本学建学の精神に関わる学びである。			
3. 学びの意義と目標 (1)20世紀アメリカの諸思想を概観する。(2)ラインホルド・ニーバーの思想の概要を把握する。(3)ニーバーの視点と交差するアメリカ思想の特質・問題・意義をとらえる。(4)アメリカとは何かをニーバーの視点から考察する。(5)現代日本におけるその意味を考える。			
<b>評価方法</b>			
1. 毎回の小レポート。出席点を兼ねる。30% 2. 全学礼拝・教会出席レポート 20% 3. 期末レポート 50%			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

キリスト教とアメリカ文化A		春	週1回	2単位
担当者：森田 美千代				
<b>講義の目標及び概要</b>				
内容 今後数年間にわたって、キリスト教がアメリカ文化に与えた影響を、時代順にみていく予定である。今年度の春学期は、19世紀のアメリカにおいて、キリスト教と文化（生活）との相互関係のドラマがどのように展開されていったかを、ハリエット・ピーチャー・ストウの『アンクル・トムの小屋』を通して学ぶことにする。				
カリキュラム上の位置づけ このコースは、全学科の2年生を対象とした基礎科目（キリスト教関連科目）である。もちろん、全学科の3年生や4年生も受講できる。				
学びの意義と目標 アメリカにおけるキリスト教と文化の最初の頃(19世紀頃まで)をしっかりと学んでおくことは、その後のアメリカ—20世紀と21世紀—を理解するうえで大きな助けになる。				
<b>評価方法</b>				
出席 30% 礼拝レポート 30% 期末レポート 40%				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

キリスト教とアメリカ文化B		秋	週1回	2単位
担当者：森田 美千代				
<b>講義の目標及び概要</b>				
内容 今後数年間にわたって、キリスト教がアメリカ文化に与えた影響を、時代順にみていく予定である。今年度の秋学期は、19世紀のアメリカにおいて、キリスト教と文化（生活）との相互関係のドラマがどのように展開されていったかを、ハリエット・ピーチャー・ストウの『アンクル・トムの小屋』を通して学ぶことにする。				
カリキュラム上の位置づけ このコースは、全学科の2年生を対象とした基礎科目（キリスト教関連科目）である。もちろん、全学科の3年生や4年生も受講できる。				
学びの意義と目標 アメリカにおけるキリスト教と文化の最初の頃(19世紀頃まで)をしっかりと学んでおくことは、その後のアメリカ—20世紀と21世紀—のアメリカ—を理解するうえで大きな助けになる。				
<b>評価方法</b>				
出席 30% 礼拝レポート 30% 期末レポート 40%				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

キリスト教と音楽A		春	週1回	2単位
担当者：渡辺 善忠				
<b>講義の目標及び概要</b>				
(1)聖書の言葉が音楽でどのように表現されているかを多面的な視点で学ぶ (2)聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰を理解することを目標とする ☆聖書の言葉を基としてキリスト教音楽を深く味わうことを目指します。 「キリスト教と音楽A」(前期)では、旧約聖書に基づいて作曲されたキリスト教合唱曲を中心として、聖書の言葉の解釈・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾けます。なお、「キリスト教と音楽B」(後期)では新約聖書による作品を学びますので、通年で受講される方を歓迎致します。 参考文献 ・聖書(旧新約聖書両方を用います) ・「聖書と音楽」(大野恵正著/新教出版社 2000年) ・「よくわかるキリスト教の音楽」(長谷川朝雄他著/キリスト新聞社 2000年) ・「大作曲家の信仰と生涯」(P.カヴァノー著・吉田幸弘訳/教文館 2000年) ・「教会音楽史と讃美歌学」(横坂康彦著/日本キリスト教団出版局 1993年) その他の参考文献について必要に応じてその都度お知らせします。				
<b>評価方法</b> 出席点と試験で評価致します。出席を重視しますので、三分の一以上欠席した場合は不合格となります。評点は、講義内容に関する試験の評価をもとに、出席状況、授業態度、礼拝レポート・教会レポートを勘案して評定致します。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

キリスト教と音楽B		秋	週1回	2単位
担当者：渡辺 善忠				
<b>講義の目標及び概要</b>				
(1)聖書の言葉が音楽でどのように表現されているかを多面的な視点で学ぶ (2)聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰を理解することを目標とする ☆聖書の言葉を基としてキリスト教音楽を深く味わうことを目指します。 「キリスト教と音楽B」(後期)では、新約聖書に基づいて作曲されたキリスト教合唱曲を中心として、聖書の言葉の解釈・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾けます。 参考文献 ・聖書(旧新約聖書両方を用います) ・「聖書と音楽」(大野恵正著/新教出版社 2000年) ・「よくわかるキリスト教の音楽」(長谷川朝雄他著/キリスト新聞社 2000年) ・「大作曲家の信仰と生涯」(P.カヴァノー著・吉田幸弘訳/教文館 2000年) ・「教会音楽史と讃美歌学」(横坂康彦著/日本キリスト教団出版局 1993年) その他の参考文献について必要に応じてその都度お知らせします。				
<b>評価方法</b> 出席点と試験で評価致します。出席を重視しますので、三分の一以上欠席した場合は不合格となります。評点は、講義内容に関する試験の評価をもとに、出席状況、授業態度、礼拝レポート・教会レポートを勘案して評定致します。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

<b>キリスト教と国際社会 A</b>	秋 週1回 2単位
担当者：姜 尚中	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>【内容】国際社会における平和の構築はいかにして可能か。こうした問題を、異なる宗教間の共存の問題としてとらえながら、国際平和を模索するキリスト教思想のなかにいかなる手がかりを見出すことができるかを探る。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】キリスト教関連科目（選択必修）の一つである。</p> <p>【学びの意義と目標】単に知識を学ぶのではなく、平和の構築にいかかにコミットしうるかを各自が思い描くことを期待する。</p>	
<b>評価方法</b>	
平常点（出席と授業へのコミットメント）（50%）及び学期末レポート（50%）により評価する。授業内での積極的な発言を期待する。	
<b>教科書</b>	
カント/宇都宮 芳明訳『永久平和のために』岩波文庫・岩波書店	

<b>キリスト教と国際社会 B</b>	春集中 2単位
担当者：早藤 昌浩	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>我々の暮らす日本を含めた民主主義及び市場経済を基本とする現代社会で、キリスト教と日常の経済社会活動との間にはどのような関連を見出せるのであろうか。また、多様な価値観が共存する現代国際経済社会において、聖書はいかなる行動規範を我々に示しているのか。この講義では、聖書の視点から、特に神に対する人間の呼応責任(stewardship)と隣人と世界に対する説明責任(accountability)という視点を中心に据え、国際社会の諸問題につき、特に経済的課題を中心として、受講者諸君とともに考えてみたい。</p>	
<b>評価方法</b>	
試験結果65%、授業態度・参加度及び出席率35%。4回以上欠席したら単位は与えない。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>キリスト教と心のケア</b>	春 週1回 2単位
担当者：村上 純子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 本講義では、「心のケア」とは何か、それとキリスト教はどう関係し、どう取り扱っていくべきなのかを見ていきます。社会的にも「カウンセリング」「心のケア」の重要性が取り上げられることが多いですが、その中には間違った情報や歪曲された考え方も多いのが現状です。この授業はカウンセラーになることを目的としたものではなく、心のケアに関して正しい基礎知識を持つことを目標としています。また、キリスト教的視点から「心のケア」をどう考え、実践していけばいいのかを検証していきます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 広く一般的な「心のケア」についての学びであり、入門的なものです。</p> <p>3. 学びの意義と目標 この授業を通して、「心のケア」の基礎知識を得ること、またキリスト教の人間観を理解すること、そして各自が自分に対する理解、また他者に対する理解を深めることを目標としています。</p>	
<b>評価方法</b>	
評価は授業中に行うミニレポート（25%）、出席・態度（25%）、試験にかかわるレポート（50%）を総合して行ないます。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>キリスト教と古典</b>	秋 週1回 2単位
担当者：原 一子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1) 〈内容〉 「人間は考える葦である」という有名な言葉を残したパスカル(1623～1662)の名著『パンセ』を講読する。パスカルの生涯や思想、当時の宗教事情などを学んだ上、毎回、受講者の心に深く触れる節について発表してもらいながら、意見を述べ合う。パスカルのキリスト教理解、神と人間、人生に関する思索のあとを辿り、その思想を深く理解する。</p> <p>(2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 「基礎科目群」の「キリスト教関連科目」に属し、全学生を対象とする選択必修科目である。</p> <p>(3) 〈学びの意義と目標〉 キリスト教の古典をじっくりと精読し、共に考えることによって、キリスト教との関連において人間性の根源を探り、理解することを目標とする。パスカルの、神と向き合う真摯な態度や懊悩の足跡を辿ることは、一生の心の糧にもなる。</p>	
<b>評価方法</b>	
レポート（50%）、出席率（30%）、授業中の発表・課題の習得度（20%）、教会・礼拝出席報告などから総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
パスカル『パンセ』 中公文庫	

<b>キリスト教と自然科学A</b>	春 週1回 2単位
担当者：標 宣男	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1)近代科学は、西欧中世に生まれた独特の自然の理解の仕方である。この自然観の特徴を理解するために、日本における自然観を説明したのち、近代科学の母体となったギリシャ的なものを、キリスト教の教父達がどのように受容していったのかをたどり、西欧中世の自然観を明らかにする。</p> <p>(2)本講義は、選択必修であるキリスト教関連科目の一つである。</p> <p>(3)本講義によって、近代自然科学がキリスト教文化の中ではなくまれたことを理解し、キリスト教が文化的豊かさ知る一つの機会とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席とレポートおよび期末の試験により評価する。	
<b>教科書</b>	
標 宣男『科学史の中のキリスト教—ギリシャ哲学からカオス理論まで—』教文館	

<b>キリスト教と社会科学</b>	秋 週1回 2単位
担当者：松原 望	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>楽しく愉快な人生だったら宗教（ただしくは信仰）は要らないしかえって邪魔でうるさいと考える人は我が国では多いと思います。それはとにかくも、実際には人生はそういうものではありません。一つには、人間は残念ながら完全ではありませんから、そういう人間たちが作っている社会はいろいろと問題をかかえてしまい、それが逆に一人一人の人生に跳ね返ってきます。このことは今の現在の時代に限ったことではなく、ずっと大昔からそうです。聖書には何と書いてありますか。イエス・キリストはどう言っていますか。一つでもいいから知りましょう、学びましょう。映画を見ながら。</p> <p>「悩みの日に我を呼べ。我、汝（なんじ=あなた）を助けん」</p>	
<b>評価方法</b>	
出席点50%、期末テスト50%	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	
『聖書』	

<b>キリスト教と政治思想A</b>	春 週1回 2単位
担当者：川添 美央子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1)内容 本講義ではキリスト教の成立と展開の歴史を追いつつ、宗教と政治の様々な関係のあり方について考察する。キリスト教は長い歴史の中で、ある時は自らのなかに権力的要素を取り込んだり、あるいは政治権力と密着しすぎること、弱者を抑圧する方向に作用したことが多々あった。しかしまたある時は社会に活力を与えたり連帯を促したり、あるいは権力批判という形で政治の健全性を保ったり、また新しい政治社会のありかたを切り開くことも多かったのである。それぞれの作用のあり方の背後にはどのような思想があり、聖書のどの箇所がいかにかに解釈されたのか。宗教改革までの歴史を通して考えたい。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ 「キリスト教概論」程度の知識は前提とした発展的学習であるから、2年生以上の受講が望ましい。</p> <p>(3)学びの意義と目標 本講義を通じて、宗教が関わる様々なニュースを見た時、その背後にある政治と宗教のダイナミズムを読み取ろうとする人間になってもらえればと願う。</p>	
<b>評価方法</b>	
期末試験6割、平常点（出席率、毎回のリアクションペーパーの内容、積極的な質問）4割で評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>キリスト教と政治思想B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：川添 美央子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1)内容 近代以降、キリスト教は多方面からの挑戦を受けてきた。たとえば啓蒙主義や進化論といった近代科学の隆盛や、ナチズムなどの「国家の神話」に飲み込まれそうになるという危険である。これらの挑戦に対し、キリスト教はどのように応答し、それぞれの時代の社会形成に関わってきたのだろうか。またこの闘いはどのような時に成功し、あるいは失敗してきたのか。本講義ではこれらの問題を、西欧近代思想史に即し、中でもアメリカとドイツの歴史的経験に重点を置きつつ考えてみたい。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ キリスト教概論程度の知識は前提とした発展的学習であるため、2年生以上の受講が望ましい。</p> <p>(3)学びの目標 本講義を通じて、キリスト教に限らず宗教が関わる様々なニュースを見た時に（例えばイスラム圏での出来事も含む）、その背後にある政治と宗教のダイナミズムを読み取ろうとする人間になってもらえればと願う。</p>	
<b>評価方法</b>	
期末試験6割、平常点（出席率、毎回のリアクションペーパーの内容、積極的な質問）4割で評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>キリスト教とデモクラシー</b>	春 週1回 2単位
担当者：姜 尚中	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>【内容】3. 11後の混迷を深める現代社会において、心に深く傷を負った人々から「宗教は死んでからのこと」と排除される空気さえ漂う中、そもそも「宗教」とは、あるいはキリスト教とは何であるのだろうか？ こうした問いを導入としながら、宗教と公共性との関係について掘り下げて考察する。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】キリスト教関連科目（選択必修）の一つである。</p> <p>【学びの意義と目標】単に知識や教養の一部として宗教やキリスト教について学ぶのではなく、私たちの「生」にとってそれらもつ意味を主体的に見出すことを期待する。</p>	
<b>評価方法</b>	
平常点（出席と授業へのコミットメント）（50%）及び学期末レポート（50%）により評価する。授業内での積極的な発言を期待する。	
<b>教科書</b>	
富永茂樹『トクヴィル』岩波新書・岩波書店	

<b>キリスト教と日本思想</b>	秋 週1回 2単位
担当者：濱田 辰雄	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>日本は極東アジアに位置しており、いわゆる「東洋」(Orient)の一角を占めている。それゆえに日本思想も「東洋思想」の一部としての性格を有していることは否定しがたい。これについて、エッセー風に説き明かしたのが世界的な仏教学者鈴木大拙の『東洋的な見方』である。これにより「西洋宗教」とみなされているキリスト教とを比較しつつ両者の特徴と、又、総合の可能性を探ってみたい。但し、「日本思想」がそのまま「東洋的な見方」と言い得るのかという課題についても考えていきたい。</p>	
<b>評価方法</b>	
基本的に定期試験を実施し、その答案内容への評価（評点）を最大判定基準とする。その他に、出欠席・遅刻状況、レポート提出状況を平常点として判断する。その両方を総合的に判定して最終的に評価する。	
<b>教科書</b>	
鈴木大拙『東洋的な見方』岩波文庫	

<b>キリスト教と日本社会 A</b>	春 週1回 2単位
担当者：柳田 洋夫	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>（内容） 1年次でのキリスト教概論の内容をふまえ、キリスト教の日本社会に対する影響や貢献について具体的な事項に即して学ぶ。</p> <p>（カリキュラム上の位置づけ） 主としてプロテスタント・キリスト教的視点からキリスト教と日本社会の関わりについて学ぶ基礎・選択科目。</p> <p>（学びの目標） キリスト教の日本社会に対する影響や貢献について理解を深めるとともに、この学びを手がかりとして広く宗教と社会との関連についても自ら考えることを目指す。</p> <p>（参考文献）大木英夫『ピューリタン』（聖学院大学出版会）</p>	
<b>評価方法</b>	
出席・参加度40%、試験40%、礼拝レポート20%。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>キリスト教と日本宗教</b>	春 週1回 2単位
担当者：濱田 辰雄	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>日本人にとって「宗教」は、一体どういう位置を持っているのか。このテーマは近代以降我々にとって変わらぬ研究テーマである。どの宗教アンケートでも自覚的に特定の宗教、信仰に関わっている人は約3割であるが、他の7割の人々が一切宗教と無関係というわけではない。初詣をはじめとして年中行事や通過儀礼に関わる宗教的行為には相当数の人々が参加する。キリスト教の領域で言うと、たとえ未信者であってもクリスマス行事やキリスト教式結婚式に関わる人は決して少なくない。こういう状況の中で、我々日本人と宗教のあり方、そして諸外国の宗教文化との関わりを考察していきたい。</p>	
<b>評価方法</b>	
基本的に定期試験を実施し、その答案内容への評価（評点）を最大判定基準とする。その他に、出欠席・遅刻状況、レポート提出状況を平常点として判断する。その両方を総合的に判定して最終的に評価する。	
<b>教科書</b>	
武光 誠『日本人にとって「宗教」ってなんだろう』河出書房新社	



<p>キリスト教と福祉活動の実際A—キリスト教と相談支援— <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">春</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">週1回</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">2単位</span></p>
<p>担当者：吉岡 光人</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容 キリスト教は「神を愛すること」と「隣人を自分のように愛すること」を最も大切にしている。自分を大切にすることを知るためには、自分自身を知ることが必要である。その上で隣人を大切にすることができる。この授業ではこの理解に立って、他者援助のための「傾聴」の意義を学び、傾聴の基本的技法を学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 「傾聴」の基礎となる知識と技法を習得する。</p> <p>3. 学びの意義と目標 この授業では、他者援助の中でも最も大切な「傾聴」の意義を学び取り、さらにそれを自分の身につけることを目標としている。そのため、知識の習得だけでなく、それを用いることのできるような技術と感性を磨くことを目指す。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>毎回の授業は講義だけでなく、実際に感じてもらうためにロールプレイなども取り入れる予定である。積極的に授業に参加することが期待される。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>

<p>キリスト教と福祉活動の実際B—キリスト教と相談支援— <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">秋</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">週1回</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">2単位</span></p>
<p>担当者：吉岡 光人</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容 キリスト教と福祉活動の実際Bでは、各発達段階において生じる問題を理解すること、および障がいや喪失体験をした人とどう関わるかということを中心に講義する。 理論と同時にロールプレイなどを通して、他者の感情の受け止め方を学ぶ。更に、他者援助を通して自己洞察を深めることを目的とする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ キリスト教と福祉活動の実際Aで学んだ傾聴の理論を実際の場面で活用できるようにするための授業</p> <p>3. 学びの意義と目標 他者の話を正確に聞き取ること、とりわけ他者の感情を聞き取るために必要な知識及び技術の習得</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>授業の中で演習的要素も取り入れる予定なので、積極的に参加することが期待される。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>

<p>キリスト教と文学A <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">春</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">週1回</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">2単位</span></p>
<p>担当者：黒木 章</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>〔内容〕遠藤周作の作品を読む。日本の代表的なキリスト教作家遠藤周作の作品にはどんな魅力があり、どんな問題があるかを検証する。 〔カリキュラム上の位置付け〕入学後に学んだキリスト教概論などの基礎的な認識や知識を踏まえて各論的に展開する選択必修の応用科目の一つである。ここでの主体的な取組みと問題発掘から次の年次に置かれているキリスト教の専門科目と卒業研究等につながることを意図した本学の根幹科目である。 〔学びの意義と目標〕遠藤周作の作品が日本だけでなく世界中で注目され、さまざまな物議を生んだのはなぜか。彼の小説作りがうまかったこと、特に日本から西洋へ向けてのキリスト教徒としての問題提起が時宜を得ていたからともいえる。それは近代日本人の生き方（思考法や態度）と現代世界の宗教的問題を誠実に探求するものであった。受講生の中には作家志望の人もあると思われるので、ここでは遠藤の小説作りの技法を検証しながらグローバルな社会に生きる我々の課題を考えてみる。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>授業出席状況を10%、普段の授業参加態度を20%、学期の途中で課す2回の小レポート（各1200字程度）を30%、学期末の試験に替わるレポートを40%とみる。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>遠藤周作『侍』新潮文庫 遠藤周作『沈黙』新潮文庫 遠藤周作『深い河』講談社文庫</p>

<p>キリスト教と文学B <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">秋</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">週1回</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">2単位</span></p>
<p>担当者：黒木 章</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>〔内容〕日本近現代を代表する作家夏目漱石と大江健三郎についてそれぞれの代表作『心』と『個人的な体験』をキリスト教の観点から問題にしてみる。 〔カリキュラム上の位置付け〕入学後に学んだキリスト教についての基礎的な認識や知識を踏まえて各論的に展開するキリスト教関連科目の一つである。ここでの主体的な取組みが次の段階に組み込まれているキリスト教に関する専門科目や卒業研究につながることを期待されている本学の根幹科目である。 〔学びの意義と目標〕約100年前に書かれた明治期を代表する夏目漱石の代表作『心』は、発表以来日本の半数以上の人々が読み続けてきたのはなぜか。ここで提示された問題が近現代日本人の基本的な問題であり、それは未だに克服されない課題であり続けたからであろう。また現代日本を代表する作家大江健三郎がノーベル文学賞を受賞したのはなぜか。彼が探求し提示し続ける問題が現代の知的世界にある種の希望を与えるからではないのか。二つの作品をキリスト教の観点から問題にすることで意外な発見がある。丁寧な読解によって日本と世界の人々が取組むべき問題を考える。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>授業出席状況を10%、授業参加態度を20%、学期の途中で課す2回の小レポート（各1200字程度）を30%、学期末の定期試験に替わるレポートを40%とみる。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>夏目漱石『心』新潮文庫 大江健三郎『個人的な体験』新潮文庫</p>

<b>キリスト教と法</b>	秋 週1回 2単位
担当者：加藤 恵司	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>キリスト教は、聖書を基準としています。もし、聖書以外の文獻に権威を置かならば異端、異宗教と称されます。そこで、前半では聖書の中に表わされた法、法生活、法環境について追究します。19世紀にゾームという学者は「教会法は教会の本質とは矛盾する」という名言を残しました。(第11講目に講義)彼の主張は、聖書は愛の教えのゆえに法律にはなじまないという主張です。ところが、聖書の生活の中には多くの法的な考え方が多く見られます。「法」は正義が価値ですが、愛と正義は、ベクトル的には同じ方向に向いています。ですから、前半では、愛と正義に立脚して聖書の理解を深めます。</p> <p>後半はキリスト教法思想史です。キリスト教会は、多くの歴史の変遷を経てきましたが、特に教会の制度に焦点を当てて考えます。カトリック、プロテスタントの相違、宗教改革によって広がった教派について考えます。教派は、歴史的事情と教会法的な制度と深く関係しているからです。そして、私達の生活の中にもキリスト教、聖書的な発想が多くあることに気がついて欲しいと思います。</p> <p>このような理解は、西欧文化を理解するために役に立つばかりでなく、自分の生き方を再発見できるはずで</p>	
<b>評価方法</b>	
講義の出席を重視し、毎回のノート提出によって評価する。ノート小テストを行い、合計点で評価をする。	
<b>教科書</b>	
加藤恵司『法・思想・歴史』ジーオー企画出版 『聖書』日本聖書協会	

<b>キリスト教と物語</b>	秋 週1回 2単位
担当者：藤原 淳賀	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>本講義で扱う「物語」は、架空の作り話を意味しない。そうではなく、事実に基づいた「解釈された歴史」を意味する。私たちが歴史を一貫したものとして解釈しようとするとき、「物語的」にならざるを得ない。私たちが自分について語ろうとするとき、それは物語となる。</p> <p>そのような意味において私たちは物語的存在である。</p> <p>旧新約聖書においても、物語形式が多く用いられている。私たちが実存的に神について考え、語ろうとするとき、私たちは物語的に考え、物語的に語ろうとすることになる。</p> <p>キリスト教的に考えるということは、私たちの個々の物語を、あるいは(家族、日本といった)私たちの共同体の物語を、壮大なる神の救いの物語、神の民の物語の中で理解するということを意味する。</p> <p>本講義では、学生諸君が(1)自らの物語をもっていることを理解させ、表現できるようにすること、(2)キリスト教と物語との関係を理解し表現できるようにすること、そして(3)自らの物語を、聖学院大学において壮大なる神の物語と重ね合わせるができるようになることを目標としている。</p>	
<b>評価方法</b>	
レポート(自分史) 40% 試験 60%	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>キリスト教と歴史形成A</b>	春 週1回 2単位
担当者：石田 学	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 講座の目的</p> <p>キリスト教は二千年の歴史をとおして、西欧社会と文化の形成に大きな役割を果たしてきました。この講座では、キリスト教がどのような仕方で・どのような意味において、歴史形成に関与してきたかを概観し、そのことを通して、現代のわたしたちが生きる世界を理解する一助にしたいと思います。</p> <p>2. 講座の進め方</p> <p>本講座は、教会のはじまりから西暦1500年までを区切りとして、十四のポイントに焦点を当てる仕方で、キリスト教がどのように歴史形成と関係してきたかを学びます。できるだけ多くの画像、図版などを用いて理解の助けとし、楽しみながら学べる工夫をしてゆきます。</p> <p>3. 講座の目標</p> <p>本講座終了時に、近代初期までの西欧歴史がキリスト教とどう関係してきたかの概略を把握することを目指します。</p>	
<b>評価方法</b>	
学期末試験80% 課題レポート10% 出席評価10%	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>キリスト教と歴史形成B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：石田 学	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 講座の目的</p> <p>キリスト教は二千年の歴史をとおして、西欧社会と文化の形成に大きな役割を果たしてきました。この講座では、キリスト教がどのような仕方で・どのような意味において、近代から現代までの歴史形成に関与してきたかを概観します。世界をよりよく理解し、未来を築いてゆく手がかりとなることを願っています。</p> <p>2. 講座の進め方</p> <p>本講座は、十五世紀から現代までを十五のポイントに焦点を当てる仕方で、キリスト教がどのように歴史形成と関係してきたかを学びます。できるだけ多くの画像、図版などを用いて理解の助けとしますので、ご期待下さい。</p> <p>3. 講座の目標</p> <p>近代から現代までの歴史形成にキリスト教がどう関与してきたか、その概略を把握できることを目指します。</p>	
<b>評価方法</b>	
学期末試験80% 課題レポート10% 出席評価10%	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

キリスト教人間学 A		春	週1回	2単位
担当者：佐野 正子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 人間とはなにか、自分とは誰かという問題を、「人格」という人間のあるべき姿、なるべき姿を求めつつ、探求していく。子どもに対するまなざしも意識したい。				
2. カリキュラム上の位置づけ キリスト教人間学は三年生必修科目として、聖学院大学のキリスト教教育の中心科目である。				
3. 学びの意義と目標 キリスト教の視点から人間の尊厳や、人格・人権といった価値の尊さについて学び、自己理解を深め、人間としての成熟をめざす。				
<b>評価方法</b>				
毎回の授業時の小レポート	60%			
礼拝レポート	20%			
学期末レポート	20%			
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

キリスト教人間学 A		秋	週1回	2単位
担当者：左近 豊				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 目的 「人間とは何か？」という問いについてキリスト教の歴史に足跡を刻んだ人物を取り上げて考察する。古代、中世、宗教改革期、そして現代それぞれの時代を生きたキリスト者の歩みを題材に、現代社会において「人間とは何か？」を新たに問うことを目的とする。				
2. カリキュラム上の位置づけ この科目は、人間福祉学部3年次に必修として課せられる、本学の特徴であるキリスト教科目の一つである。				
3. 学びの意義と目標 キリスト教的人間学の特質とその意義を、とくにキリスト教の人間観を通して理解する。それにかかわる用語や概念の意味を理解すること。それを現代に生きる人間とりわけ自分自身にとってどのような意味があるかを考えること。また、自分自身の生き方の模索に役立てること。				
<b>評価方法</b>				
出席・授業参加	30%			
予習レポート	10%			
礼拝出席レポート	20%			
人物レポート	40%			
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

キリスト教人間学 B		秋	週1回	2単位
担当者：佐野 正子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 キリスト教的「愛」をキーワードに、他者との関わりの中でいかに生きるべきかという問題を考え、人間についての理解を深めていく。				
2. カリキュラム上の位置づけ キリスト教人間学は、三年生必修科目として、聖学院大学のキリスト教教育の中心科目である。				
3. 学びの意義と目標 人間理解を深めることによって、人格の完成をめざすことを目標とする。				
<b>評価方法</b>				
毎回の授業時の小レポート	60%			
礼拝レポート	20%			
学期末レポート	20%			
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

キリスト教人間学 B		春	週1回	2単位
担当者：左近 豊				
<b>講義の目標及び概要</b>				
「人間とは何か？」という問いについて聖書の人間理解を踏まえて考察する。特に聖書に記された神と人とのドラマを題材に、現代社会において「人間とは何か？」を新たに問うことを目的とする。				
2. カリキュラム上の位置づけ この科目は、人間福祉学部3年次に必修として課せられる、本学の特徴であるキリスト教科目の一つである。				
3. 学びの意義と目標 キリスト教的人間学の特質とその意義を、とくに聖書の人間観を通して理解する。それにかかわる用語や概念の意味を理解すること。それを現代に生きる人間とりわけ自分自身にとってどのような意味があるかを考えること。また、自分自身の生き方の模索に役立てること。				
<b>評価方法</b>				
出席・授業参加	30%			
期末レポート	50%			
礼拝出席レポート	20%			
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

<b>キリスト教文化交流</b>	秋 週2回 4単位
担当者：小林 剛	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 この授業では、キリスト教の教えが古代から西洋中世、近代、現代にいたるまで、伝統的にどのようにして教えられてきたかを、おもに聖書を使いながらひろくまなびます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 人文学部欧米文化学科の専門科目です。</p> <p>3. 学びの意義と目標 キリスト教の伝統的な考え方をまなぶことによって、さまざまなキリスト教流派、思想の出所を知るとともに、現代社会の常識におけるキリスト教の影響についても知ることができます。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席を重視し、毎回授業後の簡単なレポートで評価します。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>キリスト教文化論A</b>	秋 週1回 2単位
担当者：E. D. オズバーン	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容：この講義は、キリスト教文化論Bと連結した講座で、キリスト教が、世界の様々な領域において貢献してきた歴史上の事実に焦点を当て考えていきます。第一の重点は、キリスト教の世界観が政治体制と市民の自由・権利解放にどのように影響を及ぼしたかに着目し、次に一般的文化、又、大衆文化の分野に目を移し、そして、後半は特にアメリカ合衆国における影響を概観していきます。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ：キリスト教文化論講義は、欧米文化学科の必修科目で、聖学院大学の基礎講義の一つです。</p> <p>3. 学びの意義と目標：第一の目的は、キリスト教があらゆる分野で成してきた著しい貢献が、今日受講者個人個人の気づかなかった領域に至っても大いに関係していることを認識することができるように導くものです</p>	
<b>評価方法</b>	
読書レポート（10%）、全学礼拝レポート及び教会出席レポート（30%）、中間及び期末テスト（各15%、計30%）、授業出席（30%）。以上を判定して評価します。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>キリスト教文化論A</b>	春 週1回 2単位
担当者：柳田 洋夫	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>（内容） 世界の歴史や現状を知るために、宗教についてのある程度の理解が必要不可欠であることは言うまでもない。また、日本人は「無宗教」であるというが、ほんとうにそうであろうか。この授業においては、宗教学的アプローチを援用しつつ、宗教とは何かについて考えていきたい。</p> <p>（カリキュラム上の位置づけ） 三年次の必修科目であり、一年次の「キリスト教概論」で学んだ内容の発展である。</p> <p>（学びの目標） 宗教一般についての基本的理解を得るとともに、特にキリスト教と文化との関連について学び考察する。 （参考文献） 脇本平也『宗教学入門』 岸本英夫『宗教学』 A・E・マクグラス『キリスト教神学入門』</p>	
<b>評価方法</b>	
出席・参加度40%、試験40%、礼拝レポート20%。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>キリスト教文化論B</b>	春 週1回 2単位
担当者：E. D. オズバーン	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容：この講義は、キリスト教概論A及びBに続く講座として設けられた科目で、キリスト教が世界にもたらした深遠なる影響の概観を学び探ります。“もし、イエス・キリストが降誕していなかったら？”という仮説質問から始まり、講義は、イエス・キリストの存在しなかった仮説を設け進み、そして、イエス・キリストとキリスト教徒が歴史を通して人類に建設的に影響を及ぼした多くの領域の輪郭を描いていきます。特に人間の尊厳と人権の領域についても学びます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：キリスト教文化論講義は、欧米文化学科の必修科目で、聖学院大学の基礎講義の一つです。</p> <p>3. 学びの意義と目標：第一の（基本的）目的は、キリスト教の遍在する影響を包括的、又、個人的、両観点から探索し学びます。</p>	
<b>評価方法</b>	
読書レポート（10%）、全学礼拝レポート、及び教会出席レポート（30%）、中間及び期末テスト（各15%、計30%）、授業出席（30%）。以上を判定して評価します。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>キリスト教文化論B</b>	秋 週1回 2単位
担当：柳田 洋夫	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(内容)</p> <p>「神学こそは、およそ人が学びたいと願うものの中で最も魅力的なものだ」とイギリスの神学者A・E・マクグラスは言う。キリスト教神学は、欧米文化のみならず日本文化の深層からの理解にも資するものである。この授業においては、キリスト教神学について、また、人格・人権思想へのキリスト教の貢献について学ぶ。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>三年次の必修科目であり、一年次の「キリスト教概論」で学んだ内容の発展である。</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>キリスト教神学思想についての基礎的理解を得ることによって、神学や哲学についての文献や議論にある程度対応できるようになるとともに、抽象的な問題にも自ら積極的に挑む姿勢を身につける。</p> <p>(参考文献) A・E・マクグラス『キリスト教神学入門』</p>	
<b>評価方法</b>	
出席・参加度40%、試験40%、礼拝レポート20%。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合は評価の対象としない。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>キリスト教保育論</b>	春 週1回 2単位
担当：田中 かおる	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>本講義では、キリスト教保育の基盤となることを確認し、考察することを目的とする。</p> <p>手順としては、以下のように進める。まず、キリスト教が日本の幼児教育にもたらした影響を確認する。次に、キリスト教保育の基盤である聖書における人間観を確認し、更にイエス・キリストの生涯とその意味を確認し、キリスト教への理解を深める。その上で、保育の現場と聖書のメッセージとが、どのようにかわるのかを、実際の保育事例と照らし合わせながら考察し、キリスト教保育とは何かを考える。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>(1)出席</p> <p>(2)毎回の小レポート(講義時間内10分)</p> <p>(3)礼拝レポート(全学礼拝、教会礼拝)</p> <p>(4)学期末レポート(講義内容に関するレポート)</p>	
<b>教科書</b>	
キリスト教保育連盟『改訂 キリスト教保育指針』キリスト教保育連盟	

<b>近代社会とピューリタニズムA</b>	春 週1回 2単位
担当：松谷 好明	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>近代日本の形成にキリスト教が果たした役割についてはつとによく知られていますが、そのキリスト教が主としてイギリス、アメリカにおいて展開されたピューリタニズムに基づくものであることについては十分に認識されているとは言えません。本講義においてはそのような基本的な認識に立ってピューリタニズムを担った指導的牧師、信徒の思想と行動を具体的に分析することにより、近代社会の底流にあるエートス(内面的姿勢)を明らかにしたい。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席態度(30%) レポート提出により、総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>近代社会とピューリタニズムB</b>	秋 週1回 2単位
担当：松谷 好明	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>近代日本の形成にキリスト教が果たした役割についてはつとによく知られていますが、そのキリスト教が主としてイギリス、アメリカにおいて展開されたピューリタニズムに基づくものであることについては十分に認識されているとは言えません。本講義においてはそのような基本的な認識に立ってピューリタニズムを担った指導的牧師、信徒の思想と行動を具体的に分析することにより、近代社会の底流にあるエートス(内面的姿勢)を明らかにしたい。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席態度(30%) レポート提出により、総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>近代政治思想</b>	秋 週2回 4単位
担当者：川添 美央子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1)内容 古代と中世の政治思想を概観した後、16世紀から20世紀までの政治思想の成立と展開を追う。まず、私達が生きる近代国家のうちのどのような理念がこめられ、またそれがどのような歴史を支えられて成り立ってきたかを考察する。とはいえいたずらに近代国家を礼賛するのではなく、最初に古代と中世を学ぶことを通じて、近代が置き忘れてきたものについても合わせて目を向けたい。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ 近代国家を成り立たせている基本的な考え方を学ぶという意味では基礎的な科目である。しかし抽象的な概念が多いため、実際には難しく感じられるかもしれない。必修の「政治学」よりは難しい。</p> <p>(3)学びの目標 一見繁栄しているように見えながら病んでいる社会もあれば、目立たなくとも健全な社会もあるだろう。本当に善い社会とは何か。それは現実に存在しているか。実現するにはどうすればよいか。本講義を通じ、このような問をたずさえつつ、現実の社会を複眼的に見ようとする態度の育成を目指したい。</p>	
<b>評価方法</b>	
平常点(毎回の小レポート、積極的な質問など)4割、定期試験(中間試験と期末試験)6割の比率で評価。(ただし人数が少なくゼミ形式とした場合は平常点5割、レポート5割の比率で評価する。)	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>近代文学読解</b>	秋 週1回 2単位
担当者：菊池 有希	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 本授業では、名著の誉れ高いデイヴィッド・ロッジの『小説の技巧』を教科書にして、物語論(ナラトロジー)の基礎を学んでゆく。教科書の各章の解説をした上で、さまざまな具体的事例を適宜紹介しながら、理解の定着を図っていきたい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 本授業は、「文学作品を読むとはいかなる営為か」ということの一端を覗いてもらうという意味で、入門的な位置づけである。</p> <p>3. 学びの意義と目標 本授業で学ぶことになる、小説技法についての知識は、小説に限らず、文学作品一般を分析・解釈する上でも有効であろうと思われる。授業を通して学んだ読みの作法をそれぞれの読書の実践できるようになること、それが本授業の学びの目標である。</p>	
<b>評価方法</b>	
小試験・小レポート50%+学期末試験50%で算出する。なお、授業を進めるに当たって邪魔と判断される行為を行った者に対しては、以降の出席を認めない。	
<b>教科書</b>	
デイヴィッド・ロッジ/柴田元幸・斎藤兆史(訳)『小説の技巧』白水社	

<b>金融市場論A</b>	春 週1回 2単位
担当者：柴田 武男	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>金融市場論Aは、「金融市場の歴史と制度」をメインテーマに行う。金融市場とは、その名の通り金銭をやり取りする市場であり、その中心的存在が銀行・証券会社・保険会社・投資信託等の金融機関である。したがって、金融市場を明らかにすることは、それら中心的な市場参加者である金融機関の役割を明らかにすることでもある。そのために、まず、本講義では都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫、証券会社、保険会社といった金融機関の解説を歴史的経緯の中で講義する。</p> <p>また、金融市場は近年とくにすさまじい勢いで変貌する市場であり、また、その変化が国民経済に深刻な影響を与えている。一例として、不況の深刻化で中小企業への資金供給が問題となっており、その対応策として中小企業等金融円滑化法案が制定されたことである。本講義では、日本経済新聞を教材の一つとして、金融問題を中心に経済記事を詳細に解説する時間を設ける。また、経済ニュースを中心とした番組「クローズアップ現代」「ガイアの夜明け」「カンブリア宮殿」「NHKスペシャル」なども活用して、できるだけ初学者にも理解できるような講義を心がけたい。</p>	
<b>評価方法</b>	
評価は、講義中に課すレポート(50%)及び定期試験(50%)結果と出席状況とを総合して行う。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>金融市場論B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：柴田 武男	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>金融市場論Bは、「金融市場の理論と現実」をメインテーマに行う。我が国では、出資法と利息制限法という二つの法律を中心に金利規制の体系が構築されているが、深刻な多重債務問題から大きく法律が改正された。ここでは改正貸金業法をとりあげ、改正された経緯を明らかにするとともに、そこから理論と現実の対立関係を具体的に詳述していききたい。</p> <p>2011年6月18日に改正貸金業法が完全施行され、その影響と是非が論じられている。後期の講義では、現在行われている議論をもとに日本の金融市場の問題点と課題を明らかにしていききたい。金融市場はすさまじい勢いで変貌する市場であり、一年、二年遅れの教科書では現実の金融市場を講義できない。したがって、本講義では、講義当日の日本経済新聞を教材の一つとして、金融問題を中心に経済記事を詳細に解説する時間を設ける。また、NHKスペシャルとして話題となった「マネー資本主義」などのテレビ番組も積極的に取り上げて解説していききたい。</p> <p>本講義を通して、金融市場の社会的役割の理解と同時に日経新聞をビジネスツールとして活用する方法まで教授することが目的である。</p>	
<b>評価方法</b>	
評価は、講義中に課すレポート(50%)及び定期試験(50%)結果と出席状況とを総合して行う。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>金融論</b>	春 週2回 4単位
担当者：鈴木 真実哉	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 金融に関する基礎概念の修得に力点を置く。その上で、日本における金融現象を中心に、理論、政策、トピックスについて解説する。とくに、1990年代から現在に至るまでの日本金融史上でも稀である大変革期について、その本質と今後の方向性について解説する。たとえば、金融ビッグ・バン、大蔵省の改組、日本銀行法改正、郵便貯金の民営化、不良債権問題、などである。	
2. カリキュラム上の位置づけ 「金融」に無縁で生活できない現代において、すべての学生に学んでもらいたい科目である。社会科学系統の科目として、政治経済学部における両学科学生にとって共通専門科目となっている。現代の人間として知っておくべき知識を提示している。	
3. 学びの意義と目標 現代に生きる人間として知っておくべき「金融」に関する基礎知識を修得できる。難解な金融現象の理解が深まる。	
<b>評価方法</b> 定期試験の結果と出席状態で総合的に考慮して成績を評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>グローバル化時代の倫理</b>	春 週2回 4単位
担当者：佐藤 啓介	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1) 内容 倫理学とは、「行動の善悪」を考える分野です。ただし、「これが善い行為です。だからやりなさい」といった解答と命令を直接提供するわけではありません。日々の生活で、そして社会に出ても、これはやっていいことなのだろうかといった悩みに直面したとき、妥当な行為の指針を自分で立て、それを他人に説明するための思考力を養うことが目標です。そのため本講義では、犯罪や裁判、お金もうけ、プライバシー、わいせつ物など、具体的で身近な問題や、グローバル時代に問題となる外国人との関係、異文化との接し方について、その行動の善悪を検討していきます。	
2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の「哲学・思想」分野専門科目としての選択科目です。	
3) 学びの意義と目標 講義は現代の倫理学を土台としていますが、学説・知識を覚えることではなく、社会人にふさわしい倫理観とそれに必要な思考力、グローバル時代を生きる力を身につけることが目標です。そのため、キャリア教育の一環としての意味も持っています。	
<b>評価方法</b> 中間レポート (30%)、期末レポート (40%)、平常点 (30%) なお、平常点には、受講態度、数回のリアクションペーパー、ディスカッション参加態度を含む	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>経営学</b>	春 秋 週2回 4単位
担当者：酒井 祐太郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1目的：当科目は、企業の経営・管理の体系的知識を基本的レベルから学ぶことを目的とします。現代は企業の時代と呼ぶことができるほど、我々の生活は企業活動なしには成立しません。我々は消費者や労働者という意味でも企業に深くかかわっています。その意味で、企業という組織を多面的に考察することは、社会の構成員としても必須の事と言えよう。 実際の講義では、まず我々と企業とが基本的にどのようなかわりを持つか、企業が社会の中でどのような役割を持って存在しているか、また企業が社会の様々な要因変化にどのように対応してゆくべきかを考える。	
2カリキュラム上の位置づけ：入門レベルの授業を考えています。経営学のより専門的な内容の導入としての科目として捉えて頂きたい。	
3学びの意義と目標：企業という存在を多面的に考えることにより、我々と社会の関係、企業が社会の中でいかに重要な存在か、またみなさんが将来就職する際にも、役立つ知識、情報をこの授業を通して学習して頂きたい。	
<b>評価方法</b> (1) 中間試験+期末試験・・・70% ノート、資料等の持込不可 (2) 課題等・・・・・・・・・・10% (3) 出席+授業への参加・・・20%	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>経営史</b>	春集中 週2回 4単位
担当者：金子 毅	
<b>講義の目標及び概要</b>	
〈内容〉 世界恐慌のさなか、多くの企業が倒産へと追い込まれる中、経営の基礎を固め業績を伸ばした企業もまた存在することからこれを教訓として生み出されたのが経営史という学問である。すなわち、机上の理論よりも不況を経営の方向を見定める重要な歴史の裂け目と捉え、これをビジネスチャンスとして活かすための生き抜く知恵を学ぶ点にこそ経営史の意義が存在するといえる。	
〈学びの目標〉 基礎理論とともに社史を中心とする産業別の企業史を主柱に講義形式で進めるが、一方向的な授業に終始せず、常に受講生との「対話」を重視し、経営に対する鋭敏な時代感覚を養わせることにしたい。	
<b>評価方法</b> レポートを基本とするが、受講者数に応じてはテストにかえることもある。なお、成績評価の配分は出席 (20%)、授業への参加姿勢 (10%)、毎時提出の感想文 (10%)、レポート、またはテスト (60%) とする。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>経営システム</b>	春 週1回 2単位
担当者：後藤 兼一	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>講義の目標：今、オフィス業務の改革改善が求められている。日本の工場の生産性と創造性は世界でトップクラスである。しかし、日本のオフィスにおける生産性と創造性は世界的に見たら二流～三流と言われている。本講義では、何故そうなのか、から始まりオフィス業務の改革改善の進め方を講義と実習により進める。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ：経営管理的な見方とシステム管理的な見方を融合させた科目である。</p> <p>講義の概要：前半は教室でテキスト『オフィス業務改革』を用い、日本のオフィス業務の問題と課題を話す。後半はコンピュータ室でオフィス業務プロセス分析のコンピュータ・ツールである『KMP (KAISHA Modeler Pro)』を使って簡単な実習を行う。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>本科目は実習の比重が高い。また講義では多くの事例を話す。評価は出席状況20%とレポート40%試験結果40%を総合して決める。</p>	
<b>教科書</b>	
<p>プリントを配布する 後藤兼一『オフィス業務革命』聖学院大学出版会</p>	

<b>経営情報</b>	秋 週2回 4単位
担当者：後藤 兼一	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>講義の目標：企業は多くの情報に囲まれている。企業にとって情報とは何か、経営に必要な情報にはどのようなものがあるか、どのように集め、どのように加工し、どのように使えばよいかなどを実務的に学ぶ。将来企業に入って役に立つと思われる。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ：経営管理的な見方と情報管理的な見方を融合させた科目である。</p> <p>講義の概要：週1回を講義主体で、もう1回を演習主体とする予定。講義ではテキスト又はプリントを使い、情報とは何か、加工の方法、情報の使い方を話す。実習では実際に、企業における代表的な経営情報をコンピュータに入力し、加工し、情報の使い方を検討する。なお、実習では“そば屋つるつる亭”の事例を取り上げる。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>本科目は実習の比重が高い。また講義では多くの事例を話す。評価は出席状況20%とレポート40%試験結果40%を総合して決める。</p>	
<b>教科書</b>	
<p>プリントを配布する</p>	

<b>経営倫理</b>	秋 週1回 2単位
担当者：後藤 兼一	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>講義の目標：経営の社会的役割は何なのか、経営を行うに当たって何を一番大切にしなければならないか。経営のあるべき姿はどのようなものなのかなど。又経営で許されることは何なのか。許されないことは何なのか、を検討する。本講義では、経営管理を行う際の倫理観などについて、その基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ：経営管理的な見方と倫理的な見方を融合させた科目である。</p> <p>講義の概要：経営管理を行う際の倫理観にはどのようなものがあるか、倫理観がなくなると、どのような問題が起きるのか、又問題が起きないようにするためにはどうすればよいかを、実例をまじえてわかりやすく話す。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>講義ではプリントに書かれている事例のほかにも多くの事例を話す。従って出席も重視する。評価は出席状況30%と試験結果70%を総合して決める。</p>	
<b>教科書</b>	
<p>プリントを配布する</p>	

<b>経済学</b>	秋 週2回 4単位
担当者：石部 公男	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>学生諸君が卒業後も社会の経済的動きや、自分自身のとるべき行動の根拠となるような状況判断が経済知識や現状から判断できる力を屋死ぬことを目的とした講義を行う。経済学の一般的分野として、歴史的観点から、日本の明治以後、特に戦後経済史の概観を通し現在の経済状況を理解する助けとする講義を展開。経済理論については基本的な理論を中心に主としてマクロ理論に重点を置くが、金融や財政額の分野についても講義をする。</p> <p>他奥に最近の国際経済の動向を踏まえ、今年度は中国市場経済までの経緯と現状に加え世界的ないわゆるソブリン・リスクについても触れる。また商業的分野についても社会的に必要と考えられる実務的なないようについても言及する予定である。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>定期テスト60%、授業途中でのレポートなど提出物等20%、出席状況等の日常平常点20%とする。</p>	
<b>教科書</b>	
<p>授業の中で指示する 石部公男他4名『経済学の知識から将来を読む』ヴェリタス書房</p>	



<b>経済学</b>	春 週2回 4単位
担当者：鈴木 真実哉	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 経済学の特有の考え方、理論の構成のし方に力点を置く。なぜ経済学が必要なのか、現実を経済学的にどのように理解できるか、経済社会はどのようにあるべきか、経済的意思決定主体はどのように行動すべきか、などについて解説する。	
2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科1年生の必修専門科目であり、他学部の学生にとっては教養科目である。「経済」に無縁ではられない現代人にとって「生活必須」科目でもあろう。	
3. 学びの意義と目標 経済学的思考によって、学習以前とは異なる次元から現実をみることができるようになる。また、合理性の経済学的意味が理解できるようになる。	
☆参考文献 福岡正夫 『経済学入門』（日本経済新聞社）	
<b>評価方法</b>	
試験と出席状況を総合的に判断して成績を決定する。小テスト、レポートを実施することもある。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>経済学</b>	春 週2回 4単位
担当者：正上 常雄	
<b>講義の目標及び概要</b>	
カリキュラム上の位置づけ 政治経済学科の学生は1年次春学期必修科目であり、本科目の単位修得は1年次秋以降に各種の経済学系選択科目を履修するための必須条件である。尚、本科目は教養科目として他学科の学生にも開放されている。	
学びの意義と目標 経済学の基礎をきちんと理解し、基本的な知識を身に付けることが、本講義の目標である。経済学にはミクロ経済学とマクロ経済学がある。本講義では、経済学を学ぶために、起業家の立場から様々な経済的問題を考えてゆく。経済全体を構成する要素は、家計（消費者）、企業、金融、政府、貿易の5つである。企業は他の4つと密接に関係している。企業のあり方について学ぶことで、経済全体についての考察も深まってゆく。社会に出て、企業で働くときの準備として経済学を学んで欲しい。	
<b>評価方法</b>	
講義回数の3分の2以上の出席を必須として、中間試験と期末試験もしくはレポートの成績、更に平常点で評価する。評価の割合は中間試験40%、期末試験50%、平常点10%とする。出席点を与えない。	
<b>教科書</b>	
山岡道男・浅野忠克『アメリカの高校生が読んでいる 起業の教科書』アスペクト	

<b>経済学</b>	春 秋 週2回 4単位
担当者：由川 稔	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 経済学は抽象化や理論化という科学的な方法に拠っています。日常生活の中で、しばしば「感情」や「常識」に埋没して見えなくなりがちな経済現象の「本質」を暴き、そこから新しい経済や人間のあり方などを構想するためです。しかしやり方を間違えると、かえって現実を見る目を曇らせてしまいます。授業では、このバランスを重視したいと思います。	
2. カリキュラム上の位置づけ 「経済」と「経済学」の総合的なイントロダクションにします。資格や公務員等の各種試験対策は、他に譲ります。	
3. 学びの意義と目標 本来、「経済が人間のためにあるのだから、人間が経済のためにあるのではない」はずですが。しかし現実の経済は、人間を奴隷化する恐ろしい面も持っています。究極的には、私たちが英知と勇気を持って、少なくとも経済の面で明るい未来を築いていくことが、経済学を学ぶ意義であり、目標であると言えるでしょう。	
<b>評価方法</b>	
出席率〔出席点〕および受講態度等〔平常点〕(30%)、レポート等提出物(20%)、定期テスト(50%)で配分予定。「レポート等」には、授業時や予復習に使用した「各自のノートの写し」を含める場合があります。	
<b>教科書</b>	
植草一秀『日本の再生』青社	

<b>経済学</b>	春 週2回 4単位
担当者：中野 宏	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 経済の動きを知るために必須のマクロおよびミクロの基礎経済理論を学習し、合わせて現在の日本経済が抱える諸問題についての理解を試みる。本講義は「経済学入門」として、今後経済学系の専門科目を履修するための基礎付けを行うものである。参考図書として、福岡正夫著、日本経済新聞社『ゼミナール経済学入門』。	
2. カリキュラム上の位置づけ 政治経済学科の専門科目（必修）であり、他学部学科は教養科目（選択必修）となる。	
3. 学びの意義と目標 将来学生諸君がどのような職業につこうと、社会に出れば経済を知ることは必須となろう。テレビや新聞などマスコミ報道を鵜呑みにするのではなく、自分の目で見て自分の考えで決定を行えるような知性と分析道具を本講義で身に付けてもらえたらと思う。	
<b>評価方法</b>	
出席点30%、平常点および課題提出(1回)と期末テスト70%で評価する。平常点とは授業態度や質問など授業に積極的に参加しようとする意欲に対する評価である。課題提出や期末テストで思わしくなくとも平常点で挽回可能なので頑張ってください。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>経済学</b>	秋 週2回 4単位
担当者：高橋 聡	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容—この授業では経済学の基礎を学びます。ニュースや新聞を見ると、経済は専門的でむずかしい話ばかりに見えます。しかしみなさんは、就職活動がなぜきびしくなったのか？格差は良いことなのか悪いことなのか？政府はなぜ子供手当をバラまくのか？などの疑問を感じたことはありませんか。あると答えた人はみな一度は経済の「学」すなわち経済理論を学んでおく必要があります。自分の狭い経験や実感だけを頼りにいくら考えたところで、それは独りよがりの意見にすぎず、本当の意味で考えたことにはならないからです。たしかに、経済学は普段の生活では目にしない専門用語によって体系化されています。しかし経済学をとおして考える問題とは、生活の中でだれもが感じる疑問や不安なのです。そして、基礎的な理論をいくつか知るだけでも、一見複雑に見える経済現象が意外と簡単な法則に沿って動いていることが分かることでしょう。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ—入門レベルです。</p> <p>3. 学びの意義と目標—理論をもとに経済現象を考える力を身につけることが目標です。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席点とレポート(2回)50% テスト(2回)50%	
<b>教科書</b>	
柳川隆・町野和夫・吉野一郎『ミクロ経済学・入門—ビジネスと政策を読みとく』有斐閣	

<b>経済学</b>	春 週2回 4単位
担当者：谷 達彦	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 この講義では、日本が直面している経済問題を題材として、経済学の基本的な考え方や知識を学ぶ。市場経済の機能や需要・供給分析の基礎を学んだうえで、国民所得の決定、景気循環、雇用と失業、財政、社会保障、金融などの日本経済が抱える課題を幅広くとりあげる。その際、経済学的な考え方、日本の現状及び政策についてバランスよく講義する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 様々な経済学系科目を学ぶうえでの基礎となる科目である。また、全学部生を対象とした教養科目でもある。経済学的な考え方や経済に関する知識は、経済のみならず様々な社会問題を考えるうえでも有益であり、その意味では全学部生にとっての基礎科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 経済学の基本的な考え方や知識を身に付けることを通じて、様々な経済問題に対する自分なりの問題意識を持てるようになることを目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
小テスト(30%)、期末試験(70%)により評価する。ただし、2/3以上の出席を単位取得の必須要件とする。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>経済学</b>	春 週2回 4単位
担当者：大森 達也	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>本講義では、「まんがDE入門 経済学」というのを教科書とし、経済学の用語、理論等を体系的に学習することとなる。</p> <p>漫画ということで、科目として取り組みやすいと考えることが予想される。漫画で語られる導入部により、そうした利点があることは否めない。しかし、経済学の本格的な入門書でもある。このような教科書を使用する理由は、本講義が経済関連の他の講義全般に対する導入部と位置づけられるからである。</p> <p>したがって、本講義においては、経済学に関する基本的な考え方や用語、ミクロ、マクロの理論などを学習することを目的としている。</p>	
<b>評価方法</b>	
(1) 中間および期末試験(それぞれ35%) (2) ブックレポート(30%)	
<b>教科書</b>	
西村和雄『まんがDE入門 経済学』日本評論社	

<b>経済学研究</b>	春 週1回 2単位
担当者：柴田 武男	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>大学院開講科目でもある。つまり、大学院生と同じ講義を少人数ゼミ形式で受けることになる。具体的には日本経済新聞に掲載されている最新の「経済教室」を教材にしてたんに経済知識を得るのではなく、そこで用いられている論理を読み解き、論文執筆に必要な論理的思考を養成することを目的としている。受講生である限り、学部学生にも同様な課題を課す。大学院への挑戦を積極的に考えている学生、学部講義ではなくさらに高度な専門知識を身につけたい学生の積極的な受講を期待している。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席率50%、レポート50%により総合的に評価する。講義において遠慮無く、積極的な発言を高く評価します。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>経済学史</b>	秋 週2回 4単位
担当者：鈴木 真実哉	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 現代の経済学の教科書は、過去の経済学の偉人たちの業績の集大成である。これを分解して、個々の経済学者の生き方と理論について解説する。現代では、あまり触れられることのない経済学の碩学についてもできるだけとりあげる。時代的には、「経済学」が独立した学問となったとされるアダム・スミスの時代以降である。	
2. カリキュラム上の位置づけ 様々な経済理論や政策、制度の背景を理解する科目である。選択専門科目ではあるが、多くの学生に受講してもらいたい。経済思想の歴史を学ぶ科目である。	
3. 学びの意義と目標 現代の経済的発展は多くの過去の偉大な経済学者の努力の上に成り立っている。この科目はこの事実を具体的に理解できるようになっている。その生き方と思想は多大な感銘をもたらすであろう。	
<b>評価方法</b> 定期試験の結果、出欠状態を総合的に評価して成績をだす。レポートを課すこともある。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>経済政策</b>	秋 週2回 4単位
担当者：中野 宏	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 政府および中央銀行が行う経済政策の事例と理論を学習する。バブル崩壊以降我が国経済は長きにわたり低迷し、様々な問題が顕在化する中、かつてないほど経済政策の重要性は高まっている。本講義では、実際に行われた政策例を取り上げながら、その理論的背景を学習し、これからの日本経済にどのような政策が必要とされるのかを探っていく。参考文献として岩田規久男・飯田泰之著、日本経済新聞社『ゼミナール経済政策入門』。	
2. カリキュラム上の位置づけ 専門科目「経済学」を履修した上で受講すること。	
3. 学びの意義と目標 将来学生諸君がどのような職業につこうと、社会に出れば経済を知ることは必須となろう。テレビや新聞などマスコミ報道を鵜呑みにするのではなく、自分の目で見て自分の考えで決定を行えるような知性と分析道具を本講義で身に付けてもらえたらと願う。	
<b>評価方法</b> 出席点30%、平常点および課題提出(1回)と期末テスト70%で評価する。平常点とは授業態度や質問など授業に積極的に参加しようとする意欲に対する評価である。課題提出や期末テストで思わしくなくとも平常点で挽回可能なので頑張ってください。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>健康・体力づくり実習A (フィットネス)</b>	春 週1回 1単位
担当者：梅津 迪子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
(内容) 毎時間、体脂肪測定を行うとともに前日の摂取食品を記録し、自分の身体状況を確認する。ストレッチ運動、有酸素運動(音楽に合わせて)、器具を用い筋力アップ、郊外へウォーキング等を実施する。運動方法を学び、摂取食品のバランスを検討し、各自のライフスタイルの点検をする。	
(カリキュラム上の位置づけ) 身体活動を生活の中に位置づけていく態度と自己の健康管理能力を養う。	
(学びの意義と目標) 肥満気味、基礎体力に不安、運動が苦手、スポーツ仲間がいない等で動く機会がない人も実践を通して、動く楽しさや爽快感を味わい、体の変化に気づき運動習慣が身につく。	
<b>評価方法</b> 出席回数重視(欠席は授業数の1/4まで) 60点 授業に臨む態度・意欲(準備・後片付け含む) 20点 フィットネスノートの提出(記録まとめ) 20点 総合的に評価する	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>健康・体力づくり実習A (テニス)</b>	春 週1回 1単位
担当者：太田 涼	
<b>講義の目標及び概要</b>	
スポーツの原点は楽しむこと、遊ぶことである。その点において、私達が生涯を通じて行うスポーツ(生涯スポーツ)は、年齢、性、技能の差を問わず、楽しめること、遊べることが重要となる。そのためには、自らが生活の中にスポーツを習慣化していく姿勢(気持ち)と、スポーツで楽しめる、遊べることのできる能力(体力・技術)が必要となる。本講義では、真剣に楽しむ、一生懸命に遊ぶというスポーツ本来の精神を大切に、テニスを通じて、スポーツの効果(健康の保持・増進、ストレス解消、コミュニケーション促進など)、面白さなどを体験し、生涯においてスポーツを実践していく姿勢・能力を身につけてもらいたい。	
また、基礎技術を習得し、ラリーを楽しみ、ゲームを通じて自身のリフレッシュを図る。さらにルールやマナーを尊重し、人とのコミュニケーションや協調性を高め人間性の向上に努める。授業前半はそれぞれの技能を高めるための練習を行い、後半はチームを固定して編成しダブルスゲームを中心に行う予定である。準備や審判なども全員で交代して行う。基本的なことから授業を進めていき、生涯スポーツの実現とActive Living!の一助となるような実習を考えています。	
<b>評価方法</b> 授業での積極性、協調性、個人技能の向上、ルール理解度等の実習点50点と出席点50点(1回の授業につき欠席-6点、遅刻・早退-2点)の総合評価。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<p><b>健康・体力づくり実習A (バレーボール)</b> 春 週1回 1単位</p>
<p>担当者：鈴木 由美</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>(1) (内容) バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。</p> <p>(2) (カリキュラムの位置づけ) 生涯スポーツへの志向性の向上及び、健康への自己教育力を高める。</p> <p>(3) 学びの意義と目標 履修者のレディネス（体力差や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで(1)個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで(2)集団技能の向上、さらに(3)身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、バレーボールはレクリエーションな場で行われることも多く、生涯スポーツとしてもその活動機会の多い種目なので、ネットの設営、ゲームの運営・管理も学習する。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>出席状況、理論・実技の達成課題の到達度を総合的に評価する。 出席 (60%)、授業への意欲・関心度 (10%)、実技課題の達成度 (10%)、学習ノート・レポート (20%)</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>

<p><b>健康・体力づくり実習A (ニュースポーツ)</b> 春 週1回 1単位</p>
<p>担当者：神田 良太郎</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容 球技や競技スポーツの苦手な人、基礎体力をつけたい人、シェイプアップしたい人などを対象にストレッチ運動、各種体力づくり運動、ボール運動等々誰でも気軽に出来る運動を毎日みっちり行います。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ スポーツを楽しむにはまず基礎体力。次に球技や競技スポーツに移るのが自然の流れ。</p> <p>3. 学びの意義と目標 健康を維持していくためには、食生活と運動が重要です。美食の先には生活習慣病の恐れが出てきます。そこで、毎日一定の運動を継続することが必要になってきます。特別な場所や用具、時間がなくても出来る運動は数多くあります。そのことを理解し、実践することで人生がより豊かになります。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>出席点 60点 (欠席 -6点、遅刻・早退 -2点) 評価点 40点 (授業態度、技能)</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>授業の中で指示する</p>

<p><b>健康・体力づくり実習A (バドミントン)</b> 春 週1回 1単位</p>
<p>担当者：関 一誠</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>(内容) 日本には、バドミントンによく似た遊びに「羽根突き」がある。手や足を使って、あるいは、棒や板を使って、台に羽根を植え込んだものを打ち合う遊戯は世界各地で見られる。バドミントンは、こうした遊びが競技化されたもので、名称はイギリスのグロスターシャー州にあるバドミントンハウスに由来している。</p> <p>近代バドミントンのシャトルの動きは、スピーディで変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。その一方で、スカートをはいた形状から終速時の減速は大変顕著で、ラリーを続けることがとても容易であり、老若男女、誰でも簡単にプレーを楽しむことが出来る特徴を有している。羽つき遊びから、バドミントン競技に至る技術習得の追体験を実践しながら、技能向上を目指した実習を行う。</p> <p>スケジュール案は授業計画通りであるが、出来る限りコート内にいる時間を多くするために、履修生の人数・技術レベル等によって内容は柔軟に対応して行く。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>出席点 (欠席は1/4まで 50%) 平常点 (授業に臨む態度等 20%) 実技テスト、ペーパーテスト (30%) 以上を総合的に判断する</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>授業の中で指示する</p>

<p><b>健康・体力づくり実習A (サッカー)</b> 春 週1回 1単位</p>
<p>担当者：田村 達也</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1)内容 サッカーとは、ドリブルやパスでボールを前に運びながら相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。その中には、ドリブル、パスといった個人技能だけでなく、グループやチームでどう攻め、守るのかといったグループ、チーム戦術も存在する。そこで、本講義では、受講生がサッカーをより楽しめるようになるために、個人・集団技能やルールについて学習する。</p> <p>2)カリキュラムの位置づけ 全学科対象 (1年生～可)。</p> <p>3)学びの意義と目標 サッカーの楽しさに触れ、生涯においてスポーツを楽しんで、続けていくことの必要性を認識させる。そのために必要な個人・集団技能の習得を図る。また、自立してゲームを行えるように、ルールについても学ぶ。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>平常点 (70%) 授業態度 (30%) *授業態度は技術のみならず、授業への積極性、服装、注意事項の遵守なども加味して総合評価する。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>授業の中で指示する</p>

<b>健康・体力づくり実習A (バスケットボール)</b> <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>
<b>担当者:</b> 北澤 太野
<b>講義の目標及び概要</b> 1) 内容 バスケットボールの個人的・集団的な技術・戦術を、「ボールの移動」という課題を基に学習する。 授業は、授業計画に記した通りゲーム形式の内容を中心に展開するが、履修者の人数・熟達レベル等によって、出来る限り柔軟に対応していく。 2) カリキュラムの位置づけ 安全にゲームを行うための知識の習得と、身体を動かすことの爽快感、他者とのコミュニケーションにより得られる楽しさを味わうことで、生涯スポーツへの志向性を向上させる。 3) 学びの意義と目標 バスケットボールというゲームを通して、自己の身体状況を把握し、ゲーム形式の実践を繰り返すことで、技術的・戦術的な知識を習得する。また、ゲーム様相の変化に気づき、バスケットボールの競技形態、競技特性を理解する。
<b>評価方法</b> 出席状況 (50%)、授業態度 (50%) によって算出する。学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しないが、毎授業ごとに学習カードの提出を義務づける。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>健康・体力づくり実習B (フィットネス)</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
<b>担当者:</b> 梅津 迪子
<b>講義の目標及び概要</b> (内容) 毎時間、各自の体脂肪測定と前日の摂取食品を記録し、自分の身体状態を確認する。その後、ストレッチ運動や有酸素運動 (音楽に合わせて)、器具等を使用して筋力UPを行うが、受講生に応じて内容をグレードアップする。郊外へのウォーキングも実施する。 (カリキュラム上の位置づけ) 身体活動を日常生活に位置づけていく態度と自己の健康管理ができる能力を養う。 (学びの意義と目標) 基礎体力に不安、肥満気味、運動が苦手、仲間がいけない等の理由で動く機会がない人も実践を通して、動く楽しさや爽快感を味わい、さらに体の変化を体感することで運動習慣がみにつく。
<b>評価方法</b> 出席率重視 60点 (欠席は授業数の1/4まで) 授業に臨む態度・意欲 20点 (準備・後片付け含む) フィットネスノートの提出 20点 総合的に評価する
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>健康・体力づくり実習B (テニス)</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
<b>担当者:</b> 太田 涼
<b>講義の目標及び概要</b> ※テニスを受講済の者等が望ましい。スポーツの原点は楽しむこと、遊ぶことである。その点において、私達が生涯を通じて行うスポーツ (生涯スポーツ) は、年齢、性、技能の差を問わず、楽しめること、遊べることが重要となる。そのためには、自らが生活の中にスポーツを習慣化していく姿勢 (気持ち) と、スポーツで楽しめる、遊べることのできる能力 (体力・技術) が必要となる。本講義では、真剣に楽しむ、一生懸命に遊ぶというスポーツ本来の精神を大切に、テニスを通じて、スポーツの効果 (健康の保持・増進、ストレス解消、コミュニケーション促進など)、面白さなどを体験し、生涯においてスポーツを実践していく姿勢・能力を身につけてもらいたい。 また、基礎技術を習得し、ラリーを楽しみ、ゲームを通じて心身のリフレッシュを図る。さらにルールやマナーを尊重し、人とのコミュニケーションや協調性を高め人間性の向上に努める。授業前半はそれぞれの技能を高めるための練習を行い、後半はチームを固定して編成しダブルスゲームを中心に行う予定である。準備や審判なども全員で交代して行う。基本的なことから授業を進めていき、生涯スポーツの実現とActive Living!の一助となるような実習を考えています。
<b>評価方法</b> 授業での積極性、協調性、個人技能の向上、ルール理解度等の実習点50点と出席点50点 (1回の授業につき欠席-6点、遅刻・早退-2点) の総合評価。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>健康・体力づくり実習B (バレーボール)</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
<b>担当者:</b> 鈴木 由美
<b>講義の目標及び概要</b> (1) (内容) バレーボールの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～チーム練習～ゲームという流れで学習を進める。 (2) (カリキュラムの位置づけ) 生涯スポーツへの志向性の向上と健康への自己教育力の向上。 (3) (学びの意義と目標) 履修者のレディネス (体力差や経験の有無) に応じて、基本的なボール操作から攻撃練習まで幅広く対応することで (1) 個々の技能の向上、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めることで (2) 集団技能の向上、さらに (3) 身体を動かすことの楽しさ・爽快感を味わい、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさを体感することを目標とする。また、バレーボールはレクリエーションな場で行われることも多く、生涯スポーツとしてもその活動機会の多い種目なので、ネットの設営、ゲームの運営・管理も学習する。
<b>評価方法</b> 出席状況、理論・実技の達成課題の到達度を総合的に評価する。 出席 (60%)、授業への意欲・関心度 (10%)、実技課題の達成度 (10%)、学習ノート・レポート (20%)
<b>教科書</b> プリントを配布する

<p><b>健康・体力づくり実習B (ニュースポーツ)</b> 秋 週1回 1単位</p>
<p>担当者：神田 良太郎</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容 球技や競技スポーツの苦手な人、基礎体力をつけたい人、シェイプアップしたい人などを対象にストレッチ運動、各種体力づくり運動、ボール運動等々誰でも気軽に出来る運動を毎日みっちり行います。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ スポーツを楽しむにはまず基礎体力。次に球技や競技スポーツに移るのが自然の流れ。</p> <p>3. 学びの意義と目標 健康を維持していくためには、食生活と運動が重要です。美食の先には生活習慣病の恐れが出てきます。そこで、毎日一定の運動を継続することが必要になってきます。特別な場所や用具、時間がなくても出来る運動は数多くあります。そのことを理解し、実践することで人生がより豊かになります。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>出席点 60点 (欠席 -6点、遅刻・早退 -2点) 評価点 40点 (授業態度、技能)</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>授業の中で指示する</p>

<p><b>健康・体力づくり実習B (バドミントン)</b> 秋 週1回 1単位</p>
<p>担当者：関 一誠</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>(内容) 手や足を使って、棒や板を使って、台に羽根を植え込んだものを打ち合う遊戯は世界各地で見られる。バドミントンは、こうした遊びが競技化されたもので、名称はイギリスのグロスターシャー州にあるバドミントンハウスに由来している。</p> <p>近代バドミントンのシャトルの動きは、スピーディに変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。その一方で、スカートをはいた形状から終速時の減速は大変顕著で、ラリーを続けることがとても容易であり、老若男女、誰でも簡単にプレーを楽しむことが出来る特徴を有している。羽つき遊びから、バドミントン競技に至る技術習得の追体験を実践しながら、技能向上を目指した実習を行う。</p> <p>スケジュール案は授業計画通りであるが、出来る限りコート内にいる時間を多くするために、履修生の人数・技術レベル等によって内容は柔軟に対応して行う。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>出席点 (欠席は1/4まで 50%) 平常点 (授業に臨む態度等 20%) 実技テスト、ペーパーテスト (30%) 以上を総合的に判断する</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>授業の中で指示する</p>

<p><b>健康・体力づくり実習B (サッカー)</b> 秋 週1回 1単位</p>
<p>担当者：田村 達也</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1) 内容 サッカーとは、ドリブルやパスでボールを前に運びながら相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。その中には、ドリブル、パスといった個人技能だけでなく、グループやチームでどう攻め、守るのかといったグループ、チーム戦術も存在する。そこで、本講義では、受講生がサッカーをより楽しめるようになるために、個人・集団技能やルールについて説明する。</p> <p>2) カリキュラムの位置づけ 全学科対象 (1年生～可)。</p> <p>3) 学びの意義と目標 サッカーの楽しさに触れ、生涯においてスポーツを楽しんで、続けていくことの必要性を認識させる。そのために必要な個人・集団技能の習得を図る。また、自立してゲームを行えるように、ルールについても学ぶ。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>出席状況 (60%) 授業態度 (40%) * 授業態度は技術の上手い下手だけではなく、授業への積極性、服装、注意事項を守っているかなどで評価する。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>授業の中で指示する</p>

<p><b>健康・体力づくり実習B (バスケットボール)</b> 秋 週1回 1単位</p>
<p>担当者：北澤 太野</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1) 内容 バスケットボールの個人的・集団的な技術・戦術を、「ボールの移動」という課題を基に学習する。</p> <p>授業は、授業計画に記した通りゲーム形式の内容を中心に展開するが、履修者の人数・熟達レベル等によって、出来る限り柔軟に対応していく。</p> <p>2) カリキュラムの位置づけ 安全にゲームを行うための知識の習得と、身体を動かすことの爽快感、他者とのコミュニケーションにより得られる楽しさを味わうことで、生涯スポーツへの志向性を向上させる。</p> <p>3) 学びの意義と目標 バスケットボールというゲームを通して、自己の身体状況を把握し、ゲーム形式の実践を繰り返すことで、技術的・戦術的な知識を習得する。また、ゲーム様相の変化に気づき、バスケットボールの競技形態、競技特性を理解する。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>出席状況 (50%)、授業態度 (50%) によって算出する。学期末の試験、スキルテスト等は原則実施しないが、毎授業ごとに学習カードの提出を義務づける。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>授業の中で指示する</p>

<b>健康教育</b>	秋 週1回 2単位
担当者：梅津 迪子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(内容)</p> <p>児童期、青年期、老年期を中心に現代社会における健康に関連する問題を映像やトピックを使って講義する。個人の健康問題にとどまらずグローバルな視点から環境、人権、行動等の観点から学び、グループでも話し合う。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>健康問題を地球環境の規模から捉える視点と、その影響が個々の生き方にも関連していることを自覚し、思考、判断、行動できる能力を養う。</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>心身の健康に対する自己教育力を養う。自己教育力は学習意欲と意思の形成であり、学習の仕方の習得でもある。「リプロダクティブ・ライツ・ヘルツ」の背景を人権の視点から学び、考える力を養う。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席率重視 50点 学習に臨む態度・意欲 20点 ミニレポート・課題の提出 30点 以上を総合的に評価	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>言語学</b>	春 週2回 4単位
担当者：宮城 信	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 講義の内容</p> <p>本講義では、様々なことばの問題について考える。毎時間、様々な観点からことばを解体していくことになる。ことばコミュニケーションツールの一つである。ことばはどのように選ばれるのだろうか。ことばはどのような時に発せられるのだろうか。ことばでどこまで考えを伝えられるのだろうか。そして、日本語はどのようなことばなのだろうか。この講義を通して、ことばの本質的な役割を考察していく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>この授業は教養科目・総合科目の一つである。生活の中のことばに注目した学術的思考の入門編となる。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>言葉について、これまでと違った視点をもつこと、深く考えること、新たに生み出すことに興味を持って欲しい。基本的な学術的思考法・分析法を身につけることを目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
学年末試験／レポート60%、授業中に作成する小課題20%、出席状況20%として評価を行う。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>言語学概論</b>	秋 週2回 4単位
担当者：D. バーガー	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容:言語学概論は言語学の入門講座である。言語の色々な様式(話しことば、手話、書き言葉)、人間の言語は動物のコミュニケーション手段とどのように異なるか等、われわれの言語知識の構成要素などを含む言語の本質を考察することから始まる。次に、人間の脳の言語機能についての簡単な紹介に続き、形態論、統語論、意味論、音声学、音韻論という言語研究の主な分野をそれぞれ順に概説する。最後に、言語がどのように変化するか、人間がどのように言語を習得するかについて紹介する。一般的な人間の言語だけではなく、言語の普遍的な特性と各言語がどのようにその特性を実現するかを理解するために日本語と英語を始め、様々な世界の諸言語(ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、ポントック語、チカソー語、トルコ語、アカン語等々)の事例を考察する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ:この授業は、欧米・日本文化の両学科の言語関連の専門科目であり、対象学年は2年生からとなっている。言語について深く考える習慣をつけて、次の段階に進んでもらいたい。</p> <p>3. 学びの意識と目標:普段、無意識的に用いる言語の性質を認識すると同時に、この授業を通して言語学の理解を深める。</p>	
<b>評価方法</b>	
10% 授業への出席 10% 授業での参加態度 30% ワークシート 25% 小テスト 25% 期末試験	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>言語学特殊講義</b>	秋 週2回 4単位
担当者：鈴木 省吾	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(内容)</p> <p>自然言語の意味論入門。意味論で使う技術や道具立ての理解を深めていくとともに、通常入門レベルでは扱わないが言語学の研究テーマとして関心の高いテーマやトピックも扱う予定である。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>言語学の入門レベルを背景知識として要求する。論文の一部に意味論を扱いたい学生はもちろん、少しだけ高度なトピックを覗き見してみたいと思っている学生も歓迎する。</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>この授業で扱う意味論の道具立ては技術的に高度で、軽い気持ちで臨むとうんざりするかも知れない。しかし、意味という本来捉えようがないものに対してどのように科学的にアプローチしていくかを考慮すると重要な解決案の一つである。授業で紹介していく手法を全て理解しようとせず、とりあえず使ってみて何が覚えてくるかということを確認できるように授業に参加してほしい。</p>	
<b>評価方法</b>	
授業において理解確認のための課題を出す。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>言語習得理論</b>	秋 週2回 4単位
担当者：長崎 睦子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容:本講義はまず母語習得を概観した後、第二言語習得(母語以外の言語を身につけること)研究に重点を置きながら進める。第二言語習得研究とは1960年代頃から発達してきた新しい研究分野である。私たちはどのように言語を身につけていくのかという理論的な研究だけではなく、効果的な学習方法などの実践的な研究も取り扱っている。授業では第二言語(外国語)を習得するとはどういうことか、またそのプロセスを認知的アプローチ、社会言語学的視点、脳科学の分野など様々な視点から概観する。さらに、習得と学習者にかかわる要因(年齢・動機付け・学習ストラテジーなど)との関係、教室第二言語習得研究、効果的な学習法、バイリンガルの言語習得、早期(小学校)英語教育などについても考察する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ:欧米文化学科専門科目群の選択科目である。2~4年生で受講することをすすめる。</p> <p>3. 学びの意義と目標:皆さんが日頃学習している第二言語(外国語)の習得について様々な視点から考察することで、これまでの自分自身の外国語学習法についても見直し、効果的な学習方法とは何かについて考えてもらいたい。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>平常点(出席や授業への取り組み)(30%)、クイズ5回(40%=8%×5回)、学期末レポート(30%) *評価の内容は変更する場合があります。その場合は授業にて説明するので確認すること。</p>	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>言語生活</b>	春 週1回 2単位
担当者：内藤 みち	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 日本語の特徴的表現に対する日本語母語話者の言語意識・言語活動を通し、日本語の特質やその規則性を見い出していく社会言語学的内容となる。必要に応じ、他言語における言語意識・言語活動と比較しながら、日本語の特質および日本語が使用されるグループのコミュニケーションの規則性をも学習する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 語学、特に日本語学の基礎となる位置づけである。</p> <p>3. 学びの意義と目標 日本語のみならずグローバル社会の中で様々な言語を使用する際に、それぞれの言語にある文法以外の社会言語学的規則性や特質を自らが導き出し、使用対象言語によるコミュニケーション能力を身につける。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>中間試験40%、学期末試験40%、平常点20% * 欠席が全授業数の3分の1を超える場合は評価対象とならない。</p>	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>言語と社会</b>	春 週2回 4単位
担当者：D. バーガー	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容:この授業では、比較言語・比較社会の観点から言語と社会の関係について取り上げる。日本語やアメリカ英語を始めとし、又、他言語も、どのように社会の中で使われているかを学ぶ。主な課題は(1)どのように言語が個人的、社会的アイデンティティを表しているか(なまり、方言、言語偏見等)、(2)どのように人間関係が言語的に表われているか(丁寧表現、敬意表現等)、(3)社会変化と言語変化はどんな関係があるか(差別語、特に性差別語、非性差別語変革等)である。言語と社会の関係を理論的、実践的に解明する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ:欧米文化学科の「言語」専門科目でもあり、日本文化学科の「比較文化系統」専門科目でもある。社会言語学の分野に位置づけの言語と社会の研究に関する入門的な授業である。</p> <p>3. 学びの目標:言語と社会の研究の主な課題を概観することを通して、受講生は社会的関係において言語の役割を理解するようになる目標がある。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>10% 授業への出席 10% 授業での参加態度 40% 小テスト 40% 期末試験</p>	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>言語文化論</b>	春 週2回 4単位
担当者：小林 茂之	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>〈内容〉 英語は、多くの日本人にとってもっとも身近な外国語である。しかし、英語はもともとブリテン島にやってきたゲルマン系部族の弱小方言に過ぎず、世界語に発展するまでの過程には、歴史の変遷に伴う多くの変化が起きた。16Cに現代英語(PDE)に近い初期近代英(EModE)が成立し、現代でも普通に用いられる最も古い英語訳聖書である欽定訳聖書は、初期近代英語による傑出した作品である。本講義の前半では、BBC製作の日本語版DVDを楽しみながら、やさしい英語に書き直された教科書を読み進めていく。また、後半では、格調を備えた英語の規範となった欽定訳聖書の英語についてやや詳しく取り上げたい。</p> <p>特に、イギリス英語とアメリカ英語が異なる理由を知ることは、英語学習に大変役立つ。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 教養としての歴史言語学と言語学関係の専門科目・2年生秋学期からの専門演習の入門</p> <p>〈学びの目標と意義〉 言語と文化との関係を歴史を通して学ぶ。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席(30/100)・平常点(30/100)・期末レポート(40/100)	
<b>教科書</b>	
R. McCrum/W. Cran/R. MacNeil 『The Story of English (英語百話)』 Macmillan Languagehouse	



現代イタリアの社会と文化A	春	週1回	2単位
担当者：小田原 琳			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 イタリアはヨーロッパのなかでも個性の際立った国です。料理がおいしい、サッカーがさかん、芸術が豊か…これらの一般に知られているイタリアのイメージ以上に、イタリアの社会には多様な顔があります。「現代イタリアの社会と文化A」では、知られざるイタリアの姿を、歴史的な変化を通して学んでいきます。			
2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の「歴史」分野専門科目としての選択科目です。			
3. 学びの意義と目標 イタリア社会をじっくりと観察することは、自分自身の生きる社会を見つめ直す契機となります。イタリアの社会と文化について学び、皆さんの生きる日本社会とさまざまな角度から比較する視点と思考を養うことが目標です。			
<b>評価方法</b>			
出席点（受講態度）20%、各回提出のレスポンスシート20%、期末レポート（オンライン）60%			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

現代イタリアの社会と文化B	秋	週1回	2単位
担当者：小田原 琳			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 イタリアはヨーロッパのなかでも個性の際立った国です。料理がおいしい、サッカーがさかん、芸術が豊か…これらの一般に知られているイタリアのイメージ以上に、イタリアの社会には多様な顔があります。「現代イタリアの社会と文化B」では、日本と同様にグローバル化と向き合う現代イタリアの姿を学んでいきます。			
2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の「歴史」分野専門科目としての選択科目です。			
3. 学びの意義と目標 イタリアの社会をじっくりと観察することは、自分自身の生きる社会を見つめ直す契機となります。イタリアの社会と文化について学び、皆さんの生きる日本社会とさまざまな角度から比較する視点と思考を養うことが目標です。			
<b>評価方法</b>			
出席点（受講態度）20%、各回提出のレスポンスシート20%、期末レポート（オンライン）60%			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

現代英文法	秋	週2回	4単位								
担当者：小川 隆夫											
<b>講義の目標及び概要</b>											
1. 内容 総合的な英語力を身につけるため、文法や構文を実際にどんな場面で使うかを理解していく。使用頻度の高い文法学習をめざし、使える文法力をつけていく。											
2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目の「言語」科目に位置づけられた選択必修科目であるが、教育課程履修者は必修である。											
3. 学びの意義と目標 コミュニケーションのための「使える」英文法を学ぶことにより、英語力に自信をつける。また、指導者としての効果的に英文法を指導する技術を学ぶ。											
<b>評価方法</b>											
<table border="0"> <tr> <td>授業への出席・参加</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>中間試験</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>期末試験</td> <td>25%</td> </tr> </table>				授業への出席・参加	25%	小テスト	25%	中間試験	25%	期末試験	25%
授業への出席・参加	25%										
小テスト	25%										
中間試験	25%										
期末試験	25%										
<b>教科書</b>											
Raymond Murphy 渡辺雅仁・田島祐規子訳『マーフィーのケンブリッジ英文法（初級編）改訂版』Cambridge University Press											

現代科学技術論	春	週2回	4単位
担当者：標 宣男			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 エネルギーは近代科学のなかの重要な概念である。一方工学としてのそれは、我々の社会を流れる血液として、夫々現代技術を動かす働きをする。本講義では、このようなエネルギーの現代社会における具体的ありようと、それらのもたらす正負両方の影響について論じ、また将来への課題と展望をのべることにする。また、これに先立ってエネルギー使用の歴史を述べることによって現代の状況の特異性を明らかにしようと思う。			
2. カリキュラム上の位置づけ 本講義はコミュニティ政策学科の専門科目に位置付けられている、選択科目である。			
3. 学びの意義と目標 科学技術を理解することにより、現代の社会の問題を理解する。			
<b>評価方法</b>			
出席を重視する。レポートおよび期末試験により成績を評価する。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

<b>現代社会と社会教育 A</b>	春 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 本講義では、高齢者を対象とする教育について取り上げる。子どもの学習を支援する教育原理に対して、1970年代から提唱され始めてきた成人教育学なかんずく高齢者の教育学（gerogogy）理論について論じることとする。尚、本講義で扱う高齢者の範囲は、病的及び加齢によって著しい知的な退行現象を呈している高齢者を除く高齢者とする。	
2. カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事の資格取得のための必修科目。（資格取得を目指す学生を受講もちろん歓迎する。）	
3. 学びの意義と目標 成人の生涯発達への支援から高齢の特性を理解しそれを踏まえた高齢者を対象とする学習支援の方策について理解する。専門職として（或いは個人として）、高齢者教育の現代的意義と高齢者に接する際の配慮の視点を受講生が理解することを本講義の目標とする。	
<b>評価方法</b>	
出席（20%）と試験（80%）を一応の目安としつつ、総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
堀薫夫・三輪建二『生涯学習と自己実現』放送大学教育振興会	

<b>現代社会と社会教育 B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 第1に、今日問題になっている青少年の自立と社会性の育成をどのようにするかを巡って展開されている「奉仕活動」の学校教育や社会教育政策の中での奨励をめぐる議論について取り上げる。第2に、人間がよりよく生きていくためには、生にまつわる否定的側面の課題（死・病、対象喪失などをめぐる課題）を直視し考えることの必要を説く「生と死の準備教育」がある。「生と死の準備教育」提唱者たちの理念、教育目的、教育内容を紹介し、生涯教育としての「いのち」を考える教育の可能性について考えていきたい。	
2. カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事の資格取得のための必修科目。（資格取得を目的としない学生を受講も歓迎する。）	
3. 学びの意義と目標 青年期を生きる人間の生をよきものとするため、どのような教育が必要なのかを受講生が自らの課題として考察することを目標とする。	
<b>評価方法</b>	
出席（20%）と、授業中に課す小レポート（20%）及び学期末の課題レポート（60%）によって評価を行なう（試験は実施しない）。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>現代社会と福祉</b>	秋 週2回 4単位
担当者：牛津 信忠	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。</li> <li>・福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。</li> <li>・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。</li> <li>・福祉政策の課題について理解する。</li> <li>・福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。</li> <li>・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。</li> <li>・相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。</li> </ul>	
<b>評価方法</b>	
出席率、授業の終わりに行う小テスト、および学期末の論文形式の試験によって、総合的に評価する。授業態度をも、評価に加えることを認識しておくこと。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>現代社会論</b>	秋 週2回 4単位
担当者：新倉 貴仁	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 現代社会とは、私たちによって生きられる社会である。この特徴の一つが、グローバル化である。グローバル化とは「国民国家」を超えていく運動・現象であるため、その理解には、「国民国家」の編成原理であるナショナリズムの考察が不可欠である。	
第一に、グローバル化との対比を通じ、なぜナショナリズムが現代社会において問題となるのか、理解を深める。第二に、ベネディクト・アンダーソンの『想像の共同体』の読解を通じ、ナショナリズムと現代社会の関係を考察する。第三に、戦後日本におけるナショナリズムの議論を検討し、現代社会の特徴をとらえていく。	
2. カリキュラム上の位置づけ 必修科目で学んだことにもとづき、より具体的なテーマを思考していく。	
3. 学びの意義と目標 現象としてのナショナリズムを理解する視座を学ぶ。このことを通じて、私たちが生きる社会についての理解を深める。また、そのための社会学的思考の習熟をめざす。	
<b>評価方法</b>	
出席50%、レポート50%によって算出する。各コマの冒頭あるいは最後に、コメントシートを書いてもらい、内容によって加点する。	
<b>教科書</b>	
ベネディクト・アンダーソン／白石隆・白石さや『定本 想像の共同体』書籍工房早山	

現代政治理論		秋	週2回	4単位
担当者：森 達也				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈テーマ〉 政治的自由論の歴史と現在</p> <p>政治の存在理由はしばしば自由の達成と保全にあると言われる。歴史上、数多くの人々がこの「自由」の旗印の下に集い、議論し、政府に異議申し立てを行い、時に武器を手に革命を遂行した。自由はきわめて強力な政治的理念である。だが、一見、誰の目にも明らかと思えるこの言葉が実際に何を意味しているのかと問えば、その答えは一様ではない。</p> <p>本講義では政治理論および政治思想史の観点から、自由論の伝統とその現在について考察する。自由は欧米の政治的伝統の中心を占める理念であり、自由をめぐる多様な議論を辿ることは、西洋政治思想の全体像を知ることに等しい。政治学の古典を読み解き、基本的な政治的理念について考えることを通じて、混迷する現代社会における個と共同体のあり方を理解し、進むべき道を見出す一助としたい。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 政治学の基礎知識を前提とした専門科目であるが、広く人文・社会科学分野の教養科目として履修することも可能である。</p> <p>〈学びの意義と目標〉 政治学の規範的側面に関する理解を深める。政治思想の歴史から現代社会を見通し、そこにおけるわれわれ自身の生活様式を批判的に吟味する。</p>				
<b>評価方法</b>				
中間試験 30% 最終試験 30% 授業内課題 40%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する 佐々木毅『政治学の名著30（ちくま新書）』筑摩書房				

現代ヨーロッパ思想		春	週2回	4単位
担当者：佐藤 啓介				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1) 内容</p> <p>ヨーロッパの現代、特に1960年代以降、それ以前の思想に対する批判とともにさまざまな新しい考え方が登場し、文化や社会に大きな影響を与えてきました。特に、「ヨーロッパの他者・理性の他者」をどう考えていくかが重要な課題になりました。本講義では「他者」をキーワードに、狭い意味での哲学には限定されない60年代以降の現代ヨーロッパの思想（社会論、文化論、芸術論、倫理、メディア論、宗教論、歴史論、都市論など）を、独・仏・伊を中心に、映像なども用いつつテーマ別に検討していきます。</p> <p>2) カリキュラム上の位置づけ</p> <p>欧米文化学科の「思想」分野専門科目の選択科目です。教養科目「哲学」を履修済みであると、内容の理解が深まります。</p> <p>3) 学びの目標と意義</p> <p>さまざまな思想家の考え方を紹介していきますが、それを知識として覚えるのではなく、それらを自分がものを考える上での一つの座標として利用し、最終的には、現代という時代の諸問題について自分なりに考えられるようになることが目標です。</p>				
<b>評価方法</b>				
中間レポート (30%)、学期末レポート (40%)、平常点 (30%) なお、平常点には、受講態度、数回のリアクションペーパー、グループワーキングへの参加態度を含む				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

憲法(人権)		秋	週2回	4単位
担当者：石川 裕一郎				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容</p> <p>講義内容を「人権」（日本国憲法でいえば第3章「国民の権利及び義務」）に絞られている分、法解釈に重点を置いた、密度の高い講義を行います。とはいえ、その背景にある政治的・経済的・社会的・文化的諸要素にも相当言及する内容になる予定です。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>専門基礎科目たる「法学」を踏まえたうえでの公法領域に属する法学系専門科目です。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>第一にオーソドックスな日本国憲法の通説・判例理解を目指しますが、(公務員試験の予備校ではない)大学の講義ですから、それに留まらず、ポストモダニズム、ネオリベラリズム、フェミニズム、マルキシズム、マルチカルチャリズム等から挑戦を受ける「近代」の象徴としての立憲主義の意義を検討する、語本来の意味におけるcritiqueな講義としたいと考えています。</p>				
<b>評価方法</b>				
毎講義の後に書く「リアクションペーパー」(80%)、および期末試験(20%)で総合的に評価する予定です。場合によっては、試験はレポートに代えます。単なる出席(物理的に教室内に存在すること)だけでは何ら評価の対象となりません。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

憲法(統治)		春	週2回	4単位
担当者：松村 芳明				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>憲法の学習事項は通常、(1)憲法総論、(2)人権、(3)統治機構の3領域に分けられる。この講義はそのうち、(1)(3)の領域を扱うことに主眼をおき、それに関係する限りで(2)の領域にも触れることになる。</p> <p>なお、受講者には積極的に授業に参加するよう求めることになる。</p>				
<b>評価方法</b>				
主として授業での発言・報告によって評価する。				
<b>教科書</b>				
渋谷秀樹『憲法への招待』岩波書店				

<b>権利擁護と成年後見制度</b>	春 週1回 2単位
担当者：田村 綾子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わりについて理解する</li> <li>・成年後見制度の創設の背景と内容を理解し、制度の課題を考察する。</li> <li>・成年後見人等の役割について理解し、ソーシャルワークにおける制度活用や連携の方法を学ぶ。</li> <li>・ソーシャルワーカーに必要な人権尊重の視点を理解し、権利擁護実践の意義と方法を理解する。</li> </ul>	
※事前に履修しておくことが望ましい科目：「法学」	
<b>評価方法</b>	
定期試験(70%)・リアクションペーパー(15%)・課題レポート(10%)・授業態度(5%)により、総合的に評価する。 出欠席および遅刻早退については、『社会福祉士養成施設等指導要領』に則り、単位認定を行う。	
<b>教科書</b>	
新・社会福祉士養成講座『権利擁護と成年後見制度』中央法規出版	

<b>公共政策論</b>	春 週2回 4単位
担当者：鈴木 潔	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内容 本講義では、これまでの公共政策学の蓄積を利用し、公共政策がどのように決定され、実施され、評価されているかという公共政策のプロセスを中心に説明する。</li> <li>2. カリキュラム上の位置づけ 本講義は、まちづくり学、環境政策論、社会保障論、リスク対策論、社会福祉行政論、公的扶助論、児童福祉論などの個別政策の学習を進めていくうえで、その共通基盤となる公共政策の知識を提供するものである。また、政治学、行政学、地方自治論の知識が、どのように公共政策と関連するかを理解するうえでも役に立つ。</li> <li>3. 学びの意義と目標 社会問題を解決するための手段である公共政策が、どのように決定され、実施され、評価されているかを理解し、国や自治体の公共政策の適否を総合的に判断できる能力を身につけることを目標とする。</li> </ol>	
<b>評価方法</b>	
基本的には試験の成績によって評価を行うが、毎回の講義で実施する小テストや平常点（出席状況、講義への貢献度など）も加味される。(1)試験(80%)、(2)小テスト(10%)、(3)平常点(10%)	
<b>教科書</b>	
秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』有斐閣	

<b>公共哲学</b>	秋 週2回 4単位
担当者：谷口 隆一郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>【学習の目標】 現代の市民社会とその政策を考えるに当たって、各コミュニティが所属する、社会の各領域に内在する規範と、コミュニティがどう関係するかを理解することはとても重要です。私の「公共倫理」の概念を手がかりに、プラグマティズム的思考に即しつつ、コミュニティの新しい政治学の出来（しゅつたい）の経緯と動向について学びます。</p> <p>【学習の内容】 公共倫理（コミュニティ間の倫理）、民主的市民精神、多元多文化と寛容、市場の公共性、社会政策にとってのコミュニティの意味、コミュニティリアリズム対リベラリズム論争、等の諸問題と諸課題を取り上げます。</p> <p>【学習の意義】 将来、公共性の高い仕事（公務員職等）に就きたいと考えている学生にとっては、知っておくといテーマと内容が、この講義には含まれているのみならず、現代政治状況を根底から理解するために不可欠な視点が数多く盛り込まれています。コミュニティをどう捉えるかによって、政策への取り組みの考え方がどのように異なるのか、等について整理して学ぶことができます。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 行政系コースの専門科目の一つです。</p>	
<b>評価方法</b>	
授業内レポート20%、平常点（授業への積極的参加）20%、論述60%で総合的に評価する。なお、遅刻は平常点においてマイナスに評価する。ただし人数が少なくゼミ形式となった場合は、授業内レポート30%、平常点20%、論述50%の比率で評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>公衆衛生学</b>	春 週1回 2単位
担当者：中村 馨男	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) (内容) 本科目では、健康の定義、健康指標、予防医学の概念、保健衛生統計、感染症予防、疫学、成人保健（生活習慣病とその予防）、衛生行政等の範囲を対象に学ぶ。</li> <li>(2) (カリキュラム上の位置づけ) 「衛生学入門」および「環境衛生学」とともに、生命・健康・環境分野を学ぼうとする者にとって、基本的知識と考え方の習得を目標とする。国家試験受験者にとっては、公衆衛生学の知識と考え方を必要としている。講義は「衛生学入門」を履修していることを前提としているが、重要な基礎的事項については復習する。（教科書は「衛生学入門」、「環境衛生学」と共通）</li> <li>(3) (学びの意義と目標) 福祉分野において、保健・医療・福祉の連携が重要視されている。公衆衛生学は「保健」分野の基礎、保健分野そのものである。国家試験において、人口静態、人口動態、平均余命、生活習慣病、二次予防、健康の定義、プライマリヘルスケアなどが出題されている。保健分野と医療や福祉との接点についても理解することを目的とする。</li> </ol>	
<b>評価方法</b>	
1) 出席20% 2) 授業中態度（座席順を含む）20% 3) 毎回小テスト30%、4) 期末テスト30%	
<b>教科書</b>	
鈴木庄亮・久道茂『シンプル衛生公衆衛生学』南江堂	

<b>更生保護制度</b>	春集中 1単位
担当者：三澤 孝夫	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>「更生保護制度」を中心に講義していく。あわせて、基礎となる日本の司法制度や実際の相談援助活動における司法福祉分野の現状等も紹介していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談援助活動において必要となる更生保護制度について理解する。</li> <li>2. 更生保護を中心に、司法制度の基本部分、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。</li> <li>3. 刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について理解する。</li> <li>4. 相談援助活動において必要となる医療観察制度の概要と対象者援助の状況を理解する。</li> </ol> <p>講義自体は、教科書に準拠したパワーポイントを使用し、教科書の図表なども画面上に表示しながら進めていく。ただ、「更生保護制度」という複雑な制度を、集中講義8回の講義枠で理解してもらうため、また、講義中に国家資格試験について、教科書記載部分と照らして、ポイント等を話す予定であるため、教科書の持参については、これを必至とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席状況(40%)、筆記試験(60%)を総合して評価する。	
<b>教科書</b>	
森長秀『「更生保護制度」社会福祉士シリーズ20巻』弘文堂	

<b>公的扶助論</b>	春集中 2単位
担当者：宮寺 良光	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズとその実際について理解する。</li> <li>・相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。</li> <li>・自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。</li> </ul>	
<b>評価方法</b>	
平常点(出席+小課題:60点) + 期末試験(40点) = 総合得点(100点)	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>高等学校教育実習 (PL用)</b>	春 週1回 3単位
担当者：小川 洋	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内容:実際に実習校において教壇に立つ直前の準備と2週間の学校での実習そして反省、とからなる。実習が実り豊かな経験となるように十分な準備を行う。そのため、今まで学習した「教科教育法」などの知識を生かしてより実践的な教科指導、生徒指導のあり方について具体的な用意や気持ちの準備をする。</li> <li>2. カリキュラム上の位置づけ:「教育原理」から始まった教職課程の仕上げの科目である。この科目では学校での実習指導者からの評価を参考に評価がつくことになる。あらゆる意味で、それまでに学校現場で十分に通用する能力・知識・技術が身につけていることが前提になる。</li> <li>3. 学びの意義と目標:学校運営の実際などについての講義をつうじて、実習生の勤務のあり方・心得などについての理解を深める。また、実習校の情報を収集しながら、より充実した教科指導のあり方について研究し、教材の準備などを進めてもらう。</li> </ol>	
<b>評価方法</b>	
実習校からの評価と報告および事前・事後の授業での取組み状況などから総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>高等学校教育実習 (A用)</b>	春 週1回 3単位
担当者：長崎 睦子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内容:本講義は(1)教育実習において適切な指導ができるように準備を行う(2)実習を体験する(3)実習を振り返りレポートを書き、英語教職課程の学生全体に対して体験報告をすることから構成される。そのために、まず教育実習の流れを把握し、次に教育実習で使用する教科書を使って教材研究、指導案の作成、模擬授業を行い、実習前にできるだけの準備をしていく。実習後は、今後の自分の教育活動・就職活動に活かせるよう、実習体験を振り返りまとめること、また、これから実習に臨む後輩のために報告を行うことを求める。</li> <li>2. カリキュラム上の位置づけ:教職課程における4年生の必修科目である。</li> <li>3. 学びの意義と目標:英語科教育法や教職課程のこれまでの講義で学んできた知識・知見と模擬授業で培ってきた経験を基に、実際の教育現場で「教師」として適切な指導を行うことが目的である。実習を通して様々な教育活動に携わり、現場を観察をし、生徒と接することにより、中学校・高等学校教育現場の日々の実態を知る。またその経験の中で、教師としての自分の適性を見極め不足していると思う部分は努力して改善していく。</li> </ol>	
<b>評価方法</b>	
出席20%、指導案・模擬授業30%、実習レポートと報告20%、教育実習日誌30%によって算出する。*評価内容は変更する場合があります。その場合は、授業内で説明をするので確認をすること。	
<b>教科書</b>	
『英語科教育実習生のためのミニマム・エッセンシャルズ』現代教育社	

<b>高等学校教育実習（J用）</b>	春 週1回 3単位
担当者：熊谷 芳郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>◆内容◆ 本講義は、本番の「教育実習」に備えて、実習の具体的内容、実習生としての心得、学校、また、学習の場をどう作るか、どう支援しよう指導するのかといった実践方法についての演習も行う。同時に、卒業後の教育職に就くための具体的な準備や手続きについても具体的に扱う。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆ 教職課程における4年生の必修科目である。高等学校での教育実習を控えて、これまでに学んだことを実践の場に生かし、それを検証するために、実践的な準備と結果の分析とを行なう。それによって、教育職として世に出るための総まとめとしてほしい。</p> <p>◆学びの意義と目標◆ 「教育実習」において、学校教育の現場に入り、「教師」として子どもたちの前に立つ。「実習」とはいえ、学校は、子どもたち一人ひとりにとってはかけがえのない学びの場であり、成長の場である。そのようなときに「教師」としてどのように出会い、その学習活動に携わったらよいかをつかみとってほしい。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席重視。授業に関する提出物50%、教育実習報告書の内容50%を基本として総合評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>高等学校教育実習（W用）</b>	春 週1回 3単位
担当者：中谷 茂一	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>福祉科教育法I・IIで学習した内容を応用し、高等学校における実際の2週間の教育実習とその事前・事後指導を行い、教育法の涵養を目標とする。</p> <p>教育実習の意義と心構え、事前準備、教育実習中の諸注意、実習日誌の留意点について学ぶ。</p>	
<b>評価方法</b>	
(1)出席 (2)レポート・模擬授業内容 (3)ディスカッション参加状況 (4)教育実習の内容 4点の総合評価による。	
<b>教科書</b>	
教育実習研究会 編『中学・高等学校教育実習ノート』協同出版	

<b>公民科教育法</b>	春 週1回 2単位
担当者：小川 洋	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容:まず「公民」教科の構成について、学習指導要領の変遷および現在の指導要領の内容について学習する。基本的知識として求められる。基本を抑えたうえで、実際の授業を前提とした学習を進める。そのため、授業の初期の段階で、模擬授業で扱いたいテーマを報告し、早い時期から十分な教材研究に努めてもらう。年間計画の作成、学期単位の授業計画、単元単位の授業計画などの計画作成をすすめる。後半の授業では、模擬授業を行うとともに考査問題の試作などもする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ:高等学校の「公民」の教育職員免許状取得に必要な必修科目であり、基本的に3年次に履修し、教育実習の準備の性格も持つ。</p> <p>3. 学びの意義と目標:より実践的な学習に取り組むことを通じて、教科指導に必要な知識と技術などを習得することを旨とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
授業の参加状況、授業計画表の作成、模擬授業などによって総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>公務員演習 I</b>	春 週1回 1単位
担当者：鈴木 潔	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 公務員試験の教養試験は、社会科学、人文科学、自然科学、数的・判断推理、文章理解・資料解釈など出題範囲が幅広いため、要領よく集中して学習をすることが求められる。本講義は、大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験に合格することを目的とし、教養試験に関する厳選された演習問題を実際に解くことで実力の養成を図る。また、演習問題に関連する時事問題の解説を適宜行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の一環であり、公務員試験の受験を志す受講者に対して開講されている。他の公務員講座関係の講義も併せて受講することを勧める。</p> <p>3. 学びの意義と目標 教養試験のアウトラインを把握するとともに公務員試験の1次試験に合格する実力を養成することを目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席状況などを含む平常点(50%)、復習時に実施する試験および最終試験(50%)によって評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>公務員演習Ⅱ</b>	秋 週1回 1単位
担当者：鈴木 潔	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>公務員試験の教養試験は、社会科学、人文科学、自然科学、数的・判断推理、文章理解・資料解釈など出題範囲が幅広いため、要領よく集中して学習をすることが求められる。本講義は、大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験に合格することを目的とし、教養試験に関する厳選された演習問題を実際に解くことで実力の養成を図る。また、演習問題に関連する時事問題の解説を適宜行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の一環であり、公務員試験の受験を志す受講者に対して開講されている。他の公務員講座関係の講義も併せて受講することを勧める。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>教養試験のアウトラインを把握するとともに公務員試験の1次試験に合格する実力を養成することを目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席状況などを含む平常点(50%)、復習時に実施する試験および最終試験(50%)によって評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>公務員講座(人文・社会)</b>	春 週2回 4単位
担当者：谷口 隆一郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>【内容】</p> <p>本講義は大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験の合格を目的としている。これらの採用試験は職種により試験出題科目は異なるが、教養試験は全職種の採用試験に共通し、警察官・消防官の採用試験は全国どこでも教養試験のみで第一次の合否が判定されている。教養試験を一般知識分野と一般知能分野とに分け、過去の出題傾向・実際の試験問題を分析した上で、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取り入れながら進めていく。本講義では一般知識分野の人文科学と社会科学を対象にして、特に過去において繰り返し出題されてきた頻出分野を重点的に取扱う。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。</p> <p>【学びの目標】</p> <p>公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。</p>	
<b>評価方法</b>	
中間試験および期末試験の結果で成績をつける。実際の公務員試験の合格ラインを基準に評価する。期末試験は、第16週目に行う。中間試験は、15週目を目安に実施する。	
<b>教科書</b>	
資格試験研究会編『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学』実務教育出版社 資格試験研究会編『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 人文科学』実務教育出版社	

<b>公務員講座(数的・判断推理)</b>	秋 週2回 4単位
担当者：谷口 隆一郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>【内容】</p> <p>本講義は大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験の合格を目的としている。これらの採用試験は職種により試験出題科目は異なるが、教養試験は全職種の採用試験に共通し、警察官・消防官の採用試験は全国どこでも教養試験のみで第一次の合否が判定されている。教養試験を一般知識分野と一般知能分野とに分け、過去の出題傾向・実際の試験問題を分析した上で、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取り入れながら進めていく。本講義では一般知能分野の核となる判断推理・数的推理・資料解釈を取り上げる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。</p> <p>【学びの目標】</p> <p>公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。</p>	
<b>評価方法</b>	
中間試験および期末試験の結果で成績をつける。実際の公務員試験の合格ラインを基準に評価する。期末試験は、第16週目に行う。中間試験は、15週目を目安に実施する。	
<b>教科書</b>	
資格研究会編『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 数的推理』実務教育出版 資格研究会編『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 新判断推理』実務教育出版 資格研究会編『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 文章理解・資料解釈』実務教育出版	

<b>公務員講座(専門A)</b>	春 週2回 4単位
担当者：谷口 隆一郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>【内容】</p> <p>この講義は市役所など地方公務員上級試験の合格を目的としている。公務員試験は、教養試験と専門試験から構成され、本講義は専門試験を対象としている。</p> <p>専門試験の科目としては、政治学、行政学、社会政策、社会学、国際関係、憲法、行政法、民法、刑法、労働法、経済原論、財政学、経済史、経済政策と極めて幅広い。過去の出題傾向・実際の試験問題を踏まえて、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取入れながら授業を進める。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。公務員の専門試験科目に関連の深い講義及び秋学期の公務員講座(専門B)も合わせて受講することを強くすすめる。</p> <p>【学びの目標】</p> <p>公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。</p>	
<b>評価方法</b>	
授業参加度(出席、質疑応答、等)50%、期末試験50%で、総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
『最新最強の地方公務員問題 上級'13年版』成美堂出版 (参考図書として)資格試験研究会『大卒程度 警察官・消防官スーパー過去問ゼミ 社会科学[改訂版]』実務教育出版	

<b>公務員講座(専門B)</b>	秋 週2回 4単位
担当者：谷口 隆一郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 この講義は市役所など地方公務員上級試験の合格を目的としている。公務員試験は、教養試験と専門試験から構成され、本講義は専門試験を対象としている。</p> <p>専門試験の科目としては、政治学、行政学、社会政策、社会学、国際関係、憲法、行政法、民法、刑法、労働法、経済原論、財政学、経済史、経済政策と極めて幅広い。公務員講座(専門A)に引き続き、過去の出題傾向・実際試験問題を踏まえて、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取入れながら授業を進める。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。公務員の専門試験科目に関連の深い講義も合わせて受講することを強くすすめる。</p> <p>3. 学びの目標 公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。</p>	
<b>評価方法</b>	
授業参加度(出席、質疑応答、等)50%、期末試験50%で、総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する 『最新最強の地方公務員問題 上級'13年版』成美堂出版 (参考図書として)資格試験研究会『大卒程度 警察官・消防官スーパー過去問ゼミ 社会科学[改訂版]』実務教育出版	

<b>公務員講座(文章理解)</b>	秋 週2回 4単位
担当者：大槻 岳	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 本講義は大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験の合格を目的としている。これらの採用試験は職種により試験出題科目は異なるが、教養試験は全職種の採用試験に共通し、警察官・消防官の採用試験は全国どこでも教養試験のみで第一次の合否が判定されている。教養試験を一般知識分野と一般知能分野とに分け、過去の出題傾向・実際の試験問題を分析した上で、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取り入れながら進めていく。本講義では一般知能分野の核となる文章理解を取り上げるとともに、二次試験で課される教養論文の対策にも触れていく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。</p> <p>3. 学びの目標 公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。</p>	
<b>評価方法</b>	
平常点(授業内で行う論作文演習を含む)20%、期末試験80%(21回以上出席した者のみ期末試験が受けられる)。実際の公務員試験の合格ラインを基準に評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>公務員講座演習C(人文・社会)</b>	春 週1回 1単位
担当者：鈴木 潔	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 本講座は、大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験に合格することを目的とし、教養試験で出題される一般知識分野(人文・社会)を対象に演習中心の授業形態をとる。過去の採用試験で実際に出題された問題について、受講者による自習を基本としつつ、出題傾向の把握と頻出テーマの解説などを適宜行うこととする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の一環であり、公務員講座(人文・社会)と並行して履修する学生、過去に公務員講座を受講したことのある学生、公務員試験マスター講座Ⅱ(キャリアサポートセンター実施)の受講者のみが本講座を受講することができる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 教養試験のアウトラインを把握するとともに公務員試験の1次試験に合格する実力を養成することを目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
平常点(出席状況および授業中に実施する小テスト)による。特に出席状況を重視する。	
<b>教科書</b>	
試験問題研究会編『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学』実務教育出版 試験問題研究会編『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 人文科学』実務教育出版	

<b>公務員講座演習C(数的・判断推理)</b>	秋 週1回 1単位
担当者：谷口 隆一郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 本講義は、大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験に合格することを目的とし、教養試験で出題される一般知識分野(数的・判断推理)を対象に、演習中心の授業形態をとる。過去の採用試験で実際に出題された問題について、受講者による自習を基本としつつ、出題傾向の把握と頻出テーマの解説等を適宜行うこととする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 公務員試験対策プログラムの一環であり、公務員講座(数的・判断推理)と並行して履修する学生、過去に同公務員講座を受講した学生、公務員マスター講座(キャリアサポートセンター実施)の受講者のみが本講座を履修することができる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 教養試験のアウトラインを把握するとともに公務員試験の1次試験に合格する実力を養成することを目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
平常点(出席状況+講義内で適宜実施する小テスト)で総合的に評価する。特に出席状況を重視する。	
<b>教科書</b>	
資格研究会編『判断推理がみるみるわかる! 解法の玉手箱 改訂版』実務教育出版 資格研究会編『数的推理がみるみるわかる! 解法の玉手箱 改訂版』実務教育出版	



<b>公務員特講(自治体研究A)</b>	秋 週1回 2単位
担当者：猪狩 廣美	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1 内容 最近の地方自治体を取り巻く状況を前提としつつ、 (1)公務員の仕事の特性 (2)自治体の業務の実態 (3)進路としての公務員 等について、実例を題材とする一方、バズセッション等を織り交ぜて理解を深める。</p> <p>2 カリキュラム上の位置づけ 公務員試験対策プログラムの一環として開講する講座である。 なお、現実社会においては、例えば民間企業へ進んだとしても、自治体との関わりは広範であり、その実情を理解することは重要であるとする。進路を選択する力を身につける意味から、公務員志望でない学生にも受講を期待する。</p> <p>3 学びの意義と目標 自治体が社会の中でどのような役割を担い、どのような事業を展開しているのか、理解を深めるとともに、その業務を担う地方公務員の取り組みを学ぶことを通して、自らの進路を考える一助としたい。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席状況 30% 一言メモ提出 30% (毎回の感想メモです) レポート 40% (詳細は授業で指示します)	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>公務員特講(自治体研究B)</b>	秋 週1回 2単位
担当者：北川 嘉昭	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>本講義は、福祉や教育、防災、街づくりなどの基幹的な施策に加え、タバコのポイ捨てやレジ袋規制、ゆるキャラやB1グランプリなどの活性化策、学校選択制など、全国の特徴ある施策について、その背景、期待される効果、課題等を考えることを通じて、今後の公共政策のあり方、自治体及び職員の役割について具体的にイメージする力を養うことを目的としている。</p> <p>(2)位置づけ 本講義は、自治体や公的セクターを就職の選択肢の一つと考えている学生が、公共政策に関する具体的なイメージをもち、就職へのモチベーションを高めるための導入科目として位置づける。</p> <p>(3)目標 地域社会の抱える課題、公共政策についての関心を高め、その解決に参画していこうとする意識を醸成する。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席 (80%) + レポート (20%) にて評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>高齢者福祉論</b>	秋 週2回 4単位
担当者：山口 圭	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。</li> <li>・高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。</li> <li>・認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。</li> <li>・高齢者の福祉ニーズについて理解する。</li> <li>・高齢者の将来推計、高齢化の速度、人口構成、平均寿命や健康寿命などを把握したうえで、少子高齢社会の課題について理解する。</li> <li>・高齢者福祉制度の発展過程と現在の制度体系について理解する。</li> <li>・相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度及び高齢者支援の実際について理解する。</li> </ul>	
<b>評価方法</b>	
定期試験(70%)・講義中のコメント(5%)・小テスト(25%)を総合的に評価する。出欠席および遅刻早退については、『社会福祉士養成施設等指導要領』に則り、単位認定を行う。	
<b>教科書</b>	
『新版・社会福祉学習双書』編集委員会 編『新版・社会福祉学習双書3 老人福祉論 高齢者に対する支援と介護保険制度』全国社会福祉協議会出版部 ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法2012 [平成24年版]』ミネルヴァ書房	

<b>高齢者福祉論A</b>	秋 週1回 2単位
担当者：山口 圭	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。</li> <li>・高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。</li> <li>・認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した相談援助活動の視点を習得する。</li> <li>・高齢者の福祉ニーズについて理解する。</li> <li>・高齢者の将来推計、高齢化の速度、人口構成、平均寿命や健康寿命などを把握したうえで、少子高齢社会の課題について理解する。</li> </ul> <p>【注意事項】 「高齢者福祉論B」を同時履修すること(どちらか一方のみを履修することは不可)。</p>	
<b>評価方法</b>	
定期試験(70%)・講義中のコメント(5%)・小テスト(25%)を総合的に評価する。出欠席および遅刻早退については、『社会福祉士養成施設等指導要領』に則り、単位認定を行う。	
<b>教科書</b>	
『新版・社会福祉学習双書』編集委員会 編『新版・社会福祉学習双書3 老人福祉論 高齢者に対する支援と介護保険制度』全国社会福祉協議会出版部 ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法2012 [平成24年版]』ミネルヴァ書房	

<b>高齢者福祉論B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：山口 圭	
<b>講義の目標及び概要</b> ・高齢者福祉制度の発展過程と現在の制度体系について理解する。 ・相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度及び高齢者支援の実際について理解する。 【注意事項】 「高齢者福祉論A」を同時履修すること（どちらか一方のみを履修することは不可）。	
<b>評価方法</b> 定期試験(70%)・講義中のコメント(5%)・小テスト(25%)を総合的に評価する。出欠席および遅刻早退については、『社会福祉士養成施設等指導要領』に則り、単位認定を行う。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 『新版・社会福祉学習双書』編集委員会 編『新版・社会福祉学習双書3 老人福祉論 高齢者に対する支援と介護保険制度』全国社会福祉協議会出版部 ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法2012 [平成24年版]』ミネルヴァ書房	

<b>高齢者保健福祉特論</b>	春 週2回 4単位
担当者：古谷野 亘	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈講義目標〉 高齢者の保健福祉は現在急速に変化しつつある。介護保険の施行は本質的な変化であったが、制度の改変は今後もさらに続くものと予想される。このような中では、現在の制度について知るだけでは不十分であって、その成立の背景や条件を正確に理解して、将来の方向を見通す力が求められる。そこで本講義では、高齢者保健福祉の歴史の変遷を、そのときどきの社会的諸条件と関連づけて取り上げ、現状と変化の方向を明らかにする。そしてその上で、最近の学会誌の論文の講読とあわせて、現在の問題とその解決に向けての方策を考究する。	
<b>評価方法</b> 授業への参加度30%とレポート70%により総合的に評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>国語科教育法 I</b>	春 週1回 2単位
担当者：熊谷 芳郎	
<b>講義の目標及び概要</b> ◆内容◆ 国語科という教科の歴史を確認したうえで、過去に教科内でどのような主張がなされたのかを学ぶ。その上で、教材研究の実際を体験しながら指導プランの作成を目指す。この一連の学びを通して、歴史的な認識に立った教科指導の在り方を体験的に学びとってほしい。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 教職課程における2年生の必修科目である。国語科教育法の最初の講義であり、学ぶ立場から学ばせる立場に変わることの意味を知識と体験を基に理解してほしい。それは、この後の教育に関する学習・研究に対して基本的な姿勢を作っていくことになるであろう。 ◆学びの意義と目標◆ 国語の教師として、高等学校あるいは中学校の教壇に立つとはどういうことであるのか、どうあるべきなのかを考える基礎を作っていきたい。	
<b>評価方法</b> 討議や学習指導プランづくりなどの授業中の活動および読書レポートなどの授業ごとの提出物40%、提出された授業プラン60%を基本にして、総合して評価する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>国語科教育法 II</b>	秋 週1回 2単位
担当者：熊谷 芳郎	
<b>講義の目標及び概要</b> ◆内容◆ 最初に、言語の教育とは何か、について考え、それぞれの考えを交換してもらおう。そこで考えた国語科教科観に基づいて、国語教育にかかわっていくうえで重要な方法論・指導技術等について、具体的に学ぶ。その過程で、現在の国語科教育が抱えている課題についても認識を深める。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 教職課程における2年生の必修科目である。国語科教育法Iで国語という教科がたどってきた道を学んだことを受け、教材研究の進め方や学習指導論について具体的に理解していくことによって、教科指導の基礎を確かなものにしていくことができるであろう。 ◆学びの意義と目標◆ 教材研修の進め方について理解することは、学習指導に対する自信を生みだし、その自信が教育という職業に対する新たな情熱を生むであろう。ただし、教えるということは、大きな責任も伴うものである。この授業を通して、そのことも自覚して行ってほしい。	
<b>評価方法</b> 発表などの授業中の活動に取り組むようす50%、レポートなどの提出物50%により、総合的に評価する。出席は重視する。	
<b>教科書</b> 文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』教育出版 川本信幹『新編 魅力ある国語の授業を創る』東京書籍	

<b>国語科教育法Ⅲ</b>	春 週1回 2単位
担当者：熊谷 芳郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
◆内容◆ 最初に言語の教育とは何かについて討議によって認識を深め、その後は国語科教育法Ⅱで使用した教科書を引き続き使用しながら、国語科指導の進め方を実践的に学ぶ。さらに、『学習指導要領』における国語科の位置づけについて確認し、「評価規準」の考え方を学ぶ。	
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 教職課程における3年生の必修科目である。これまで学んだことを受け、教材の着実な分析解釈を基にしつつも、あくまでも学習者を主体とした学習をどのように組織していくかを具体的に理解し、国語科指導法Ⅳや翌年の教育実習に備えていく。	
◆学びの意義と目標◆ 教材研究の実際と学習指導における計画性について、この授業を通して体系的に理解して欲しい。さらに、『学習指導要領』および「評価規準」の考え方を単に知識として頭に入れるのではなく、具体的体験的に身につけていくことができるようになることをめざす。	
<b>評価方法</b> 提出物40%、レポート40%、発表と研究討議への参加状況20%を基礎として、総合して評価する。出席も重視する。	
<b>教科書</b> 川本信幹『魅力ある国語の授業を創る』東京書籍	

<b>国語科教育法Ⅳ</b>	秋 週1回 2単位
担当者：熊谷 芳郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
◆内容◆ 各自が交代で模擬授業を行い、それを撮影したビデオをもとに、授業の展開の仕方や指導方法などについて相互評価を行い、その後討論を行う。	
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 教職課程における3年生の必修科目である。これまで学んだことを受け、教材の着実な分析解釈を基にしつつも、あくまでも学習者を主体とした学習をどのように組織していくかを具体的に理解し、翌年の教育実習、さらに教員採用試験に備えていく。	
◆学びの意義と目標◆ 『学習指導要領』および「評価規準」の考え方、あるいは様々な指導方法を学んできたが、それらを知識として頭に入れるのではなく、具体的体験的に身につけていくことができるようになることをめざす。	
<b>評価方法</b> レポート40%、発表と研究討議への参加状況60%を基礎として、総合して評価する。出席も重視する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>国際金融論</b>	春 週2回 4単位
担当者：柴田 武男	
<b>講義の目標及び概要</b>	
ボーダーレスの時代を迎え、実体経済の需要を遥かに越えた大量のマネーが世界を駆ける。ITの進化によって、国際金融手法の高度化、複雑化が促されている。2008年のリーマンショックに続く昨今の欧州債務問題に見られるように、国際金融の問題が世界経済に与える影響は非常に大きい。	
本講座は、それぞれが立場の違う国際金融の専門家3名が講師を務める、オムニバス方式を採用する。講座は、基礎編、応用編1、応用編2の三部構成となり、3名の講師が各部を担当する。基礎的な知識、理論の解説に始まり、各講師がそれぞれの経験を通じた実務現場を、様々な角度から語ることで、変貌する国際金融の姿を立体的かつ動的に浮き彫りにしてゆく。	
日本銀行で金融行政に携わった講師が基礎編を、三菱東京UFJ銀行で外国業務に携わった講師が応用編1を、そして丸紅で国際ビジネスのファイナンスに携わった講師が応用編2をそれぞれ担当する。	
<b>評価方法</b> 3名の講師それぞれの最後講義において、レポート課題が提示される。それらに対する提出レポート採点の平均点をもって、最終評価とする。たとえ出席してもレポート提出のない場合、その部分の採点は0点となる。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>国際経済論</b>	春 週2回 4単位
担当者：茂木 創	
<b>講義の目標及び概要</b>	
国際経済論では、主に現実の国際経済状況について平易に解説します。3限では統計、ニュースなどを用いて現実経済（実体面）を把握し、4限ではその背後にある理論面を中心に平易に講義します。	
国際経済に関心をもつ学生であれば誰でも受講が可能な入門レベルで、他の科目との関連を十分考慮いたします。	
現在、我々の生活を語る上で、国際経済の動向を無視して議論することはできません。本講義は、国際的な感覚を身につける上でも有意義な講義だと思います。最終的には、皆さんが新聞の国際面や経済面を抵抗なく読み進められるようなレベルを目標としています。	
<b>評価方法</b> 試験（50%）、出席および平常レポート（50%）。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>国際人権・人道法</b>	春 週2回 4単位
担当者：小松崎 利明	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>〈内容〉本講義では、世界各地に見られる、基本的人権が保障されない状況、あるいは武力紛争によって人々の生活や生命が脅かされる状況に対して、国際法の一分野である国際人権法や国際人道法がどのように取り組んできたのかを学習し、それらの現代世界における意義と問題点を考える。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉必修の専門基礎科目「法学」習得済みの学生が、人権および武力紛争に関する国際法についてより専門的に学ぶための専門科目の一つである。</p> <p>〈学びの意義と目標〉人権とは何か、なぜ人権尊重が重要なのか、人権の保護はどうすれば確保できるのか、さらに、現代世界において武力の行使はどのように規制されるのか、武力紛争下において人間の生命や基本的権利はどのように保護されるのかといった問題を、法的な視点から考察する能力を養う。</p>	
<b>評価方法</b>	
1. 平常点（レスポンス・シートの提出）20％ 2. 学習確認クイズ（授業内実施）30％ 3. 期末試験 50％	
<b>教科書</b>	
芹田健太郎・薬師寺公夫・坂元茂樹『ブリッジブック 国際人権法』信山社	

<b>国際政治史</b>	秋 週2回 4単位
担当者：中村 文子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 国際政治史では、主権国家が誕生したウエストファリア体制のはじまりから、国家間関係の大きな転換点となった2001年9月11日の同時多発テロまでを見ることで、21世紀の私たちの時代における国家間関係や地球規模の諸問題について、その歴史的背景に迫りながら理解を深める。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 国際政治学等を学ぶ上で、基礎となるものである。</p> <p>3. 学びの目的 現代の国際社会は、戦争、核兵器と軍拡、経済発展と貧困、環境破壊、難民といった地球規模の諸問題に直面している。このような問題を理解するためには、これらを現代の問題としてだけでなく、歴史的問題として認識する必要がある。講義では、現在起こっている様々な地球規模の問題と関連づけながら、国際政治史を学んでいく。</p>	
<b>評価方法</b>	
3分の1以上欠席した場合、不可とする。授業態度の悪い者は、出席回数を満たし、レポートが単位取得に必要な水準に達していても、授業中に退席させ、単位は与えない。レポートの課題は授業中に通知する。レポート80％、出席20％で評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>国際政治論</b>	秋 週2回 4単位
担当者：秋吉 祐子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>〈内容〉：地球上の人間存続の本質的要件である「食・農・環境・循環型/持続可能社会・世界平和」の世界観において食糧問題をキーワードとしてグローバルかつ複眼的に考察する。授業メニューは、(1) 同世界観において共通認識を持つための指定教科書の輪読プレゼンテーション（プレゼン）を行う。(2) 自主研究テーマのプレゼンを行う。(3) 各種文書（プレゼン時のレジュメ、プレゼンに関する論文、プレゼンのフォロワー評価等）の作成も行う。(4) 上記世界観に基づいたディベートも行う。(5) 適時に講義やVTR活用授業を行う。備考：レジュメ、論文等の課題はNet Commons（担当者と履修生間の双方向通信に使用するウェブサイト）を用いる。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉国際政治の専門科目であり、教職課程関連科目でもある。</p> <p>〈学びの意義と目標〉1. 上記テーマへの学習により人間社会の在り方を模索する。2. 受講生の主体的な問題発見・解決能力を育成する。3. 実社会でも有効な様々なスキルや能力を育成する。(AO・AV機器を活用した様々な形態の発表・発言のスキルや能力の育成等)</p>	
<b>評価方法</b>	
評価項目授業内外課題の全て（プレゼン・レジュメ・司会/質疑・応答・討論・ディベート・レポート・論文90％および授業態度10％）。但し担当日プレゼン・ディベートに無断欠席の場合は単位取得意思放棄とみなす。	
<b>教科書</b>	
ジュリアン クリブ『90億人の食糧問題』シーエムシー出版	

<b>国際地域開発論</b>	春 週2回 4単位
担当者：飯島 康夫	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 概要 この講義の目的は日本や海外の都市化・地域開発にかかわる諸問題に親しみ、歴史を通して都市化に対する対処の教訓等を学ぶことである。経済活動の国際化と地方分権化が望まれるなか、地方行政や地域産業の関係者が独自に地域振興の戦略的プランをもち、海外との経済・文化交流に直接関わるが増えるかもしれない。本講義はそのような将来の開発プランナーへの道に興味を持って頂くための一助にもなればと願って開講されるものである。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 都市化のあらましを、概説したものであり、欧米、アジア・アフリカの途上国、旧社会主義圏などを、概観する。選択必修の科目であり、経済学、政治学など、ある程度の、基礎的な科目を履修した後のの方が理解しやすいと思われる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 将来、自治体、NGO、JICAや青年海外協力隊で国内、海外の開発プロジェクト、あるいは、身近かなまちづくりを考え、実践していく上での必要な知識を積む一助とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
1 提出物(小論)を書くために、地域を調査し、まとまった考えを提示できるかどうか。(5割) 2 中間試験 (3割) 3 出席と貢献度(2割)	
<b>教科書</b>	
水岡不二雄編『経済・社会の地理学』有斐閣アルマ	

国際ビジネスの現場 A	春	週1回	2単位
担当者：柴田 武男			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>戦後の復興から世界第2位の経済大国となった日本の原動力として、国際ビジネスの現場を支えた元ビジネスマンたちが、自らの体験を語り、さらには、将来実業界での就職を希望する学生たちに対して、ビジネスへの基本的な心構えや、社会人の先輩としてのメッセージを送る。</p> <p>講座は、15コマより成るオムニバス方式を採る。各講師は、それぞれ違った産業界の出身者で、対象となる産業は、いずれも戦後日本の経済成長を大きく支えたものに着目する。</p> <p>戦後確立された日本経済の基礎構造と、さらにそれら基礎産業が、ビジネス環境の中でいかなる変貌を遂げようとしているかを学ぶ。</p> <p>本講座の続編として、秋学期開講の「国際ビジネスの現場B」があり、両講座を継続して受講することが望ましい。</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>総論を除く各講師の2回目の講義の最後に、講義にかかわるレポート課題が出される。それらに対する提出レポート採点の平均点をもって、最終評価とする。たとえ出席してもレポート提出のない場合、その部分の採点は0点となる。</p>			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

国際ビジネスの現場 B	秋	週1回	2単位
担当者：柴田 武男			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>国際ビジネスの現場で活躍した複数のビジネスマンOBが講師を務める、オムニバス方式の講座である。各講師が現役時代に携わった事業（産業）を、講義ごとのサブテーマとする。卒業後に実業社会を目指す学生たちに、生々しいビジネス現場の状況を語り、ビジネスへの心構え、そして社会人の先輩としてのメッセージを送る。</p> <p>経済がグローバル化する中で、日本企業がいかなる戦略と体制をたてて市場競争に立ち向かおうとしているのか。また企業で働くビジネスマンに必要とされるものは何か。本講座では、これからの日本経済を支えると期待される産業分野ごとに、変わりゆく市場環境にそれぞれが挑む姿を学ぶ。</p> <p>本講座の姉妹編である春学期開講の「国際ビジネスの現場B」と、あわせ講することが望ましい。</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>総論を除く各講師の2回目の講義の最後に、講義にかかわるレポート課題が出される。それらに対する提出レポート採点の平均点をもって最終評価とする。たとえ出席してもレポート提出のない場合、その部分の採点は0点となる。</p>			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

国際法	秋	週2回	4単位
担当者：山村 恒雄			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>(内容) 私たちが生活している社会には、秩序を維持するためにルール（法）が存在する。国内においては、国家の統治機構が特定の目的をもって法を制定し執行している。憲法や民法、刑法などの国内法がそれである。国際社会にも、秩序を維持するためのルールが存在する。しかしながら、国際社会には国内社会にあるような全体を統治する機構（政府）は存在しない。しかし、国際社会にもそのようなルールが存在する。それが国際法である。</p> <p>(カリキュラム上の位置付け) 今日のように私たちの日常生活が国際化し、また、国際社会を相手に経済活動が活発に行われるようになると、国際交流の専門家や国際的ビジネスマンはもちろん、一般の人々にとっても、国際社会の仕組みや国際法の知識を十分に理解することは重要である。</p> <p>(学びの意義と目標) この科目では、(1)国際法の基本構造について、(2)国家に関する国際法の規則について、(3)国家の領域に関する基本的な事柄とそれに対する国際法の取り組みについて、などの国際法の基本構造を中心に国際法に対する理解を深めていくことを、目的とする。</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>学期末の筆記試験で評価するのが原則とする。なお、学生諸君の意欲が乏しい場合には、授業中にも確認問題をすることも。その場合には、それも併せて評価するが割合は未定である。確認問題を行わないのが原則である。</p>			
<b>教科書</b>			
横田洋三編『国際法入門 [第2版]』有斐閣			

国際ボランティア入門 A	春	週1回	2単位
担当者：金沢 はるえ			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 内容</p> <p>なぜ、国際ボランティアが必要とされているのかを理解してもらうため、開発途上国がどんな問題を抱えているのか、私たちの生活とどのようなつながりがあるのかということ、ワークショップ形式で考えていきます。また、こうした問題に対して、私たちに何ができるかを考えていきます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>「国際ボランティア入門B」と同様に、入門的な位置づけです。私たちの生活と途上国のつながりやその問題を理解し、ボランティアとしての関わり方を考えていきます。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>途上国の人々と協力・共生していくために、私たちに何ができるかを考えていきます。国際ボランティアとして関わりたいと思っている学生に、ゲストから話を聞き、ボランティアの多様なあり方を紹介します。また、現在自分の持つ資格や、将来就く職業が、国際ボランティアへの一歩を踏み出すきっかけとなるように、と考えています。そのため、途上国の抱える問題や問題解決の基本的な視点を学んでいきたいと思っています。</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>出席(50%)、レポート(30%)、授業の終わりに書いてもらう小感想文(20%)で評価します。</p>			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

<b>国際ボランティア入門B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：金沢 はるえ	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>なぜ、国際協力が必要とされているのかを理解してもらうため、開発途上国が抱えている人権・環境・開発などと、その根本にある貧困とはどういうことなのかを、ワークショップ形式で考えていきます。また、こうした問題に対し、国際ボランティアがどのような活動をしているのかを紹介していきます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>「国際ボランティア入門A」と同様に、入門的な位置づけです。国際協力の対象となる、開発途上国の抱える問題と、それに取り組む支援のあり方を学んでいきます。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>開発途上国の人々と協力・共生していくために、私たちに何が出来るかを考えていきたいと思えます。そのために、国際協力に関わりたいと思っている学生に、異文化理解や貧困について、また自立のための支援のあり方を紹介していきます。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席(50%)、レポート(30%)、授業の終わりに書いてもらう小感想文(20%)で評価します。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>古典読解A</b>	春 週1回 2単位
担当者：網本 尚子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>【内容】この授業では、主に平安時代の文学作品を読み味わう。古語や文法の知識を深めるとともに、その時代の風俗や考え方についての講義を通して、古典を学ぶ上での常識を身につける。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】専門基礎科目群の選択必修科目のひとつであり、古典文学作品を学ぶための入門講座に位置づけられる。</p> <p>古典文学作品の研究を志す人は、必ず履修すること。</p> <p>【学びの意義と目標】私たちと同じ日本人が、平安時代にどのように生活し、どのような物の考え方をしていたのかを知り、現代日本の根底に横たわる、日本人としての共通認識や常識について理解を深めることを目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席点・平常点50% 試験50%	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>古典読解B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：網本 尚子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>【内容】この授業では、主に中世の文学作品を読み味わう。古語や文法の知識を深めるとともに、その時代の風俗や考え方についての講義を通して、古典を学ぶ上での常識を身につける。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】専門基礎科目群の選択必修科目のひとつであり、古典文学作品を学ぶための入門講座に位置づけられる。</p> <p>古典文学作品の研究を志す人は、必ず履修すること。</p> <p>【学びの意義と目標】私たちと同じ日本人が、中世においてどのように生活し、どのような物の考え方をしていたのかを知り、現代日本の根底に横たわる、日本人としての共通認識や常識について理解を深めることを目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席点・平常点50% 試験50%	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>古典日本語I</b>	春 秋 週2回 2単位
担当者：上宇都ゆりほ	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>【内容】『蜻蛉日記』の講読を通して、古典作品を理解する上で必要な基礎知識(文法・語彙・時代思潮・文化等)を身につける。と同時に作者である道綱母の苦悩を通して、平安時代の女性の生き方や当時の文化的背景などをじっくり研究し、日記文学の魅力を堪能する。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】本講義は古典研究(言語・文学・歴史・文化等)を目指す2年生以上の選択科目である。さらに日文の学生にとっては、第2外国語の選択必修科目であり、さらに教職を目指すものにとっては「教えるための古典」と並行履修をしてそこで学んだことの習熟をはかる科目でもある。それぞれの履修目的に応じて各自の到達目標を設定し、授業に臨んでほしい。</p> <p>【学びの意義と目標】目標の第一は、中古語文法の基礎を学び、辞書を片手に古典作品を読解できる力を養うこと。第二に「源氏物語」に先行する作品として、平安時代の貴族階級の女性によって創作された日記文学が日本文学史においてどのように位置付けられ、後世に影響を与えたかについても学んでほしい。</p>	
<b>評価方法</b>	
授業の終わりに毎回行う小テストを平常点として重視し(40%)、復習のための試験(中間試験ならびに期末試験)(60%)を総合して評価する。	
<b>教科書</b>	
右大将道綱母著・角川書店編『角川ソフィア文庫ピギナーズ・クラシックス日本の古典 蜻蛉日記』角川書店 松村明・坂梨隆三『わかりやすい古典文法改訂版』明治書院 『古語辞典か電子辞書(各自のものでもいい)』	

<b>古典日本語Ⅱ</b>	春 秋 週2回 2単位
担当者：高桑 佳典子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>〈内容〉『紫式部日記』の講読を通して、古典文法の習熟を図っていきます。『紫式部日記』は、古典作品の中でもかなり手応えのある文章ですが、読んでいくに従って古典読解の力をつけることとなります。授業では、古典文法の基礎からはじめ、動詞・助動詞を中心に解説するとともに、平安朝文学を生み出した、宮廷女房の見た華やかな上流貴族の生活への理解も深めていきます。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉古典研究を目指す2年生以上の選択科目です。さらに日文の学生の第2外国語の選択必修科目であり、教職を目指す学生にとっては「教えるための古典」と平行して履修し、古典日本語の習熟をはかる科目となります。「古典日本語I」を履修済みの学生を対象とした講座です。</p> <p>〈学びの意義と目標〉古典作品を辞書を引きながら適切に読解できる文法力を養うこと。『源氏物語』は最近映画化され注目されている作品ですが、その『源氏物語』を執筆し、平安文学の頂点を極めた「紫式部の体験した世界」を知ること目標にしています。これにより、『源氏物語』を初めとする古典文学へアプローチする力を高めていきます。</p>	
<b>評価方法</b>	
平常点（授業参加、授業時の提出物40%）と、中間試験・期末試験（各30%）で評価します。	
<b>教科書</b>	
松村明・坂梨隆三『わかりやすい古典文法』明治書院	

<b>こども学</b>	秋 週1回 2単位
担当者：金谷 京子/井上 知洋	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>こども学は、教育学、小児医学、福祉学、心理学、社会学、家政学、環境学などさまざまなこどもに関わる分野から包括的にこどもにアプローチする学問である。本講義ではこどもに関する歴史から現代のこどもの問題について言及し、こどもが社会のなかで健やかに育ち、学び、遊び、参加していくにはどのようにしていったらよいか、こどもの視点を大切にしながら考えていく。</p>	
<b>評価方法</b>	
レポート、テストをもって総合評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>こどもと文化</b>	秋 週1回 2単位
担当者：寺崎 恵子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1 内容</p> <p>こどもは育てられ・育つ者である。その育ちの過程に、文化はどのように関わりうるのだろうか。こどもは、私たちおとなの目にどのように映る人たちだろうか？ こどもは、どんなところに・どのようにして居る人たちだろうか？ こうした問題意識をもって、こどもとして生きている人たちのおもしろさを把握してみたい。</p> <p>2 カリキュラム上の位置づけ</p> <p>日本文化学科の学生を対象として開講される科目である。</p> <p>3 学びの意義と目標</p> <p>こどもを把握することは、おとなとして生きている私たち自身のことを確認することでもある。こどもを改めて見つめてみると、自分自身に新たな発見が起こることがある。それが、この学びのおもしろさである。そのおもしろさを、共に感じてみたい。</p>	
<b>評価方法</b>	
小レポート(5点×14回=70点)と期末課題(30点)とをあわせて評価する。期末課題については、初回に説明する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>子どもの遊びと発達</b>	春 週1回 2単位
担当者：梅津 迪子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>〈内容〉</p> <p>現代の子どもの遊びの現状を踏まえ、望ましい心身の発達とは何かを学ぶ。遊びが成立する条件は「空間・仲間・時間・方法」であるが、社会の変容にともない子どもの世界は大きく変化している。変化の現状と背景、大人（親・保育者・地域）との関連も考える。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉</p> <p>子どもを取り巻く環境（物理的・人的）と心身の発達の在り方を検討する。その発達は一社会人（市民）の資質形成の視点から学ぶ。</p> <p>〈学びの意義と目標〉</p> <p>子ども時代に「どのような体験をどの位したか」という原体験は、その人の生き方や価値観にも影響する。ゆえに、遊びと発達の関係をさまざまな角度から考察する。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席率の重視 50点 授業に臨む態度・意欲 20点 ミニレポート、課題の提出 30点 総合的に評価する	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>こどもの危機対応</b>	春 週1回 2単位
担当者：金谷 京子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>こどもにとっての危機は、災害、事故、疾病、虐待、貧困、家庭崩壊、環境破壊とさまざまある。これらの危機に会ってしまった場合、こどもの心にもたらされる衝撃は大きい。こうした危機に会ったときにどのように大人はこどもをフォローしたらよいのか。また、このような危機を回避していくにはどのようにしていったらよいか検討していく。</p>	
<b>評価方法</b>	
レポート、テストをもって総合的に評価する	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>子どもの食と栄養A</b>	春 秋 週1回 1単位
担当者：菅原 歩美	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>〈内容〉 小児の健全な発育・発達には、適切な栄養摂取や食習慣の形成が必要不可欠である。本講義では、栄養学の基礎的な知識を身に付け、その上で小児の特徴について理解することを目的とする。また、食育とは何かを学び、得た知識を小児やその保護者にどのように伝えていくかを考察する。</p> <p>〈カリキュラム上の位置付け〉 保育士資格取得のための必修科目</p> <p>〈学びの意義と目標〉 基礎栄養を学び、子どもの食だけでなく、保護者や自身の食生活についても考えられるようにする。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席45%、レポート・小テスト20%、テスト35%	
<b>教科書</b>	
堤ちはる・土井正子『子育て・子育てを支援する小児栄養』萌文書林	

<b>子どもの食と栄養B</b>	春 秋 週1回 1単位
担当者：菅原 歩美	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>〈内容〉 小児の健全な発育・発達には、適切な栄養摂取や食習慣の形成が必要不可欠である。本講義では、まず保育者である自身の食生活について振り返る。その上で、各ライフステージに応じた栄養や食生活についての理解を深める。</p> <p>〈カリキュラム上の位置付け〉 保育士資格取得のための必修科目</p> <p>〈学びの意義と目標〉 ライフステージに応じた栄養と食生活を学ぶことで、子どもの生涯にわたる健康づくりをサポートできる力を身につける。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席45%、レポート・小テスト20%、テスト35%	
<b>教科書</b>	
堤ちはる『子育て・子育てを支援する小児栄養』萌文書林	

<b>子どもの保健演習</b>	春集中 1単位
担当者：福田 里美	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>〈内容〉 子どもの健康保持増進および疾病罹患時や回復期に必要な援助技術を体験的に学ぶ。また、集団や個々のニーズに合わせた健康教育を実施できるよう、計画書の作成や教材作りを通して実践方法を学ぶ。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 「子どもの保健I・II」で学んだ理論を踏まえて実践できる応用的能力と技術を習得する。保育士資格取得のための必修実習科目である。</p> <p>〈意義と目標〉 多様な保育サービスが求められている現代社会では、子どもの健康な時の援助だけでなく、疾病罹患時などの子どもの姿を理解した個々に対応できる援助内容を実践できることの意義は大きい。このことを踏まえ、集団あるいは一人ひとりの子どもへの保健行動が実践できるスキルを身につけることを目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>(1)出席状況10%</p> <p>(2)演習態度、レポート30%</p> <p>(3)試験60%</p>	
<b>教科書</b>	
榊原 洋一『子どもの保健実習ノート』診断と治療社	



子どもの保健A		春集中	秋集中	2単位
担当者：小林 京子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容： 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を知り、子どもの心身の発達や生理機能・運動機能の発達と生活の中での発育・発達支援、子どもの病気や事故の特徴とその予防方法等の基礎を理解する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ： 保育士資格を取得するための必修科目である。子どもの保健に関する基礎的な科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標： 保育における子どもの健康の意味を認識し、保育実践における保健活動の重要性を理解する。子どもの心身の健康問題の原因が、養育環境や養育方法にあることを認識し、それらの問題に適切に対処し、保健活動を通して子どもやその家族を支援できるようになる基礎を習得する。また、子どもの病気や事故の特徴についての基礎を理解する。</p>				
<b>評価方法</b>				
試験80%、授業参加度（20%）により評価する。				
<b>教科書</b>				
竹内義博、大矢紀昭編『よくわかる小児保健（やわらかアカデミズム・わかる）シリーズ』ミネルヴァ書房 加藤忠明、岩田力著『図表で学ぶ子どもの保健〈1〉』健帛社				

子どもの保健B		春	秋	週1回	2単位
担当者：平田 美佳/平田 倫生					
<b>講義の目標及び概要</b>					
<p>1. 内容：健康な子どもの心身の発達や生理機能・運動機能の発達、生活のなかでの発育・発達支援について理解する。また、子どもの病気の特徴やその予防、病気や障がいを持った子どもの理解とその支援、医療現場での保育の重要性や医療と保育の連携について学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：保育士資格を取得するための必修科目である。小児保健に関する「小児保健A」や「小児保健実習」と連動する。</p> <p>3. 学びの意義と目標：保育における子どもの健康の維持・増進の意味を理解するとともに、保育士の役割の重要性について認識する。子どもがかかりやすい病気、子どもに多い症状、子ども特有の心身の変調の表現を理解することで、保育現場で子どもの病気予防、早期発見、早期対処ができるような基礎知識を習得する。また、子どもの発育・発達や健康問題は家庭環境や家庭での養育方法と密接にかかわっていることを理解し、子どものみならず家族を支援できるようになる基礎知識を習得する。さらに、医療現場における病気や障がいを持った子どもについての理解を深め、病院や施設における子どもの権利を守った生活の保障と支援、医療と保育の連携の重要性に理解する。</p>					
<b>評価方法</b>					
試験（80%）、授業への参加態度（出席率・積極的な発言や質問：20%）により総合的に評価します。					
<b>教科書</b>					
竹内義博、大矢紀昭編『よくわかる小児保健（やわらかアカデミズム・わかる）シリーズ』ミネルヴァ出版 母子保健事業団『母子健康手帳』母子保健事業団					

コミュニケーション学		秋	週2回	4単位
担当者：小笠原 尚宏				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(1)内容 私たちは自分自身や他者と、集団・組織と、多様な関わりの中で生きている。感情、意思、情報などを交換するコミュニケーションなしに、私たちの生活は成立しない。この講義では、「コミュニケーション」という視点を通して私たちの日常生活を捉え直し、多様な関係性とそのあり方について考える視座の形成を目的とする。具体的には、(1)基礎的知識の習得、(2)事例検討による実践的・実際的な問題解決のための視点と方法を学ぶ。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ 関連領域の学習に際して必要となる「コミュニケーション」を理解するための基礎的内容となる。また、たとえば地域社会論、家族関係論、組織論の入門としても位置づけられる。</p> <p>(3)学びの意義と目標 個人化、私事化の進行が指摘される現代社会にあって、あらためて絆をつなぐコミュニケーションの役割が注目されている。紐帯や関係性の喪失といった問題を理解し、さらには解決するために必要な知識の習得を目標としたい。</p>				
<b>評価方法</b>				
・期末試験またはレポート課題70%、小レポート課題（講義時間内に課す）30%。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

コミュニケーション論		秋	週1回	2単位
担当者：田村 貴紀				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容 この授業では、コミュニケーションとは何かを学問的に探求し、同時に、実践的なコミュニケーション能力の向上を目指します。授業では、実社会で皆さんが求められる対人コミュニケーションについて考察しその規範を社会的に考察します。高度の接遇力が要求される社会で、皆さんが心の健康を保ちながら働く為には、適切な自己認識・自己主張の方法を学ぶことが必要です。そこで認知行動療法について学習します。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 司書業務、会社、地域社会で活躍するために必要なコミュニケーションの学問的理解と、体験的理解を深める。</p> <p>3. 学びの意義と目標 現代社会におけるコミュニケーション問題の理解と、コミュニケーション能力の向上。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席+提出物 50% 期末レポート 50% 期末レポートに関しては、途中の段階で、著者がわからない形で学生相互批評を行う。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

<b>コミュニティ・ビジネスの現場</b>	秋 週1回 2単位
担当者：瀬名 浩一	
<b>講義の目標及び概要</b> (内容) コミュニティ・ビジネスを創めるには、地域の個性や魅力を再発見し、ビジネスを通じて地域の問題を解決していく意思が不可欠である。 2011年度は、NPOこの指とまれからワーカーズコレクティブによる福祉ビジネスの活動、NPOコスモス・アースから耕作放棄された農地を障害者の働く場所として再生した環境福祉、NPO環境ネットワーク埼玉から保育園の屋根に太陽光パネルを張って発電する市民共同発電、近江商人のまち滋賀県日野町の古民家に自ら住む米国人モア・オースティンさんからは街並み保全事業など「誰を助けるのか?」「何をしているのか?」地域経営の実情を聴き、将来諸君が「社会起業家」として独り立ちするために必要な準備について学んでいる。 (カリキュラム上の位置づけ) 経営系の専門科目。3、4年生の受講を推奨。 (学びの意義と目標) さまざまな分野の社会起業家たちから直にビジネス・ノウハウを学べる。	
<b>評価方法</b> 予定される7回の講演の最後にA4一枚で講演の内容をまとめることが課される。各自次の授業までに回答を作成し提出しなければならない。提出されたレポートは毎回講演者によって採点され、その平均点を持って最終評価とする。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>コミュニティ・ビジネス論</b>	春 週2回 4単位
担当者：瀬名 浩一	
<b>講義の目標及び概要</b> (内容) 行政に依存しがちな住民・団体の意識を変革し、ビジネスを通じて地域の価値を創造することが求められている。近隣を対象とするコミュニティ・ビジネスから始まり、地域、国、世界と拡大するそれぞれの空間規模で直面する社会問題を解決するための持続可能なビジネス(ソーシャル・ビジネス)となることが期待される。日本でも高齢者介護、子育て支援、医療、演劇、教育、環境、自然エネルギー、交通などの分野で育っている。それに伴い我々の働き方も、今までのように公共団体、企業などに終身雇用されるのではなく、将来起業して経営者として自立することが目標になってきた。チャンスを生かすためには、社会経済論、NPO経済論、起業論などを学ぶ必要がある。 (カリキュラム上の位置づけ) 経営系の専門(選択)科目。3、4年生の受講を推奨。 (学びの意義と目標) 起業のための組織作り、資金調達、地域への根付き方などを実践的に学べる。	
<b>評価方法</b> 出席点30%、小テスト40%、期末テスト30%	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>コミュニティ心理学</b>	秋 週1回 2単位
担当者：長谷川 恵美子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容: 具体的なコミュニティを取り上げ、コンサルテーション、クライシス・インターベンションをはじめ、関連する理論、技法を紹介しながら、それぞれのコミュニティの構成、現状、問題点などについてディスカッションしながら体験的に学ぶ授業である。 2. カリキュラム上の位置づけ: 人間福祉学科、心理系、基礎～応用科目である。 3. 学びの目標: コミュニティとは、人々が毎日を生きてゆく場所のことである。人の行動は社会的環境と切り離された状況で発生しているのではなく、人とその置かれた社会的環境との相互作用で成り立っている。本授業は、社会システムや環境面が人間の行動に及ぼす影響についての基礎知識を学び、人間にとって生活しやすい環境を整備するために、どのような環境改善、介入方法があるのかを自ら考えることを目標としている。	
<b>評価方法</b> 平常点(授業への参加、作業への取り組み方、授業中に出された課題の提出など)70%と学期末レポート30%により評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>コミュニティ政策特論A(商学)</b>	春集中 2単位
担当者：工藤 幸一	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 商学は、一般的に「商あるいは商活動」あるいは「商業」に関する学問だと考えられてきた。しかし、アメリカにおいて登場したマネジメント論、マーケティング論の進展をうけ、わが国においても生産から消費までを社会的な視点から体系的に研究する「流通論」が登場した。このことから商学も「流通活動」を研究対象とすることから流通科学の視点から講義を展開する。 2. カリキュラム上の位置づけ 流通は、消費者ニーズの多様化・個性化、さらに情報ネットワークの基盤整備などにより、その機能も高度化・複雑化し社会的役割も大きく変化している。近年は小売業の廃業によりシャッター商店街が問題になり地域社会における商業の社会的・経済的役割の再検討が求められている。コミュニティ研究の関連科目として欠くことができない。 3. 学びの意義と目標 本講では、流通についての基礎的機能・基本的事柄について現代的理解をすることを目指すと同時にコミュニティにおける商業施設・機能の重要性について理解する。	
<b>評価方法</b> 最終試験の点数(80%)に出席状況等(20%)を加味して成績評価する。ただし、受講者が少数の場合には、レポート提出により成績評価する場合もある。この場合はレポートの点数(80%)に出席状況等(20%)を加味して評価する。試験は持ち込み可とする。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>コミュニティとフィールドワーク</b>	春集中 2単位
担当者：庄嶋 孝広	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 フィールドワークは、社会調査の一つの方法です。現地社会(コミュニティ)に入り、人々と関係を築きながら、生活を観察したり、話を聞いたり、行事に参加したりして、調査地や調査対象について理解を深めていきます。本講義では、コミュニティ現場でのフィールドワーク演習を行います。	
2. カリキュラム上の位置づけ フィールドワークの考え方と方法の基本を学びます。卒業論文等で応用してください。	
3. 学びの意義と目標 フィールドワークは、まずもって他者に寄り添い、相手を理解しようとする方法です。よりよい職業生活、市民生活を送るうえでも、大いに役立つ作法です。	
参考文献 佐藤郁哉『フィールドワーク 書を持って街へ出よう』(新曜社)	
<b>評価方法</b>	
(1)講義への参加態度 (50%) (2)現地調査後のレポート、発表 (50%) 出席が2/3以上あることが必須条件ですが、出席条件を満たしても、講義への参加態度に著しく問題がある場合は、不合格もあり得ます。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>コンピュータ応用講座A</b>	春 週1回 2単位
担当者：二神 常爾	
<b>講義の目標及び概要</b>	
◆内容◆ データベースは大量のデータを整理したものであり、データベース・ソフトによりデータの検索やデータ同士の関連付けを行うことができる。授業では、代表的なデータベース・ソフトであるアクセスの基本的な機能について学習する。アクセスは大量のデータを高速に処理し、データの管理を効率的に行うことができる。また、アクセスとエクセルの連携を通して、互いの利点を生かしたデータ処理ができることを学ぶ。	
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 情報リテラシーを履修した学生を対象に、ノートパソコンを用いて実習を行う。	
◆学びの意義と目標◆ 企業の従業員や取引先の数が増大し、大量のデータを高速に処理する技術が必要になってきた。情報化技術の進展はそれを可能にした。例えば、商品の売れ筋把握や在庫管理などでデータの高速処理が行われている。データの高速処理の技術は、企業だけでなく、様々な組織で必要になっている。アクセスの中の様々な機能を利用することによって、データベースの基本的考え方を習得し、データ処理の基本技術を学ぶことができる。	
<b>評価方法</b>	
出席点(約35%) + 授業中の課題(約30%) + 期末試験(約35%)	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>コンピュータ応用講座B</b>	秋 週1回 2単位
担当者：二神 常爾	
<b>講義の目標及び概要</b>	
◆内容◆ ノートパソコンを用いて、ホームページ作成の言語であるHTML/XHTMLを学ぶ。ページにテキストや画像を挿入し、自分の好きなように配置できる。また、CSS(カスケード・スタイル・シート)を合わせて学ぶことにより、文字サイズや文字色、背景色などの書式を詳細に設定でき、ホームページの見栄えを向上させることができる。授業での学習により、ホームページを作成できるようになることを目指す。	
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 情報リテラシーを履修した学生を対象に、ホームページの作成の方法を学ぶ。	
◆学びの意義と目標◆ インターネットの普及とともに、コンピュータや携帯電話などの情報機器は、情報を受け取るための手段だけでなく、自ら情報を発信するための手段となった。ホームページは情報発信のツールとして古くから知られている。授業では、自らホームページをつくって情報発信できるようになることを目指す。これは、ブログやツイッターなどより新しい情報発信のツールに進むための第一歩と考えることもできる。	
<b>評価方法</b>	
出席点(約35%) + 授業中の課題(約30%) + 期末試験(約35%)	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>コンピュータ応用実習A</b>	春 週1回 2単位
担当者：鈴木 省吾	
<b>講義の目標及び概要</b>	
(1)Microsoft Excelの高度な操作法を学ぶ。基礎的な内容の復習からはじめ、Excelの機能を最大限に生かす使い方を習得する。	
(2)Excelの基本的な操作を既に学んだ学生が、より有効かつ幅広くExcelを使うために必要となる操作法を学ぶ。単なる表計算を超え、統計処理や文書作成が行えるようにする。	
(3)社会での実用に耐えうるExcelの操作能力を身につける。	
<b>評価方法</b>	
毎回の授業内の課題で評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>コンピュータ応用実習B</b>	春 週1回 2単位
担当者：二神 常爾	
<b>講義の目標及び概要</b>	
◆内容◆ ノートパソコンを用いた実習を行う。メール、ブログ、SNS、ツイッターなどの様々なコミュニケーション・ツールを利用してコミュニケーションを行い、それぞれの特徴を理解する。また、近年、ネット上でワープロソフトや表計算ソフトを利用することが脚光を浴びている。Googleが提供しているこの種のソフトを利用して、ネット上でのドキュメントの共有を行う。	
◆学びの意義と目標◆ インターネットやコンピュータ技術の発達とともに、様々なコミュニケーション・ツールが出現し、利用されている。これらのツールの多くは、情報の送り手だけでなく、情報の受け手も情報を発信できる双方向の特徴を持つ。双方向性は便宜性をもたらす一方で、一度発信した情報は回収できないことから、様々な問題が起きている。ルールを守りつつ、これらのツールを使いこなすことは現代社会に生きる我々にとって必要不可欠である。授業ではこれらのツールを実際に利用し、その特徴を体得することを目標とし、ネチケットについても学習する。	
<b>評価方法</b>	
出席点（約30%）＋授業中の課題（約40%）＋期末試験（約30%）	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>コンピュータ応用実習C</b>	秋 週1回 2単位
担当者：二神 常爾	
<b>講義の目標及び概要</b>	
◆内容◆ ノートパソコンを用いた実習を行う。デジタルカメラで撮影した静止画像や動画を、CDやDVDに書き込んだり、画像データを編集する方法について学ぶ。また、音声をこれらの記憶メディアに書き込む方法についても学ぶ。学習を通じて、自分で画像データや音声データを記憶メディアに取り込むことができるようになることを目指す。	
◆学びの意義と目標◆ デジタル技術の進歩とともに、静止画像や動画を記憶する記憶メディアは日進月歩のスピードで大容量になっている。これらの記憶メディアを利用すれば、高精細な画像を再生することが可能である。静止画像や動画などの記憶メディアとして、CD、DVD、BD（ブルーレイ・ディスク）などの光ディスクがある。授業では、デジタルカメラにより動画を撮影し、CDやDVDに画像を取り込む方法を学ぶことを通して、マルチメディアに関する基本技術を習得することを目標とする。このような技術は、情報化が急速に進む社会の様々な局面で今後ますます重要になると思われる。これからの社会人にとって必須の技術である。	
<b>評価方法</b>	
出席点（約30%）＋授業中の課題（約40%）＋期末試験（約30%）	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	